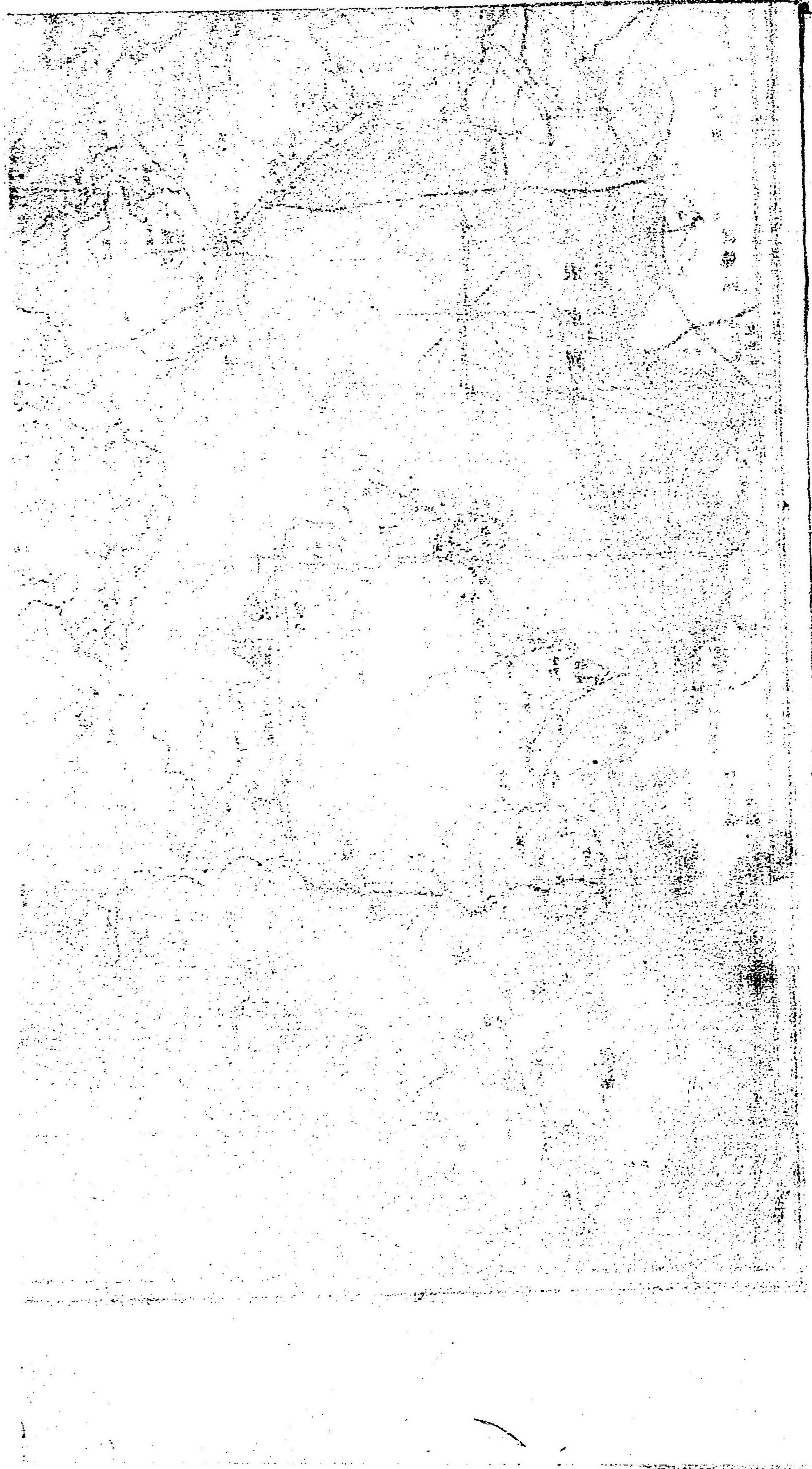




平 樂 縣

產 業 要 覽



Handwritten notes in the upper right quadrant of the right page, including a circled character and some illegible scribbles.

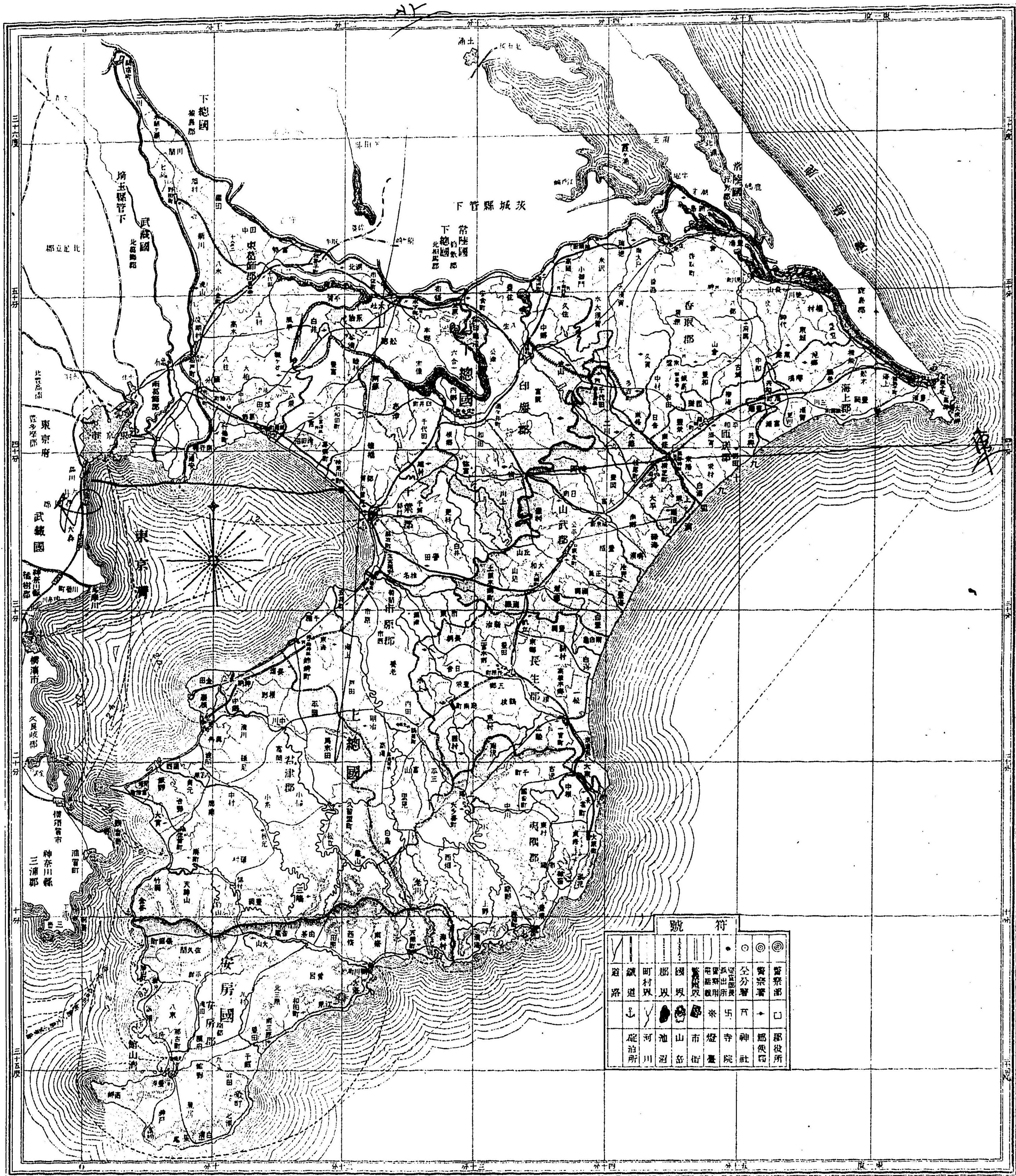
漢



Handwritten vertical text located below the drawing of the person.

Additional handwritten vertical text located to the right of the drawing.

# 千葉縣管内實測全圖



號符	
〰〰	國道
〰	道
〰	市界
〰	町界
〰	村界
〰	山
〰	池
〰	河
〰	川
〰	燈
〰	臺
〰	寺
〰	院
〰	社
〰	郵
〰	役
〰	所

325 087



製堂宗禮橋川今京東

應 縣 葉 千

# 産業要覽目次

富力	(一)
本縣の富力	(一)
生産力	(一)
現況	生産一億圓
大産業獎勵	(一)
普通農事	(五)
農業の地位	耕作反別
重要農産物	米
麥	大豆
落花生	蔬菜
甘藷	甘藷
甘藷	甘藷
諸先生	昆陽神社再建
馬鈴薯	果樹
梨樹	柑橘
桃樹	柿樹
枇杷樹	肥
料	縣立農事試驗場
農業生産調査	縣農會
銚子測候所	(三九)
耕地整理	(三五)
概説	整理反別
施行方法	揚水機利用
整理地成績	整理工事費
參考	(四一)
蠶絲業	(三五)
本縣の蠶絲業	養蠶
蠶種	製絲
縣立農事講習所	蠶種同業組合
林業	(四一)

目次

明治  
44. 5. 13  
内交

山林原野 林産物 縣基本林 縣模範林 林業講習 樹苗交付 造林補助  
畜産業 ..... (四七)

古來の大牧場 三牧場の今昔 牛 房州牛 牛種畜場 牛總數 馬 產馬獎勵  
馬種畜場 馬總數 豚 豚總數 家禽 家禽原票調査 家禽數 煉乳 牛酪  
水産業 ..... (五八)

全國第一位 漁業概要 漁船改良獎勵 賞旗 鱈 鯉 鮭 鮪 秋刀魚 鯛  
鮑 牡蠣 蛤蜊 馬珂 海苔 浦安海苔 海藻 鯨 及 豚 鮪 鮭 鯉 鰻  
水産試験場 水産講習所 韓海漁業の起因 韓海漁業團の成立 韓海漁業團  
の經過 千葉縣水産組合聯合會  
工業 ..... (七七)

概観 醬油 最上醬油 清酒 味淋 千葉縣酒造組合聯合會 織物 上總木綿  
銚子縮 製油業 澱粉業 由來と功績者 蕙及吹 建具類 竹細工 經木眞  
田 罐詰業 成田物産陳列館  
産業組合 ..... (八五)

設立獎勵 模範組合

# 産業要覽



富の富 皇天の特寵を享け、水陸の天産に富める我千葉縣は、其の富に於て幾何の實力を  
有し、帝國に於て如何なる地位に在る乎。縣勢を概観するに當りて、先づ之を知らざるべ  
からず。縣勢の基準となり、實力の要素たるべきものは、第一に土地と人口となり。而も  
土地の富の富 縣民の負擔力を知るに足る可き民有有租地の地價を計査するを以て最も適當  
とす。本縣の民有有租地を見るに、地價總額約四千四百五十萬圓にして、之を各府縣に比較すれ  
ば、全國の第七位に在り、更に田畑に就て之を見るに、田の地價は全國の第六位、畑の地價は第八位  
に在りて、要するに本縣の生産力を有する民有地は、全國に於て十位以内に在るなり。又人口は總數  
百三十五萬餘人にして、全國の第十位に在り、更に資力の如何に就き、所得税額を基礎として元資金  
を算出し、其の所得税を納めざる者に在りては、最少額の生活費を標準として推計したる富力府縣比  
較表を見るに、本縣の富力は實に四億六千六百三十萬圓にして、全國の第十二位に相當し、關東八州  
一府六縣中、東京府を除きては、本縣が首位に居れり。由是觀之、本縣の富力は、全國に於て有數の

地位に在りと云ふを得べき也。

### 生産力

現況 本縣の生産總額は、最近五ヶ年平均に據れば、一ヶ年約六千五百萬圓にして、各種産業獎勵の結果、年々産額増進の趨勢を示せり。生産中の主要産物は、第一米麥、第二魚類、第三醬酒、第四蠶繭、第五園藝作物及び畜産等なりとす。就中米麥は嶄然頭地を抜き、其の産額平均約二千六七百萬圓に上れり。現在の生産總額を以て本縣の人口に割當れば、一人の生産額約五十圓にして、全國の第二十五位に當り、平均以下に在り。本縣の産業は、尙大に發展の餘地あるを見るべきなり。

生産一億圓 本縣は地廣く、人多く、氣候溫和にして地味肥へ、海には無限の天産あり、陸には豐大の利源あり。海洋開拓すべく、沃土利用すべく、苟も人力をだに盡さば、自然を征服して生産を振興するを得べし。加ふるに形勝の位置を占めて、京濱の大都は指呼の間に在り、海陸の交通は自在の便を有す。此の天與の特恵と超越の便利とを享有する本縣は、現狀に甘んず可らずして、宜しく積極進取の方針を取り、以て大に産業の發展を期すべきなり。況んや世運の大勢は、頻りに産業の進歩を促し、本縣の産業は、尙發展の餘地大なるものあるに於てをや。惟ふに官民一致して産業の振興を圖り、奮勵協力して富力の増進に努めば、今後十年を出でずして、本縣の生産總額を一億圓に達せしむ

ること、敢て難きに非るべき歟。現在に於ける一人の生産額は、一年未だ五十圓に過ぎず。若し其の生産額をして將來五割を増加せしむるに至らば、一億圓の理想は、優に之を實現し得べき也。

大産業獎勵 本縣に於ては、其の經濟上の事情、小産業に力を用ふるよりも、大産業に力を盡すを以て有利得策なりとす。故に縣は此の方針を以て産業を獎勵し、各種の施設を爲せり。即ち米麥に對しては、土地の開墾、耕地の整理を獎勵すると共に、其の品質の改良、種類の統一を圖り、既に之が計畫に着手せり。水産は、外海に於ける漁撈、内灣に於ける養殖、及び製造物の發達を獎勵し、殊に遠洋漁業に就ては、獎勵資金を設け、模範漁船を造り、以て漁船の改良を促しつゝあり。漁港築設の計畫、亦方に講究中に屬す。養蠶業に於ては、當業者の智識を啓發し、技術を習熟せしむる爲め、蠶業講習所を設置し、一面には桑園の改良、及び蠶種、製絲の發達を圖るの施設を爲せり。園藝に關しては、本縣は其の地勢及び風土最も之が發達を圖るに適し、且將來有望の事業なるを以て、曩に其の主要産地の中心に園藝試験場を設置し、尋で又園藝専門學校を新設し、當業者の指導、園藝家の養成を圖り、大に果樹蔬菜の改良發達を促しつゝあり。畜産は、何れも古き沿革を有し、其の生産少からず。而して馬匹改良の爲めには、前年既に種畜場を設置し、畜牛の改良蕃殖の爲めには、之れが種畜場の新設を計畫せり。工業に於て、規模大に、産額巨なるは、醬油にして、本縣の醬油は天下獨歩と稱すべし。其の事業に對しては、敢て直接獎勵の要あるを認めざるも、而も之が原料及び製品の輸入

産業要覽

搬出に於て、交通の便否如何は、其の生産費に關するものあるや大なり。故に縣は之に對して間接に保護を與ふると共に、併て地方を開拓するの目的を以て、特殊の方法に依り、交通機關の設備を爲せり。以上は大産業に對する本縣の獎勵施設なるが、其の效果の着々現はれ來るに於ては、本縣の生産は、一大發展を遂げ、更に縣勢の上に一新紀元を開くを得べし。其の前途も亦樂しからずや。

御製

千萬の民よ心をあはせつゝ

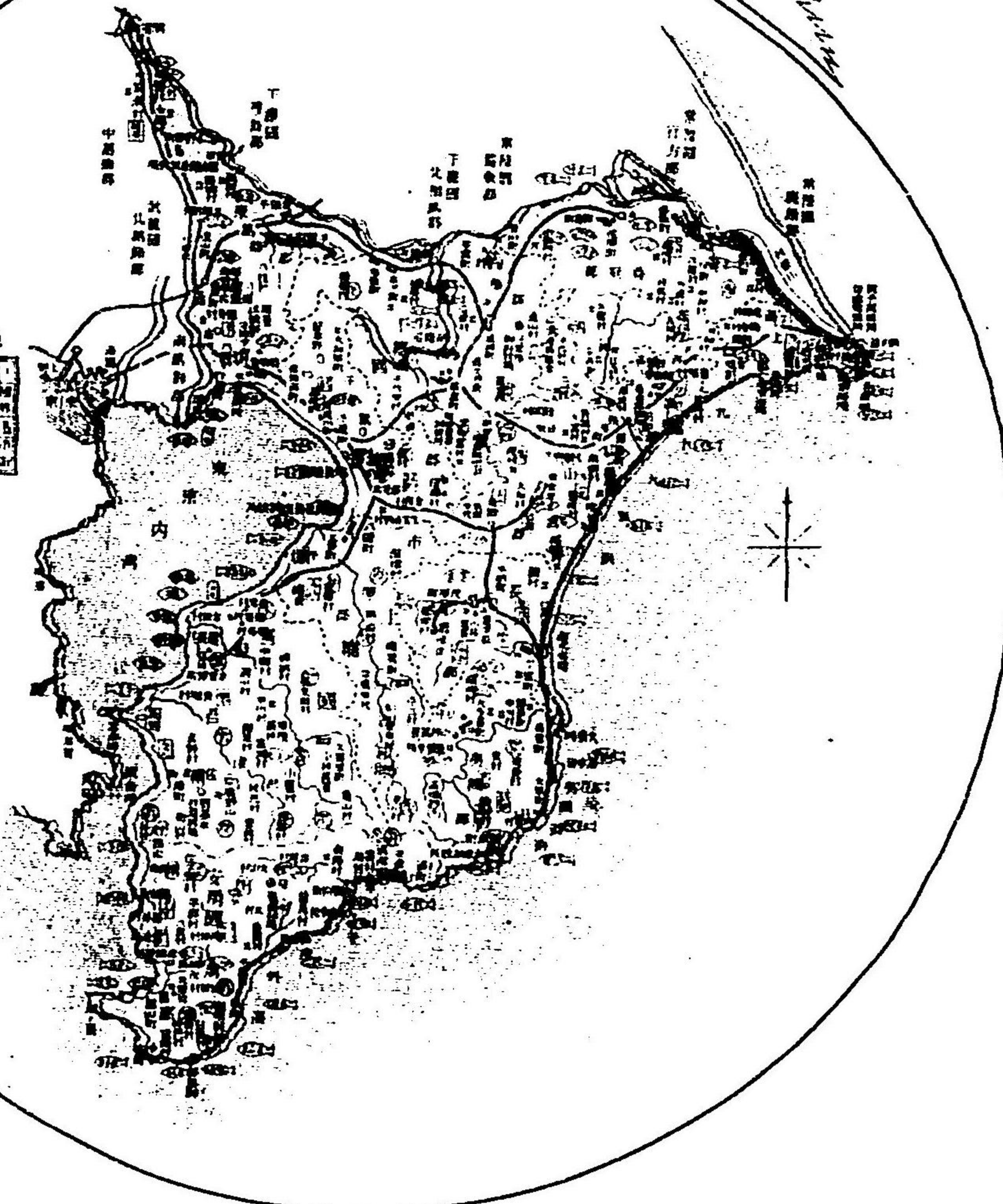
國に力をつくせとぞ思ふ

くるかねの的射し人もあるものを

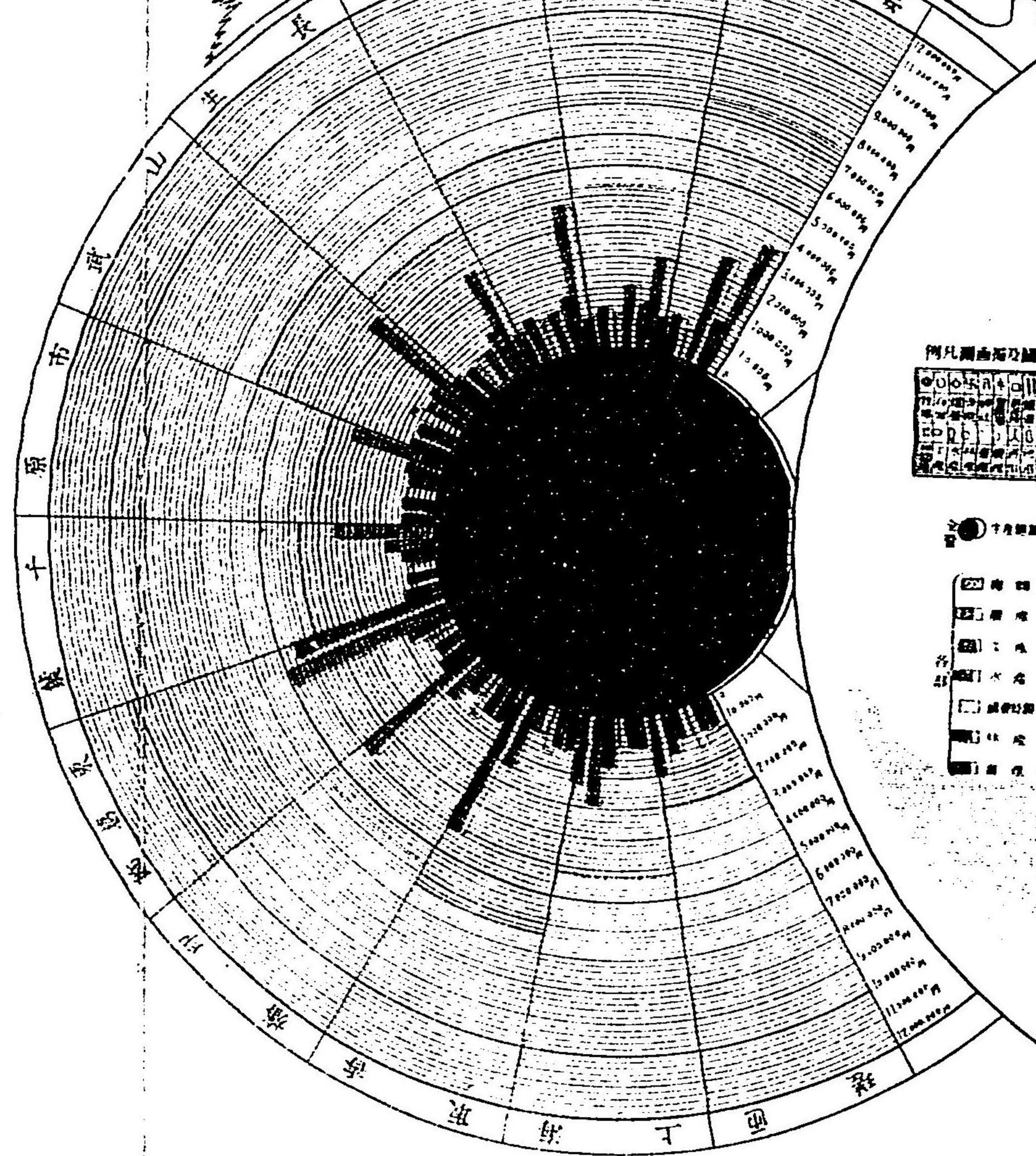
つらぬきとほせ大和こゝろを



子葉縣內產業分布圖



子葉縣全管及各郡生產額比較圖



此圖係根據子葉縣全管及各郡生產額比較圖... (Small text block at the bottom left, likely providing additional context or data for the charts.)

### 普通農事



業の地位 滾々たる富源、人力の開拓に任せ、海陸の産業豊かなりと雖も、現今本縣に於ける一大産業は、農業を以て其の首位に推さるべからず。農業の生産額は、本縣總生産額の平均五割以上に在り。此の大生産に従事する本縣農家の戸數は如何。最近の調査は左の數字を示せり。

農家戸數	自作	四九、九二一 <sup>戸</sup>
	自作兼小作	六七、八二四
	小作	四二、八一〇
其他従業者		二、三六九
	計	一六二、九一四 <sup>戸</sup>

即ち農家總戸數は、十六萬二千九百餘戸にして、之を縣下總戸數二十二萬七千二百餘戸に對比すれば、農家は實に七割二分弱に當れり。亦以て本縣に於ける農業が如何に重要な地位に在るかを知らるべきに非ずや。

耕作反別 十六萬餘戸の農家が、春耕夏耘する所の耕地は、之を他府縣と比較すれば、戸口の割合

産業要覽

産業要覽

に多く、其の田畑の作付反別は、

田作付反別 一〇二、九七〇<sup>町</sup>・八 畑作付反別 七八、〇六三<sup>町</sup>・四 計 一八一、〇三四<sup>町</sup>・二

にして、全管面積に比し、約百分の三十六に當り、農家一戸の平均耕作地は、一町一反餘に當れり。

重要農産物 米麥以下、一ヶ年産額十萬圓以上に達せる農産物の種類、數量及び其の價額を示せば、

左の如し。(四十二年末日調査)

種類	數量	價格
米	一、八四七、七〇七 <sup>石</sup>	一九、六三一、八二五 <sup>円</sup>
麥	七〇六、一一三	四、一〇八、三〇七
雜穀	七二、八四二	四〇六、〇九三
粟	二九、一六五	一六二、七七五
蕎麥	一五四、五二六	一、二三三、六五一
大豆	一八、三八三	一七四、九四五
小豆	一六、一四九	二八〇、一八四
蠶豆	六八、二九八	三四三、七三〇
落花生	四〇、八三三、七一二 <sup>町</sup>	一、九五二、一三四
甘藷	二、二六〇、六八一	一四八、一二〇
馬鈴薯	一九、四八七、三六四	三九九、七九三
蘿蔔		

種類	數量	價格
午麥	一、四七九、六〇四	一二八、七六四
青芋	四、七八四、七三三	三一九、九一七
葱	一、五七四、九四五	一八一、一八八
茄子	三、三四一、七一〇	二〇七、〇四〇
南瓜	一、六三五、八五六	一一四、八三八
葉烟草	一四七、三五六	一四六、七四五
製茶	六九、八七二	一四五、八九九
特用產物	二五、六七三 <sup>石</sup>	二三七、五六六

右の外、五萬圓以上の産額あるものは、食用農産物に於て、豌豆、大角豆、黍、胡蘿蔔、蓮藕、漬菜、胡瓜、西瓜、甜瓜、白瓜等なりとす。

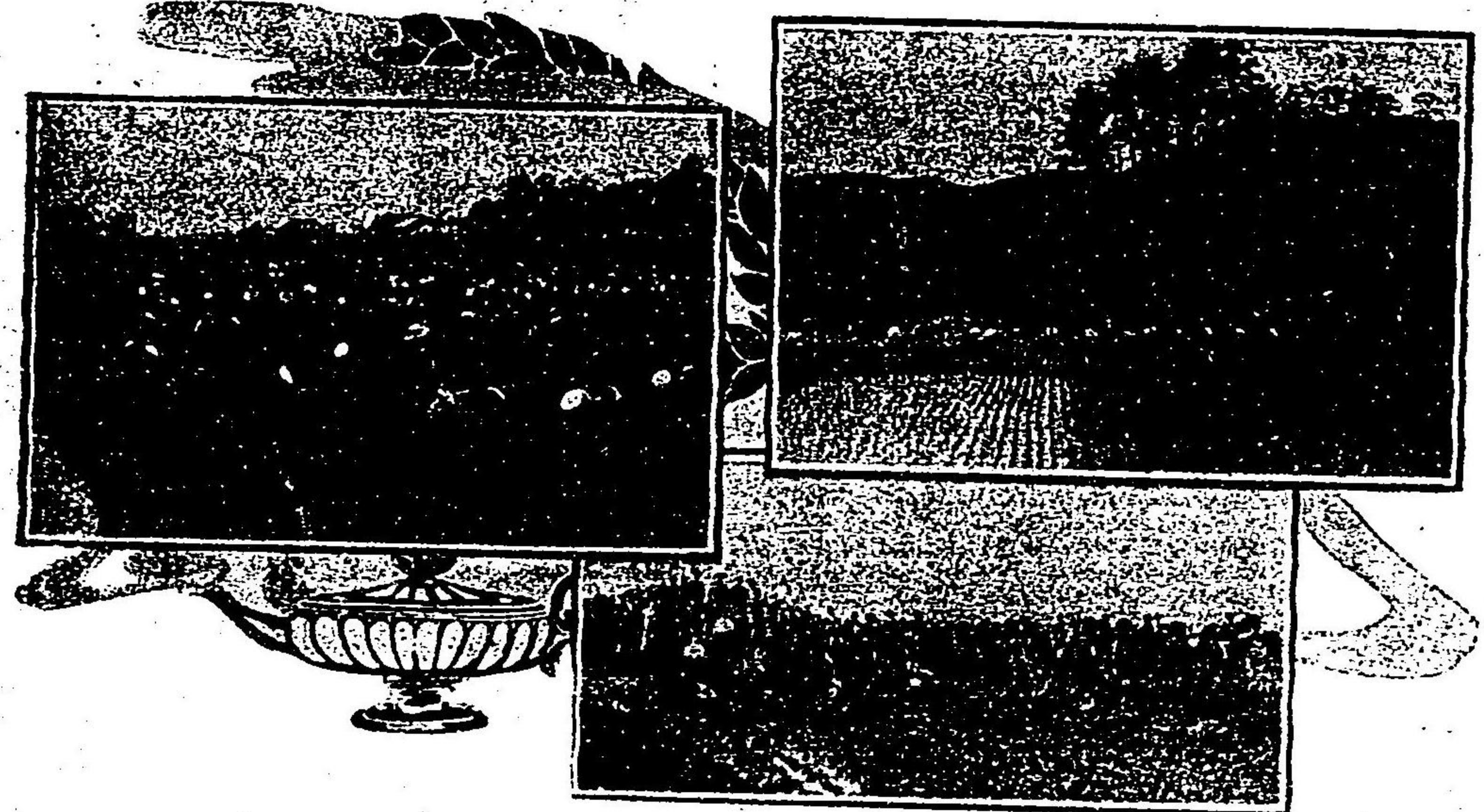
米 本縣農作物中、第一位を占むるものは米なり。其の作付反別合計十萬九千町歩にして、收穫高は豊凶に依り増減を免かれざるも、近年約百七十萬石の多きに上り、本邦に於ける千葉縣米の位置は、米作反別に於て第四位に在り、收穫高に於て第五位に居れり。米作は、本縣主要産物中の主要産物にして、其の産米の縣外に輸出するもの、毎年少くも四十萬石を下らず。本縣は實に全國中、有數の産米國と謂ふ可し。従つて米作の如何が、縣下經濟を左右すべき重大の關係あるは、以て知るべきなり。是を以て本縣は、米作に最も重きを置くと共に、之が耕地の整理、産額の増加に就ては、從來其力を

産業要覽

正條植

馬耕競犁會

小學兒童驅除蟲害



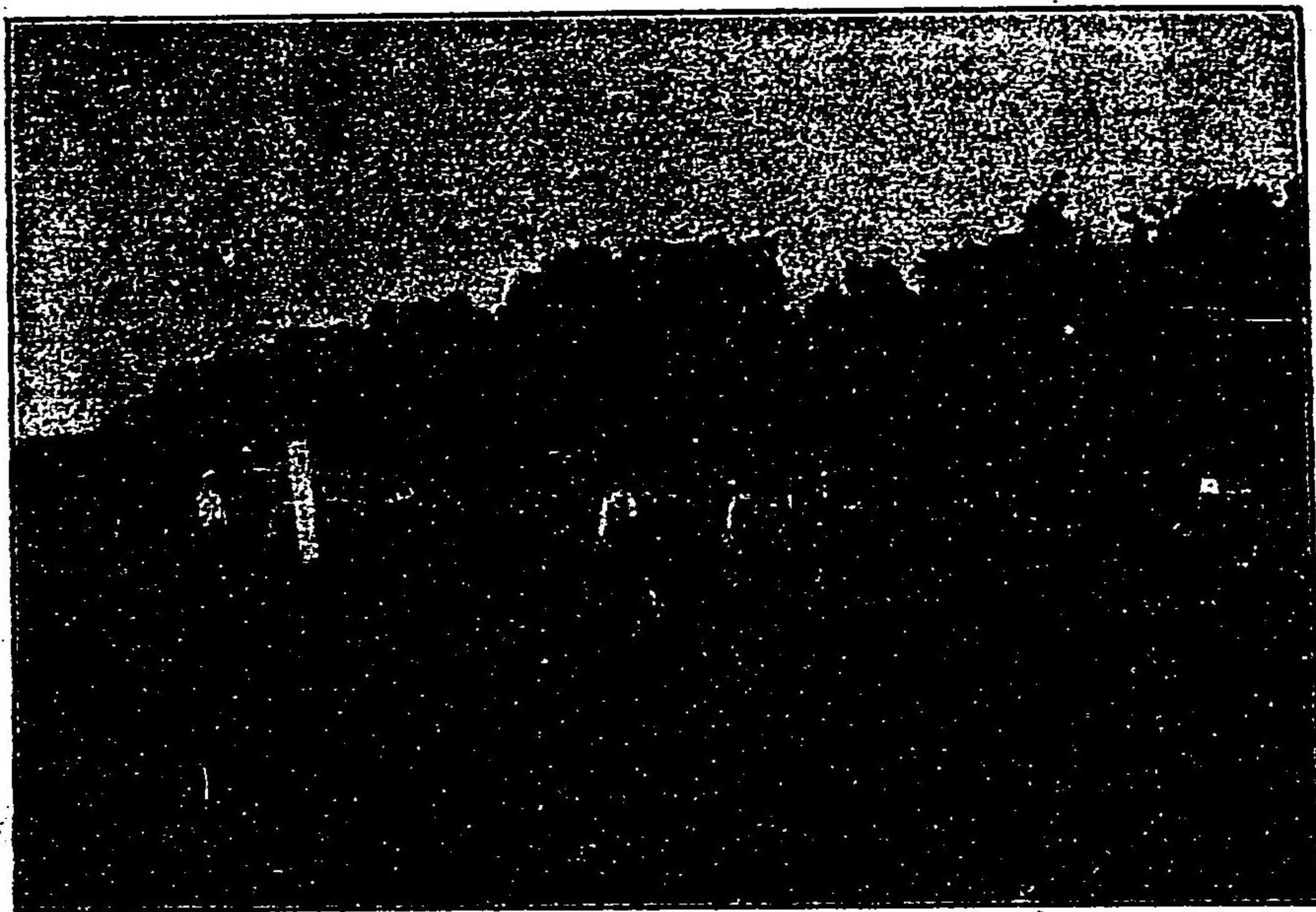
效すこと尠からざりし。明治三十四年、耕地整理工費補助規則を設け、縣費を補助して土地の改良を促し、縣農會に對しては、二十八年以來、補助金を交附して、所謂稻作三要項たる種籾鹽水選、短冊形苗代、及び正條植を勵行せしめ、近くは又卑濕地に對して暗渠排水を獎勵せしめつゝ、あり。日露戰役の當時は、戰時米作改良督勵委員及び同勵行組合設立規程を設けて、各郡に委員を配置し、從來獎勵の事項を一層督勵普及するに努め、官民協力の大活動を見たり。此他肥料の改良、農具の改善、害蟲驅除、馬耕競犁、俵裝改良、巡回講話等、専ら米作の改良を圖れり。然るに本縣の米は、其の種類雜駁にして統一を缺き、品質亦優良ならざるが爲めに、市場の聲價を高むる能はざるの遺憾あるを以て、去明治四十一年、米作改良の根本事業として、種類統一の計畫を立て、四十二年度より之に着手し、先づ各郡に原種試驗地を設け、種類の試験を爲さしめたり。其

の試験の結果は、農商務省西ヶ原農事試驗場に於ける試験の結果と略ぼ一致せるものあり、依て品質及び收量の如何を斟酌し、左の種類を以て本縣に最も適するものとなし、之を選定せり。

- 早生種 信州、信州金子
- 中生種 大和錦、關取、愛國、近江、
- 晩生種 神力、竹成、張、蟹目、

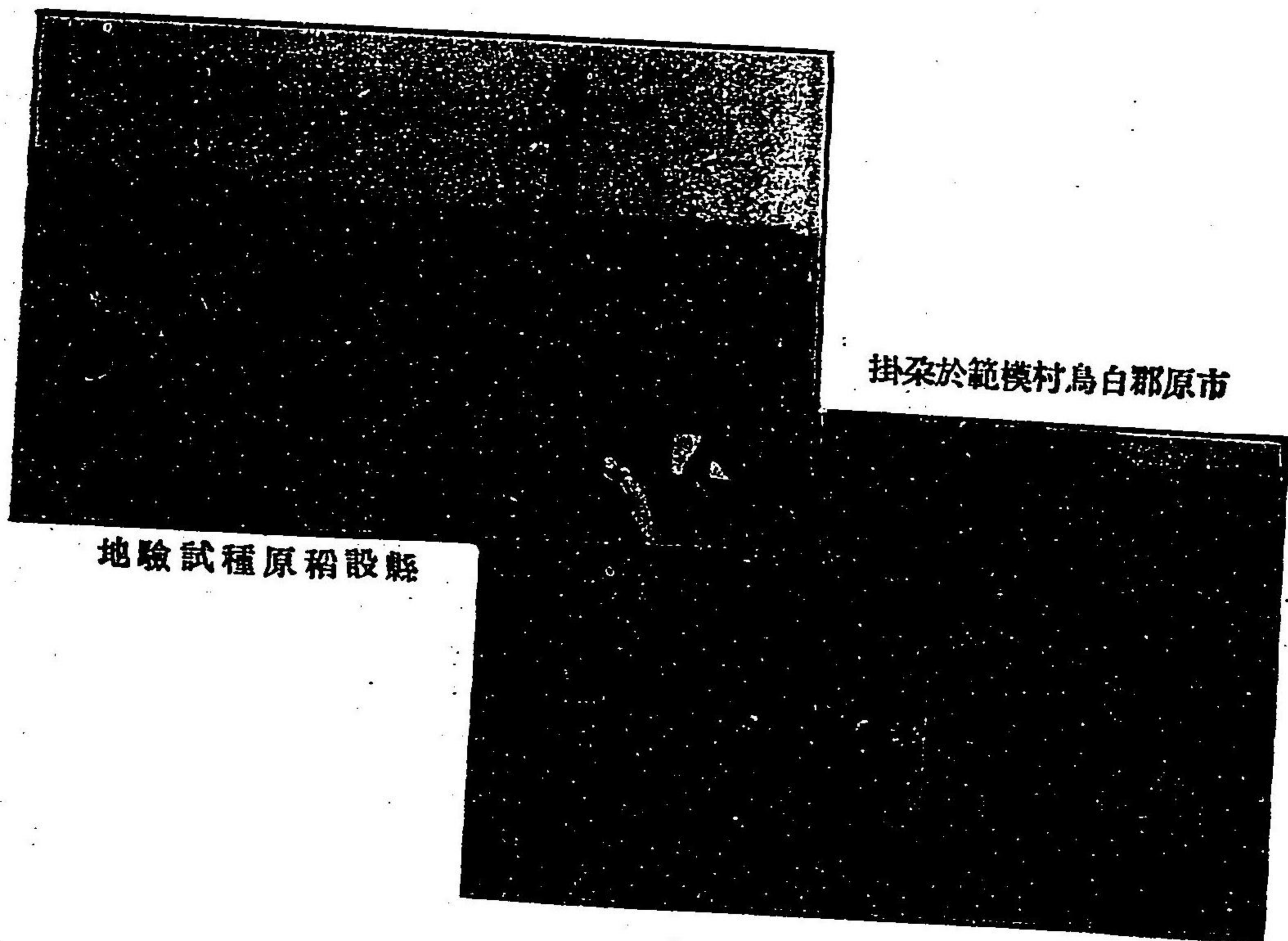
縣は此の種類統一の事業を紹成せんが爲め、從來の方針に基き、更に四十四年度より各郡に採種田を設け、原々種を耕作し、而して之より得たる種子を各農家に配布栽培せしむることとせり。是れ實に米作改良上の一大事業なるも、縣は此の方法を續行し、向ふ五ヶ年の後には、全縣下に互りて改良統一の目的を完成するの計畫なり。

之が事業の着手に關し、此に特筆すべきは、昨年八月稀有の水害に際し、罹災民救恤の御思召を以て下附せられたる恩賜金の用途、是なり。本縣に於ては、聖旨を奉體し、不幸の民衆をして普く天恩に浴し、彼等をし



暗渠排水工事作業

掛染於範模村島白郡原市



地驗試種原稻設縣

て深く且つ長へに感恩報謝の誠意を表せしめんが爲め、慎重の考慮を盡し、一面其の焦眉の急を救ふと同時に、一面其の生業發展の資に充つべき均霑的事業に對し、之を支出するを以て、最善の策を得たるものとし、乃ち縣の計畫せる米の改良統一を恩賜紀念の事業とし、恩賜金を之に拜用すると共に、民間仁人の災民に對する同情の義捐金をも之に活用して、品質優良の選種約二千六百石を、又罹災救助基金に依り、救助を受くべき罹災者に對しては、同様の目的を以て選種約三千五百石、合計六千餘石を購入配付したり、本縣の産米は異常の災害なきに於て年々收穫増加の傾向を呈し、去四十年は百六十七萬石、四十一年は百七十萬五千石、四十二年は百八十四萬七千石の收穫を見たり。最近平年作は百六十五萬四千九百石にして、之を前期平年作に比すれば約一割四分、前々期平年作に比すれば、一割七分

強の増加を示せり。即ち左の如し。

米收穫高増進比較

年次	收穫高
自明治二十二年至二十八年	一、三六九、一八六 <small>石</small> <small>(内最豐最凶二ヶ年を除き五ヶ年平均)</small>
自同 二十九年至三十五年	一、四二四、九七五
自同 三十六年至四十二年	一、六五四、九〇一

若し夫れ更に溯りて之を三十年前に比すれば、實に十割餘の増加を呈せり。斯の如く本縣産米が健全なる増收を呈しつゝ、發達するは、是れ主として如上の獎勵を加へたる結果ならずんばあらざるを信す。

麥 米に次ぐの主要農産物にして、其の作付反別は、五萬九千三百餘町歩、此の收穫高八十一萬九千餘石。作付反別に收穫高の多きに於ては、全國中第六位に在りて、價額約四百四十萬圓に達し、最近に於ける大小麥の輸出は、約十萬石を算せり。然れども其の品質の優良なるものに乏しきを以て、明治三十八年以來、縣農會に對し、米と同じく縣費より補助を與へて、種子の鹽水選、黒穗豫防、燒麥廢止、乾燥法の改良等を勵行せしむると共に、良種を配付し、且つ二毛作を獎勵したり。更に大麥の改良統一を圖らんが爲め、四十二年に於て七良種を選び、各郡に原種試驗場を設けて之を播下栽培せしめ、又技術員を各郡に派遣して、改良事項を督勵せしむる等、専ら收穫の増加と品質の改良とを圖れり。尙數年以來、麥酒用大麥ゴールデンモロンの栽培を獎勵し、今や千葉、印旛、山武、東葛飾、

君津、長生、匝瑳等の各郡に普及するに至り、毎年大日本麥酒株式會社に對して特約販賣を爲し、漸次良好の成績を收めつゝあり。

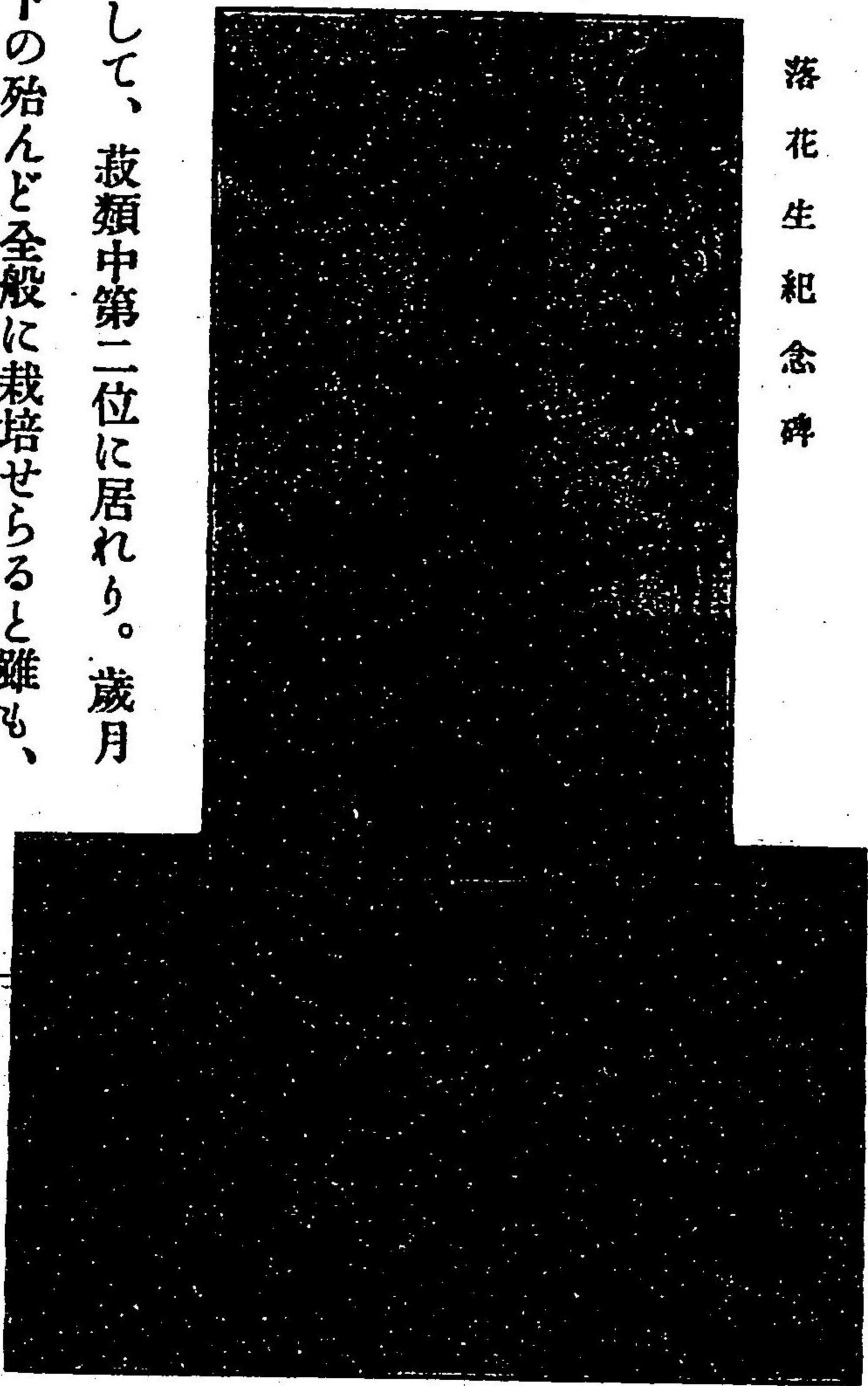
大豆 菽類中、最も其の産額多く、明治四十二年に於ける作付反別は、一萬八千九百餘町歩にして、收穫高十五萬四千五百石、此の價額實に百二十三萬三千圓に上り。其の産額の最も多きは、

落花生紀念碑

印旛、山武、東葛飾、香取、市原、長生の諸郡とす。而して長生に産出するものは、概ね品質優良にして、品評會又は共進會等に於て、常に優等の地位を占む。

落花生 本縣農作物中の特産にして、菽類中第二位に居れり。歳月と共に漸進的發達を爲し、今や縣下の殆んど全般に栽培せらるゝと雖も、

其の主要産地は、山武、匝瑳、海上、香取郡等にして、品種の最も優良なるは、匝瑳郡の産出なり。落花生の本縣に栽培せらるゝに至りたるは、明治九年山武郡南鄉村牧野萬右衛門が神奈川縣三浦郡中



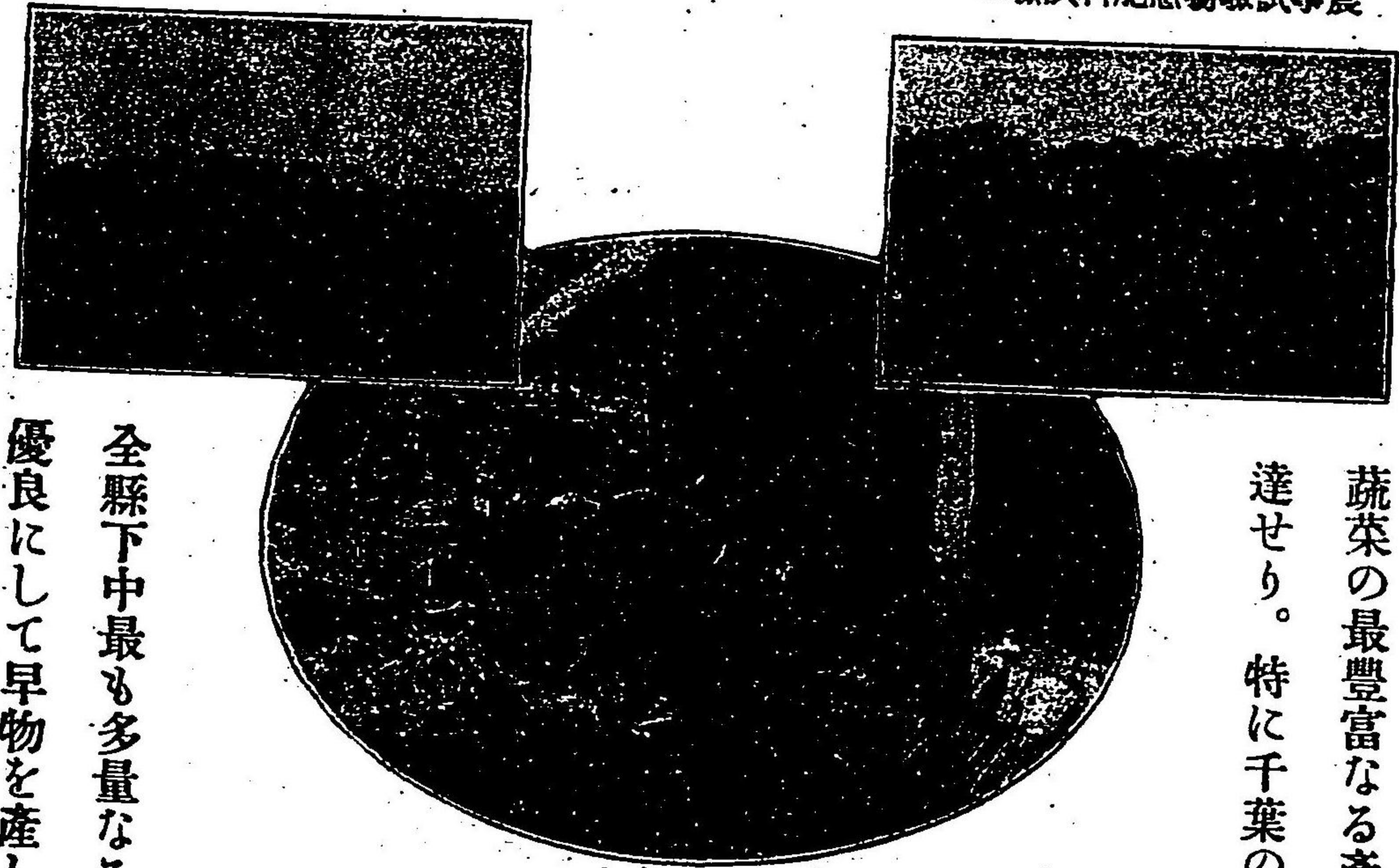
落花生の選粒

里村より種子を購入し、移植したるに始まり、次で翌十年縣は鹿兒島縣より種子を取寄せ、之が栽培を諭告奨勵したるを以て、此に斯業發展の起原を爲せり。現今山武郡が主産地の第一を以て稱せらるるは、専ら牧野が栽培の勸奨、販路の擴張等に盡瘁せる效果ならずとせず。明治十一年匝瑳郡の人金谷莊藏、本縣廳より種子の下附を受け、熱心に栽培を奨め、四隣に擴張を努めたる結果、遂に匝瑳、海上、及び香取をして主産地たるに至らしめたり。左れば明治十七年此等地方の有志胥謀りて、落花生の碑を氏の居村(共和村八幡神社内)に建設し、以て永世に氏の功德を表頌せり。今や落花生の産額は三十四萬圓に達し、四十二年の作付反別は二千二百餘町歩、收穫高六萬八千三百石あり。明治二十三年、清國に輸出したるを以て、海外輸出の嚆矢とし、爾來英米其の他にも販路を開始するに至れるが、本縣農産物中、外國輸出としては他に見るべからざる重要産物なりとす。依て去明治三十九年當業者は同業組合法に基き組合を設け、爾來縣に於ても之れに補助金を與へ、之れが改良發達を謀りつゝあり。

蔬菜 本縣の氣候土質は、能く各種蔬菜の成育に適應するを以て、古來蔬菜を栽培する地方多く、殊に近年海陸の交通機關發達し、加ふるに東京を始め、横濱及び横須賀等の急進的發達に伴ひ、其の需要著しく増加するに至り、爲めに本縣に於ける蔬菜栽培區域は逐年擴張され、現今全管下の栽培反別約二萬四千九百町歩、産額四百萬餘圓の多きに達せるも、尙漸次増加の趨勢を呈せり。縣下に於て

農事試驗場肥料試驗の一

同上の二



蔬菜の最豊富なる産地は千葉及び東葛飾の二郡にて、産額實に百四十餘萬圓に達せり。特に千葉の甘藷及馬鈴薯は、其の品質佳良にして産額他郡に傑出し、

東葛飾の蘿蔔、葱、野蜀葵、茄子、胡瓜類の産額、亦

頗る多大にして、常に東京の大市場へ輸出し、尤も聲

價を博せり。近時又該地方に西洋蔬菜を栽培する者多

く、殊に一昨四十二年、總武線中山驛附近に縣立園藝

試驗場の設立ありしを以て、前途益々有望たるに至れ

り。印旛郡に在りては、八街の開墾地を主とし、各地

に産出する甘藷、馬鈴薯、午莠、青芋、薯蕷、獨活等、

何れも産額著大にして、管内外への輸出高亦少からず。

匝瑳郡に於ける午莠、南瓜、西瓜、茄子等も亦有名に

して産額多く、特に大浦午莠と稱するは其の栽培區域

一局部なるも、古來より名聲高し。午莠の産額に於て、

全縣下中最も多量なるは夷隅郡なりとす。君津郡富津町の茄子、瓜類は、品質

優良にして早物を産し、郡人士の賞翫を得、又清川、巖根地方の葱、蓮藕は、

農家葱荷の状況

古來東京市場に聲價あり、蓮藕に於ては縣下第一の産地たり。安房郡北條町及び瀧田村地方の茄子、胡瓜は、促成栽培を以て其の名有り。以上の如く各郡何れも其の特色ありと雖も、之が栽培法に至りては、因襲の久しき未だ舊套を脱せず、市場に聲價を上ぐる能はざるが故に、縣は從來郡農會若くは其の他の團體をして此等の品評會又は共進會を開設せしめ、獎勵を爲したるを以て、近年漸く良品を産するに至れり。

甘藷 本縣の特産物にして、蔬菜中、産額最も卓越す。千葉及び東葛飾の二郡を主産地とし、其の品質の佳良なるは、世既に定評ある所なり。之が耕作反別は、縣下を通じて一萬三千三百餘町歩、收穫高四千八十三萬貫、價額實に二百萬圓に垂んとして、畑作農産中、麥に次げるの地位を占めり。京濱及び奥羽、北海道等に販出せられ、之を材料として又千葉地方に澱粉を製造せらる。

甘藷先生 甘藷の本縣に於ける、其の由來久しく、栽培二百年、今や重要農産物として、其の産額の多き殆んど全國に冠たり。本縣が甘藷の産地として、重要な地位を占め、多大の利益を享くるもの、是れ實に甘藷先生青木昆陽の遺徳に由らずんばならず。昆陽は江戸の人、名は敦書、文藏と稱す。我國蘭學中興の祖にして、専ら實業を貴び、經濟を重んじ、實踐躬行を主とす。其の『蕃薯考』を編述し、甘藷獎勵の必要を説き幕府に建言するや、大岡忠相の採納する所となり、命ずるに甘藷試作の事を以てす。昆陽依て江戸小石川藥園及び養生所に栽培すると共に、其の種子を本縣に携へ來り、當時忠相

の采領地たりし下總國馬加村及び上總國不動堂村(現今の千葉郡幕張町及山武郡豐海村)に移植せり。是れ本縣に於ける甘藷栽培の濫觴にして、實に享保二年の事なり。本縣に甘藷の栽培せられたるは、昆陽が特に試作地を二總の地に擇びたるに起因し、而して自ら其の術を指導し、之が普及を奨勵したるに由る。爾來人民の

青木昆陽先生の碑と甘藷荷造の實況



之を栽培する者多く、天明の飢饉に際するや、最も切に其の有益の作物たるを感じ、是より一層廣く行はれ、遂に今日の産額を見るに至りし也。本縣の昆陽に負ふ所亦大なりと云ふべし。昆陽歿する後、馬加の村民、其の恩を記し、徳を頌せんが爲め、祠を建て靈を祀り、芋神と崇め、弘化年中更に神社を建設し、毎年祭典を行ひしが、慶應年中社殿全く朽廢し、今や其の跡を見ざるに至る。明治四十年、天朝、昆陽の功を追賞し、特に正四位を賜はる、聖恩枯骨に及ぶ、誰か亦感激に堪へざらんや。

碑

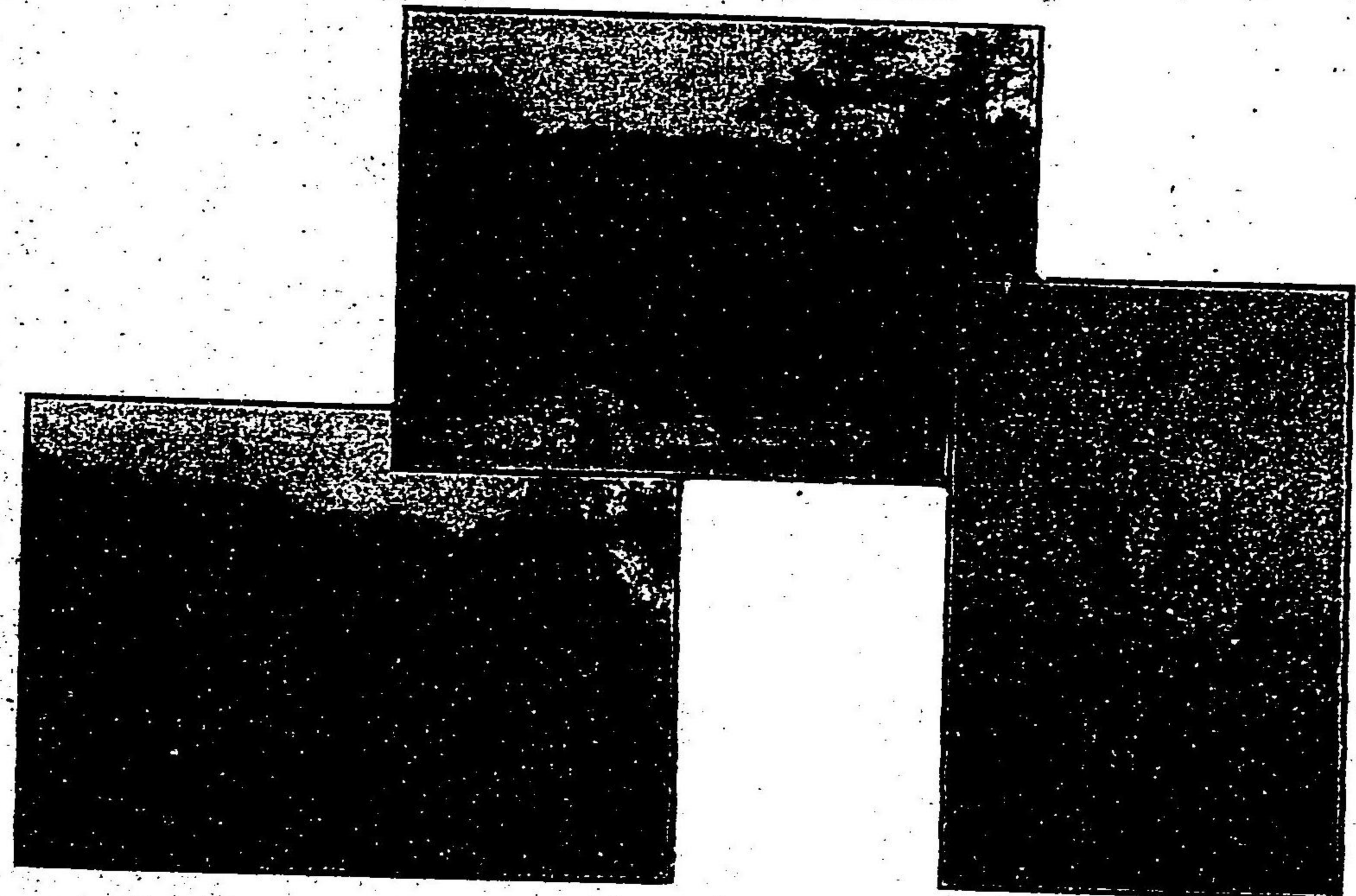
**昆陽神社再建** 本縣有志は、諸神の頽廢を慨し、昨春昆陽神社再建を發起し、社祠を幕張に建設すると共に之が維持保存を圖らんが爲め、昆陽神社保存會を組織し、目下各郡に互りて寄附を募集しつゝあり。去れば其の再建を見るも、遠きに非るべき歟。

**馬鈴薯** 東葛飾及び千葉郡地方には、古くより栽培せられたり。其の起源は明かならざれども、千葉町に在りては今より約二十年前、種薯を横濱より購入し栽培したるに始まれり。三十五六年頃は最も盛況を呈したりしが、近來價額低廉にして利益少きを以て、甘藷の如き長足の進歩を見るに至らず。最近の産額は二百二十萬貫、價額十四萬八千圓なり。

**果樹** 果樹の栽培は、昔時より各地方に行はれたりしが、殊に近時生活趣味の向上と一般嗜好の増加とは、著しく果實の需要を増加し、随つて利益亦尠からざるを以て、之が栽培區域は年毎に擴大せられ、最近に於ける栽培反別は二千五百町歩、産額五六十萬圓を下らざるの盛況を呈せり。其の主要果樹と認めらるゝは、梨、柿、柑橘、枇杷、桃等にして、梅、夏橙、栗、葡萄の如き亦侮るべからざる産額を有せり。然れども此等主要果樹の栽培法に至りては未だ進歩せず、故に品質亦劣悪なるを免かれざりしを以て、去明治三十九年度以來、縣農會に園藝技術員を置き、講習講話に、實地指導に、専ら當業者の智識啓發に努め、根本的改善を促がさしむる所ありたり。而して縣は更に明治四十二年、園藝試験場を東葛飾郡中山村に設置し、果樹、蔬菜に關する試験を行ひ、技術者をして之が研究を爲



富浦村地方柑栽培状況の一



アソーキの立仕ドツミラヒ

さしひる傍ら、當業者の智識を開發せしめ、果樹栽培の改良獎勵を爲せるを以て、漸次効果を收め、本縣果實の前途は將に大に發展するものあらんとす。

梨樹 縣下到處多少栽培せざるなきも、就中著名なるは、東葛飾郡にして、市原、安房、長生、匝瑳、君津の諸郡之に亞ぐ。東葛飾郡に於ける栽培の起源は、頗る古く、其の事蹟詳かならざるも、今を距ること約二百年前、八幡町川上善六なる者、諸國漫遊の途次、美濃國に於て梨樹を栽培せるを見、接穂を得て持ち歸り、之を嫁接したる後三年にして結實したるより、試みに江戸に送り鬻がしめたるに、案外高價なりしかば、苗木を近隣に配布して増植せしめ、天保弘化の頃最も隆盛を極め、遂に八幡梨の名聲を江都に博するに至りしなりと云ふ。東葛飾郡中の主要産地は、中山、八幡、市川、國分、大柏、

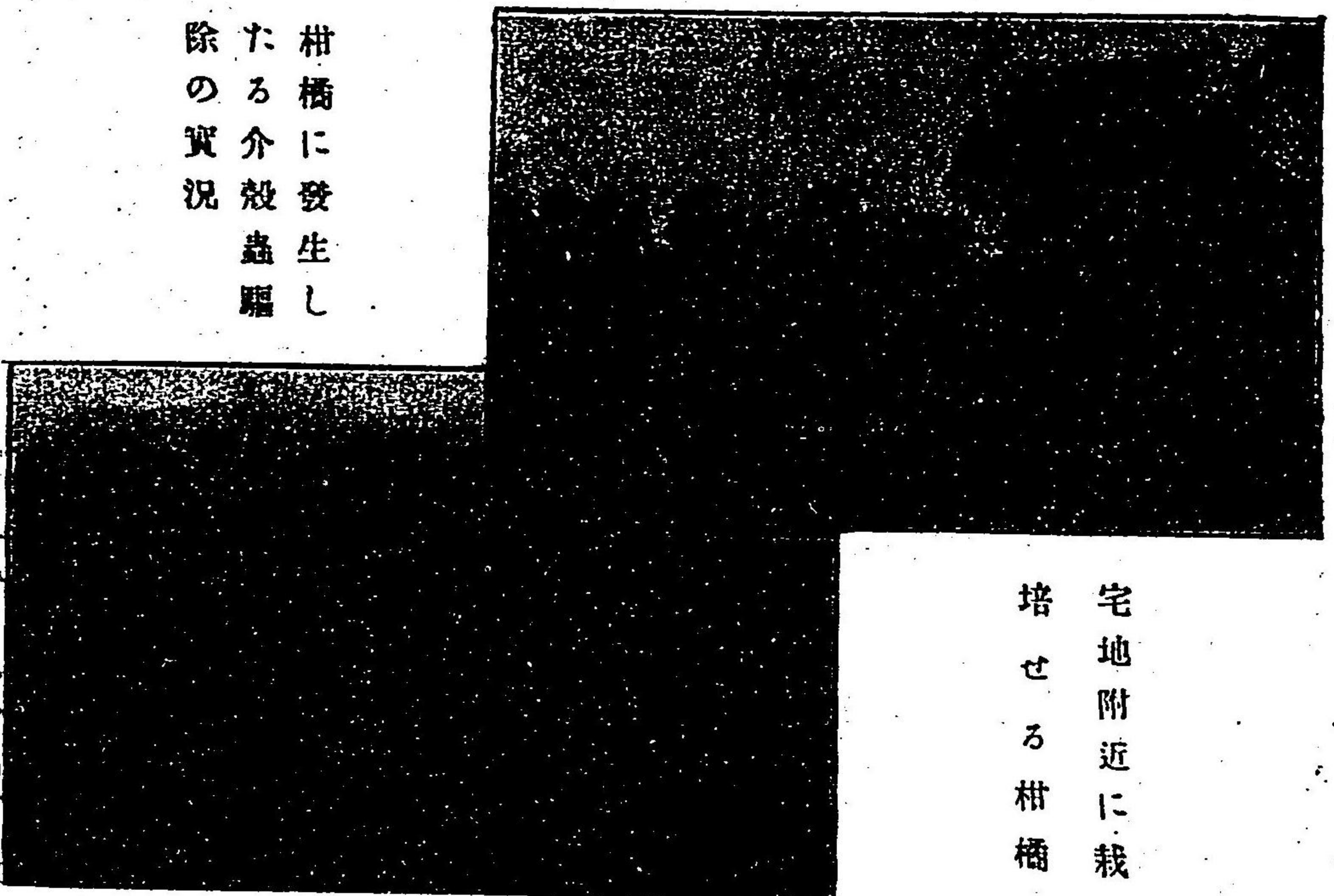
八柱等にして、近年種類の改良を行ひ、其の産額頗る増加せり。現今盛んに栽植せらるゝものは、眞柄、獨逸、幸藏、長十郎、早生赤太平等とし、産額十餘萬圓に上れり。

柑橘 本縣に於ける柑橘の栽培は、各地に百數十年を経たる老樹あるに察すれば、今より約三百年前に於て、早く栽植されたるもの、如し。而して其の最も古く栽培したるは、山武郡東金町附近なるが如く、昔し徳川家康東金城主をして其の城郭附近に柑橘を栽培せしめたりと云へり。去れば東金を中心として同郡正氣、増穂の兩村及び長生、夷隅、君津の各郡に傳播したるものならんか。而かも其の當時は橘、柑子、紀州密柑種にして、毎戸僅に數本を居室の一隅に點植したるに過ぎざりしが如し。然るに明治初年頃より、各地共に之が栽培に稍々注意するに至り、降つて明治三十年頃より栽植者一層増加し、今日の現勢を見るに至れるなり。主要産地は山武郡増穂村、長生郡高根本郷村及八積村、夷隅郡中根村、市原郡東海村、君津郡巖根村及吉野村、安房郡平群村及大山村等にして、其の種類の重なるは、柑子、紀州密柑、温州密柑、天狗密柑、伊豫密柑、旭柑、新夏橙、香橙、鳴門密柑、夏橙、甜橙、ドムンソネーブル、コルチースブラッド、ルビーブラッド、シヨツパオレンヂ、グハレンシヤード、ワシンニンネーブル等とし、頗る雜多なり。柑子は最も古くより栽培せられ、一時上總の白輪柑子として名聲を博せり。紀州密柑は、柑子に續て栽植せられたれども、近年需用減退し、稍々衰微せり。温州密柑は、現時各地に於て多く栽植せらるゝ種類にして、其の年々の植樹少くも二萬本を降ら

とるべし。ツシンニンネーブル種は、明治三十一年當業者苗木を和歌山縣より取寄せ、山武郡正氣村、君津郡檜葉村、吉野村、及び市原郡東海村等に於て多く栽培し、夏橙も君津郡地方に於て稍々盛んに行はれつゝあり。現今縣下を通して柑橘の栽培反別は約三百五十町歩、産額十萬圓の上に出づ。

桃樹 桃樹栽培の最も古きは、東葛飾郡七福村、匝瑳郡共和村等にして、七福村にては今より約二百餘年前、同村字岩名にて、既に毎戸數本を宅地の一隅に點植しありたり。其の當時松戸町其の他に二三の仲買人ありて、舟便を利し、東京に販出したるに、高價に賣却し得られたるより、村民之を聞知し孰も恰好の副業なるを認め、競ふて栽植するに至れり。爾後野田及び川間村に傳はり、明治初年の頃には、畑地にして桃樹を見るなるなきの盛況を呈し、東京市場に於ても岩名桃の名

柑橘に發生したる介殼蟲類除の實況



宅地附近に栽培せる柑橘

聲を博したり。然るに同地方に栽植する種類は在來種にして、外國輸入の優良種に壓倒せられ、漸く需用減少し一時衰頹の傾向を呈したるも、而かも世運の進歩に伴ひ、需用益々増加し、利益多きにより、近年東葛飾郡中山、八幡、市川、七福の各町村を始めとし、良種の栽植に注意する者多く、改良發達の域に進みつゝあり。而して其の種類の重なるは、半兵衛、日ノ丸、金時、アムスデンシユン、アーリー、リバー、天津水蜜桃、上海水蜜桃等にして、就中現時最も盛に栽培するものは、天津水蜜桃、アムスデンシユン、アーリー、リバー、上海水蜜桃等にして、之が産額は五萬圓内外とす。

柿樹 古來より栽培せられ、縣下到處に在り。主産地は安房、夷隅、君津、長生、印旛、東葛飾郡等なるも、多くは宅地の空地又は原野等に點在し、一定の地を區劃して栽培せるもの甚だ稀なり。種類は、御所、鶴子、蜂屋、核無、釣鐘、衣紋、百目、禪丸等あり。一般に普及して産額の最も多きは衣紋にして、揮て酥柿として四斗樽に詰込み、京濱間に販出し、夷隅郡老川村地方にては串柿に製造し、管内及び東京に輸出せり。柿の産額は十四五萬圓に達す。

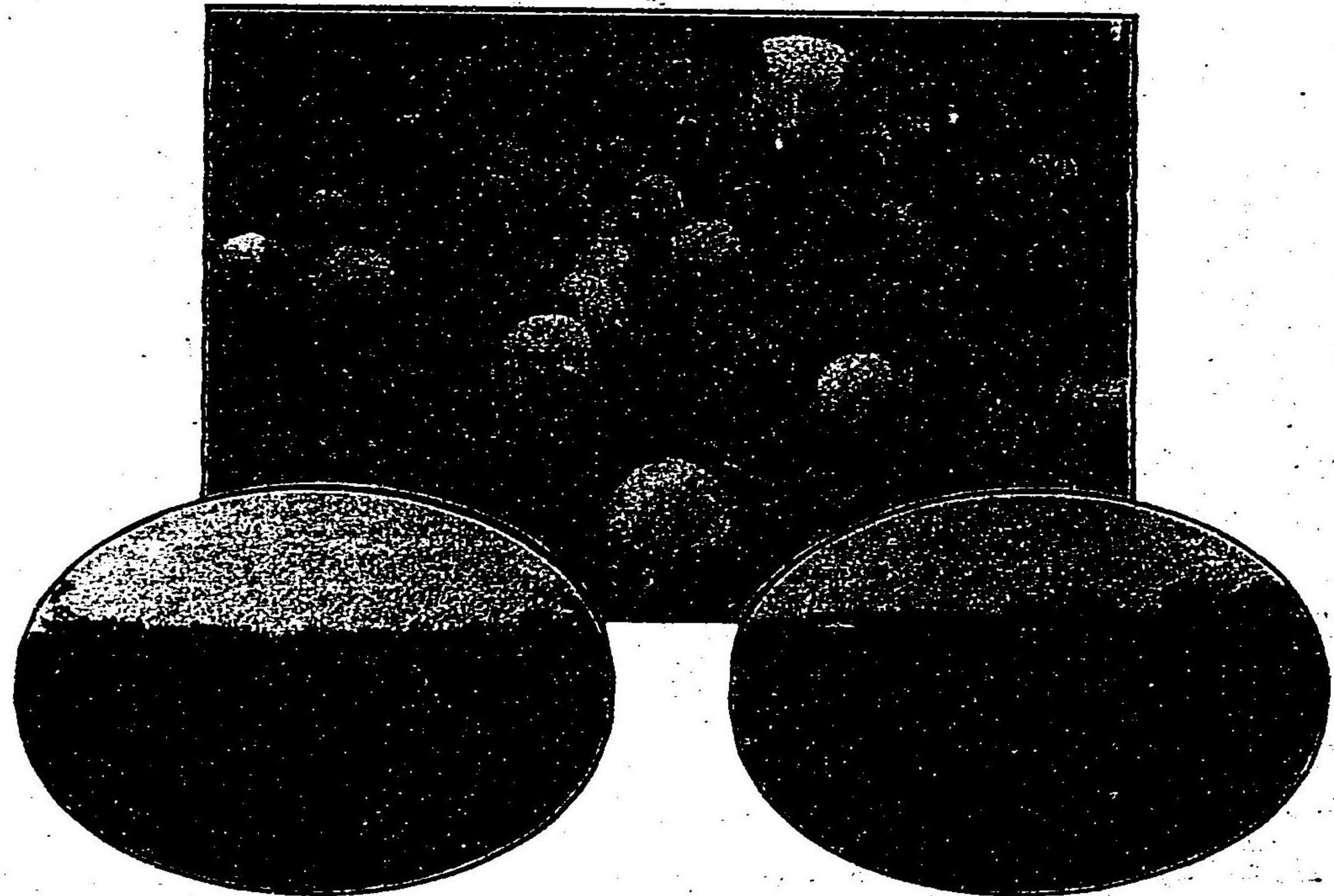
枇杷樹 枇杷樹栽培の著名なるは、安房郡富浦村にして、今より約百五十年前、既に栽植せられたるもの、如し。横濱、東京市場に販出し始めたは、凡そ七八十年前なれども、其の當時は交通の便開けず、運搬不便なるが爲め發達せざりしが、明治十年頃より海運の便稍や備はり、殊に明治三十年以降、東京灣汽船航路開始さるゝと共に、漸次栽培を増加し、三十四年頃に至りては、産額俄に増

大せり。近年當業者、枇杷利用の方法を講究したる結果、果酒を製造せんとし、其の試験を高橋農學博士に依頼せしに、幸に良好の成績を得たるを以て、明治三十六年地を南無谷の西端に卜し、之が醸造場を設置し、其の後三十九年に至り、更に株式組織となし、爾來益々品質の改良に研究を重ね、今や全國に比類なき枇杷酒を製造するに至れり。

**肥料** 銚子より九十九里濱の一帶を経て房州鴨川に至る太平洋沿岸地は、乾鰯、鰯搾粕の産地として、古來其の名有り。之が産額は鰯漁の豊凶に依り一定ならざるも、最近平均額は四拾萬圓を下らず。而して菜種油粕及び落花生油粕の外、近年又銚子に於て鯨肉粕、鯨骨粉等を産出せり。而も晩近農業の進歩と農家經濟の狀態とは、肥料に對する需要種類の推移を來たし、魚肥、油粕類は、今や縣下肥料界の主腦たらずして、却て輸入大豆油粕を以て第一位とするの實況なり。而して魚肥、過磷酸肥料は第二位に居り、米糠及び各種調合の肥料類之に亞ぐ。若し夫れ近年縣下に於ける需要肥料にして、關東關西に於ける幾多人造肥料會社の製造に係る各種人造肥料其の他一般肥料の種類を算すれば、實に三百餘種の多きに及び、其の需要總額は約百五拾萬圓と註せらる。而して此の需要額は年と共に益々増加の趨勢を呈せり、亦以て本縣が大農産地たるを知るべき也。

**縣立農事試驗場** 明治四十二年の創設にかゝり、東葛飾郡中山村に在り。總武線中山驛より北方約十町許にして、有名なる法華經寺の西方に隣る。専ら園藝に關する試験事業を行ふを以て目的とする

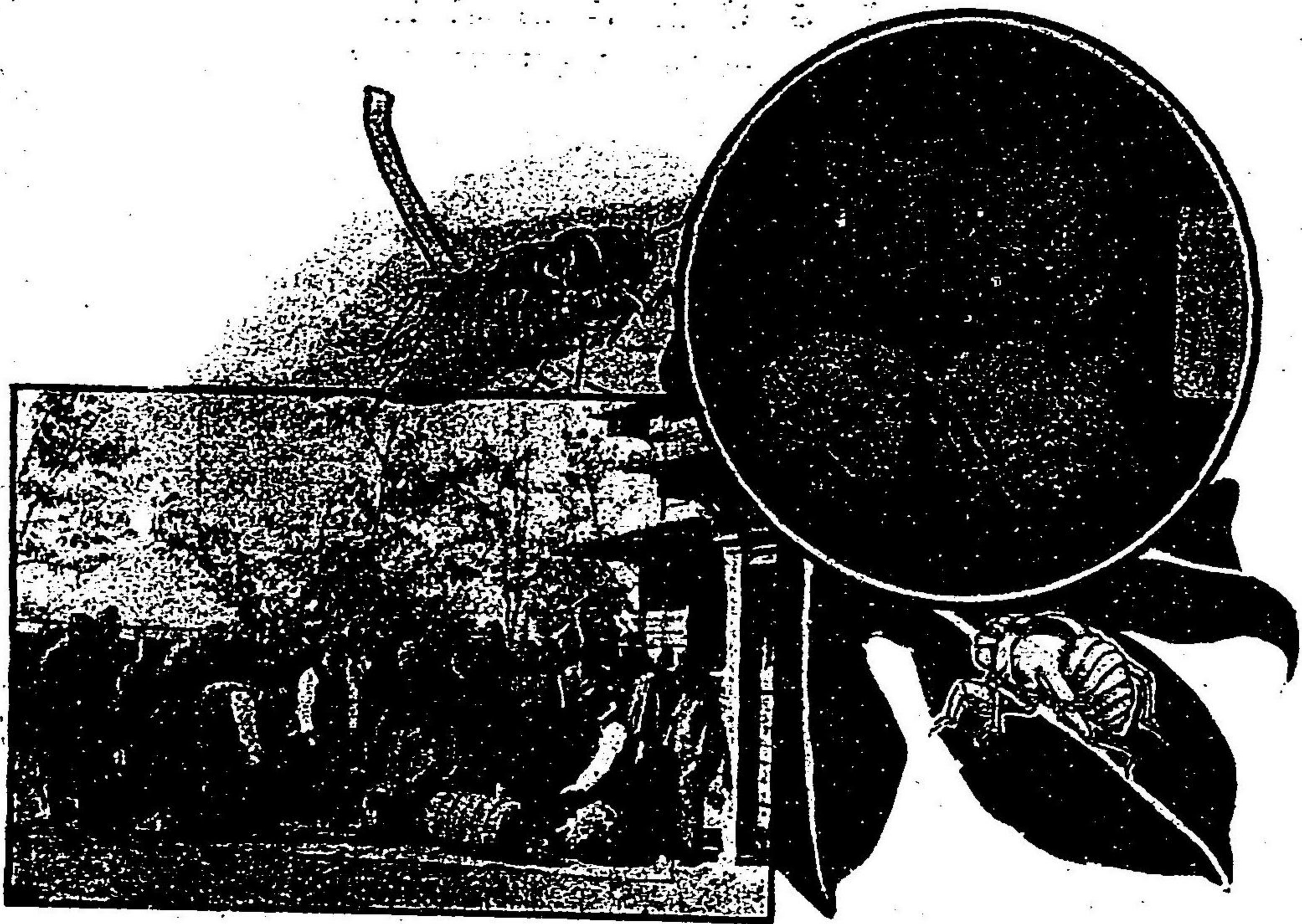
採取期に於ける瓜



同野菜園

縣立農事試驗場園藝

ものにして、面積四町八反二畝歩、舊と一部分山林たりし外は殆んど畑地より成り、方形の圃場、規矩整然たり。土質は第四紀古層にして、腐植質壤土其の大部を占め、砂土之に次ぎ、地下水位低く、排水極めて可なり。其の事業としては、果樹及び蔬菜并花卉の栽培、品種、肥料の用量其の比較、施肥期、整枝法、斷根、移植、枝幹發育、容土、剪定、并に病蟲害驅除豫防、疫病豫防、種薯切斷、摘花、除藥、植付粗密、植付期、其の他の試験を行ひ、傍ら園藝實地指導、種苗種子配布を爲し、又講習講話を開き、視察及び調査、園藝に關する質疑應答等を爲し、斯業の改善進歩に努めつゝあり。本場に栽植したるは、果樹に於ては梨、桃、苹果、葡萄、柑橘、柿、枇杷、櫻桃、梅李等、蔬菜に於ては、菜豆、馬鈴薯、南瓜、西瓜、薑、菘、蘿蔔、



農裝改良講習會と改良米徒

葱等、何れも十數種を栽培し、又花卉に於ては内外種數十種を試作せり。

農業生産調査 本縣に於ては、其の産額最大にして且つ有望なる農業に對し、正確の統計を作り、之を基礎として適當なる方針を確立し、以て益々農業の改善發達を促すの必要を認め、明治四十四年度より農業に關する生産調査を行ふこととしたり。是れ本縣の統計をして確實ならしめ、適當の産業を振興せしむる計畫にして、本縣は之を第一着手となし、其の完成を待て更に第二の事業に移り、統計に關する思想技術を養ひ、追て國勢調査に對する準備たらしめんとするなり。

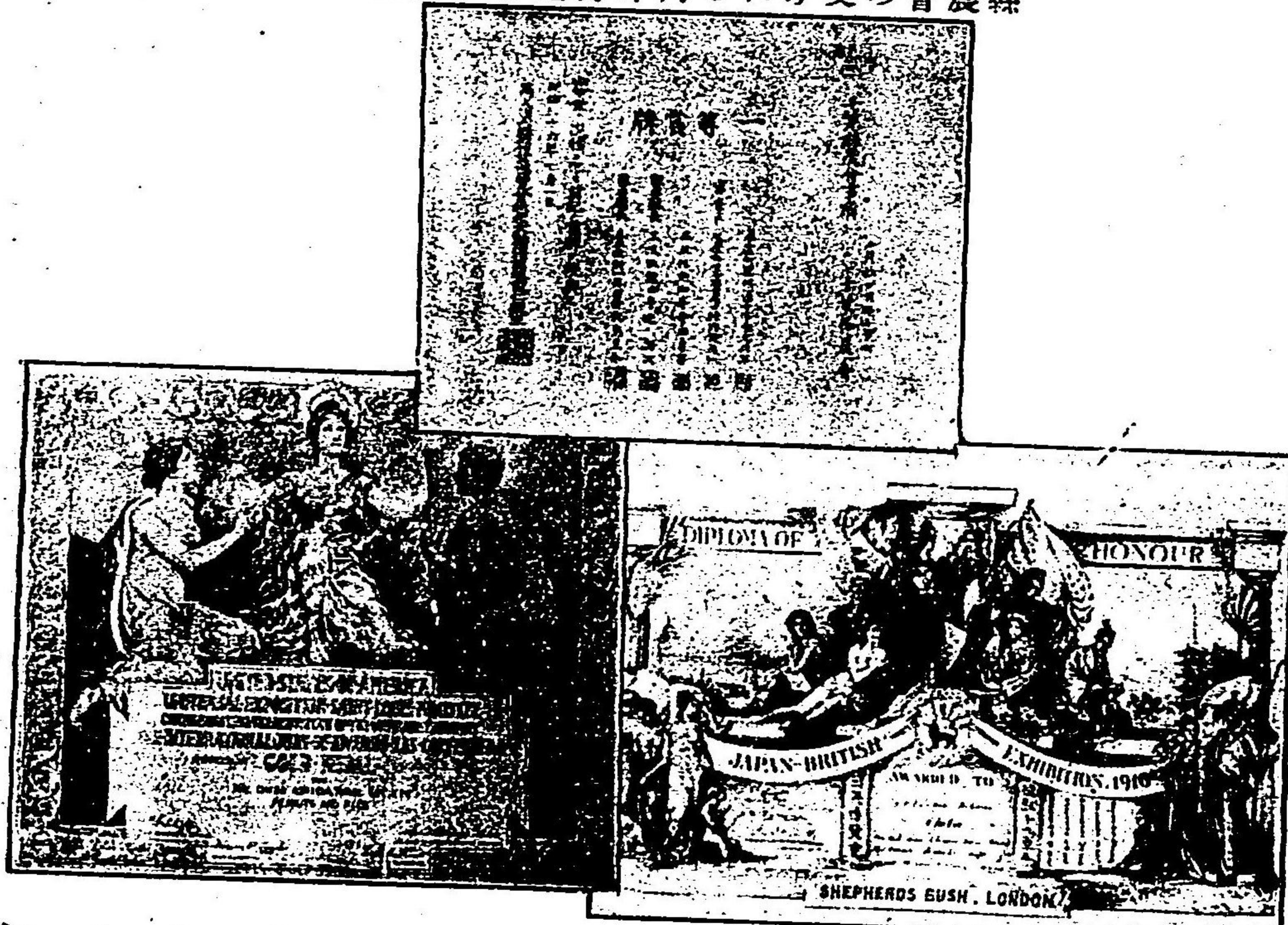
縣農會 明治二十八年の創立に係り、縣下全部に互る郡農會の團體を以て組織す。翌二十九年縣令を以て農會規則の發布あるや、農會を別て縣農

會、郡農會、町村農會の三種とし、茲に始めて純然たる系統的團體を構成するに至る。三十二年に至り、農會法を制定せられ、翌年農會令の發布ありて、一新紀元を劃し、更に三十八年農會令の改正を見るに及び、系統的農會の組織は益々完備し、基礎鞏固となると共に一層活動せり。現在農會の配置は、縣農會一、郡農會一二、町村農會三四五にして、創立以後今日迄十七ケ年の星霜を經過し、其の間施設經營したるの事業鮮少なりとせず。即ち其の一斑を記すれば、普通農事に於ては、技術員を派遣して農事講習を爲さしめ、三十二年以來稻作改良事項の内、三要項として鹽水選種、短冊苗代、正條植を奨勵し、三十七年より更に共同苗代及び麥作鹽水選種、黒穗豫防の三項目を加へ、又牛馬耕傳習を爲さしめ、三十八年より四十二年迄水田二毛作の委託試験を續行し、更に水田排水、暗渠排水、穀



縣農會の豚及鶏

縣農會の受ける内外博覽會の賞状

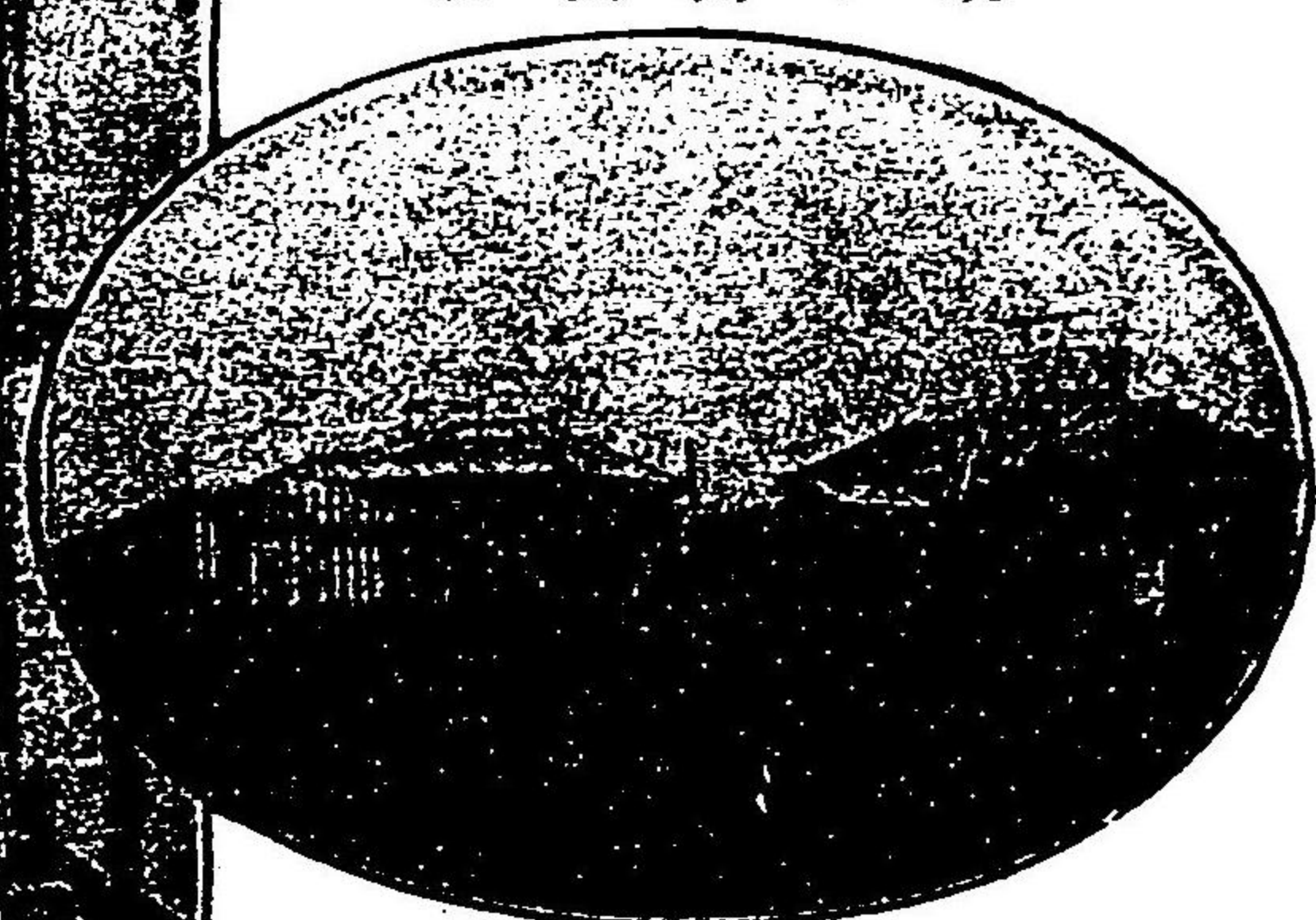


倉害蟲、野鼠及び一般害蟲の驅除、麥酒用大麥の栽培、選種用鹽の共同購入、種子の交換等を獎勵し、又普通共進會、品評會の外、米麥作立毛、俵米、小作米、果實蔬菜、堆肥の品評會を開き、四十三年度よりは俵裝改良の講習會を開催し、蠶業に於ては蠶業の講習及び講話を爲し、蠶業組合、桑園改良を獎勵し、此の他園藝、豚家禽の改良進歩を圖り、尙産業組合の設立、報徳主義の鼓吹、馬匹共進會の開設、功勞者の表彰等、農事の改善發達に關して施設する所頗る多し。本會が三十六年の第五回内國博覽會に農會事績書を出品して一等賞牌を得、三十七年米國聖路易萬國博覽會に米及落花生を出品して金牌を受領し、四十三年日英博覽會に米、大小豆、落花生等を出品して名譽賞を受領したるが如き、是れ本會の大に名譽とする所なり。四十三年度に於ける經費は、一萬六千九百餘圓にして、近頃

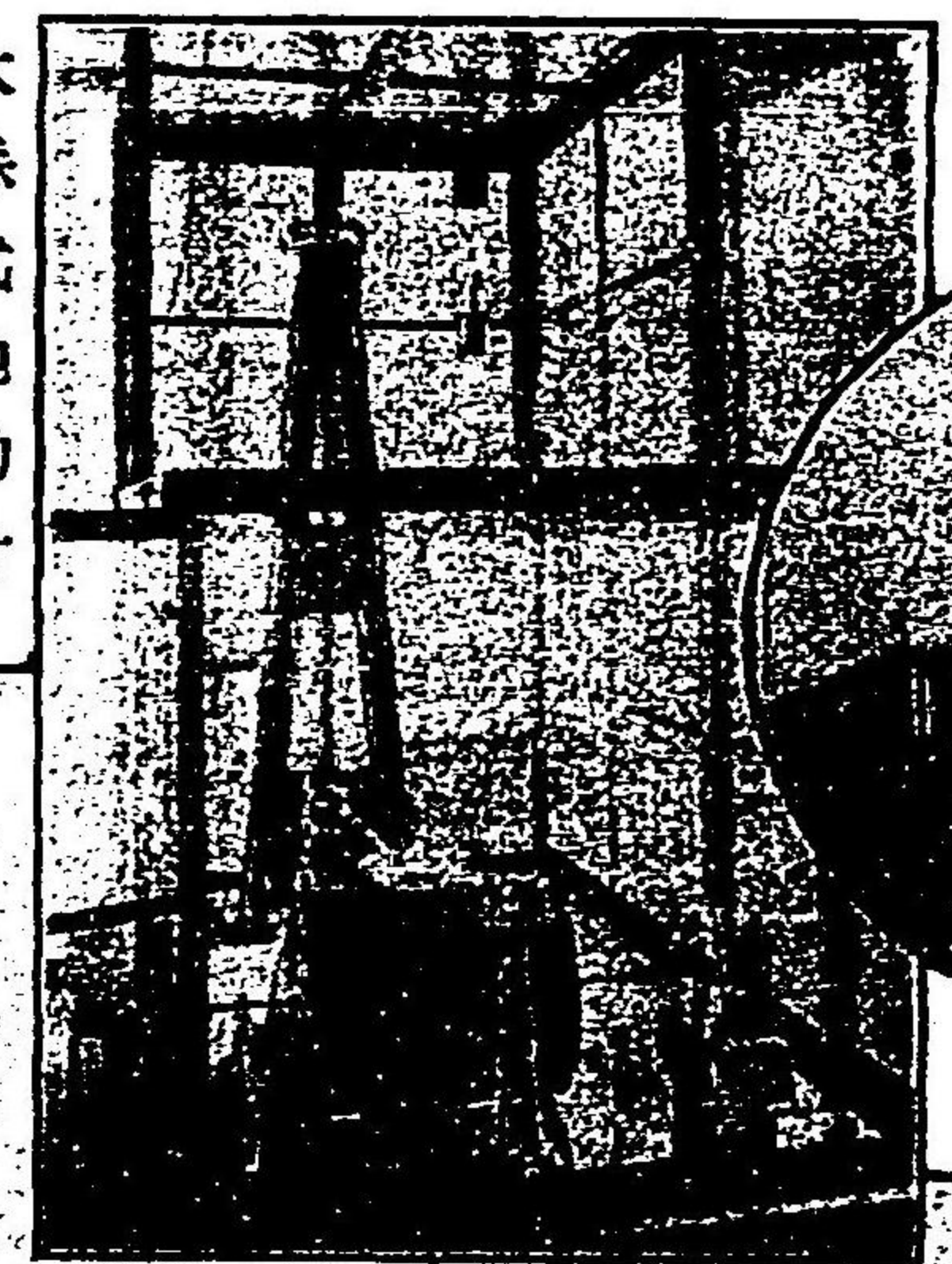
施設事業の増加に伴ひ著しく事業費を増加し、三十八年度迄は四千圓内外なりしが、三十九年度に至り一躍して七千餘圓となり、四十二年度よりは九千餘圓を要するに至れり。

銚子測候所 明治十九年、銚子町有志者相謀り、銚子汽船會社構内に私立測候所を設立したりしが、明治二十一年文部省令により縣の經營に之を移せり。定期の氣象觀測は本所、北條及勝浦出張所に於ては毎日六回其の他四十箇所に設立せる管内觀測所に於ては、毎日一回乃至四回之を施行す、暴風警報信號標は、縣下十三箇所に設置し、風雨の虞ある際は努めて一般に之れを周知せしめ、天氣豫報信號標は縣下を通じ十四

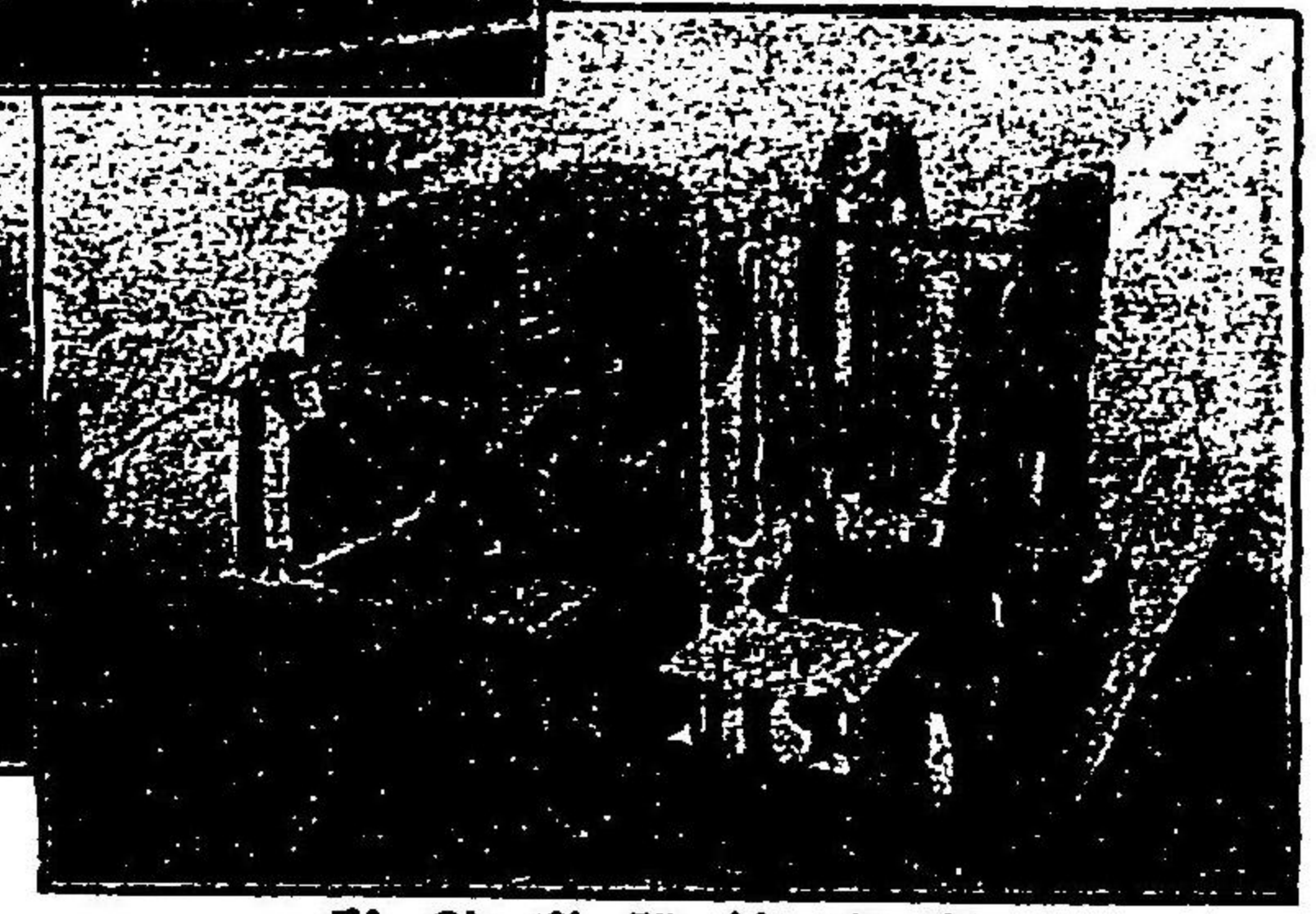
銚子測候所



大森式地動計



大森式強震計



大森式簡單微動計

箇所之を設け、毎日翌日の天氣を豫報し、又天變地異の現象と氣候との調査又は一般産業上に應用すべき氣象中殊に農作物と氣候との關係并に養蠶期に於ける氣象の調査は絶へず之を行ひ、風雨若は霜害等の豫知せらるゝものにありては之を知らしむるを以て當業者の便益蓋し尠しとせず。

人皇五十四代仁明天皇承和八年稻架獎勵大政官布達

大政官符す稻を乾かす器を設くへきこと

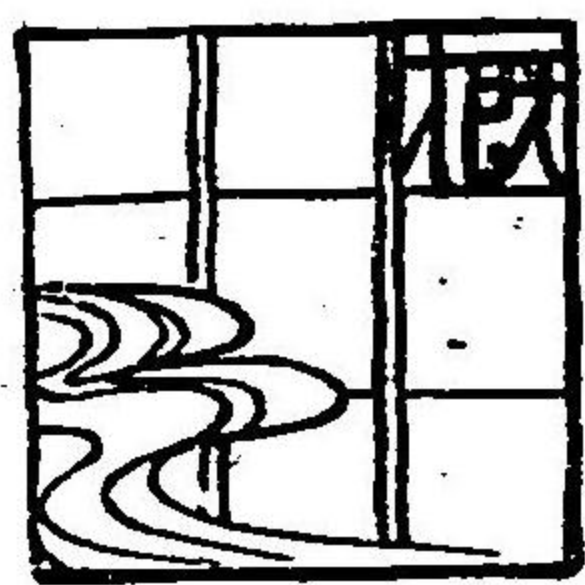
右は右大臣の宣を被むるに稱はく國は民を以て本となし民は食を以て天と爲す是れを以て春雨初めて降りて老弱歎に東に赴き秋霜稍々飛て丁壯穀を西に收む茲の五穀を保ち彼の萬事を濟す聞くが如きは諸國の百姓が稼穡を營む所偏に陽景を待みて既に霖雨を忘るゝが如し雲影霽れ難く雨足歇まざるに達へば稻を中庭に置きてこれを見て且つ飢う庶民の愚一に茲に至る大和の國宇陀郡の人は田中に木を構へ種穀を懸け曝す其の穀の燻くこと火炎に當るに似たり俗に名づけて稻機と云ふ宜しく諸國に仰せて廣く此の器を用ふへし専ら人を利するに縁る疎略にすることを得され(類聚三代格)



兼郡次信田町

刷印版製庫郵共精川全京東

## 耕地整理



説 本縣の耕地整理は、明治三十二年、縣農會が模範耕地整理補助規程を設け、各郡一箇所の模範整理を奨励し、補助金を支出したるに始まる。當時靜岡縣中遠農會より斯業の實驗家を招聘し、縣下各郡に互りて奨励的講習會を開催し、三十三年より新に縣農會に技術者を置き、且つ農商務省設計調査囑託員二名を聘用し、各郡指定地に對し、調査設計に従事せしめ、耕地整理工費補助規則を制定し、同時に三年繼續として年々五千餘圓の補助を支出すること、したり。此に於て整理事業の基礎鞏固となり、三十八年には耕地整理期成會なるもの各地に組織せられ、専ら土地の管理、作業の方法を講究し、之が實行を期せり。是より先き本縣にては、從來の補助規程を改正し、明治三十七年度より補助金を増加し、更に五箇年繼續を以て年々八千圓の補助を支出すること、なし、益々事業の進行を圖れり。三十九年以來、此の事業を縣營に移し、而して耕地整理基本調査に着手す。四十一年六月、耕地整理事務を獨立せしめて、新に一課を設け、一層奮勵を加へ、調査設計等の完成を敏速にすると共に工事の監督を嚴密ならしめ、而して工事費の補助は、更に四萬圓を繼續支出すること、なし、又施行地に於ける土工を助くる爲め、縣に於て輕便軌條を備へ、必要の地區に對し無償貸付の途を設けたり。

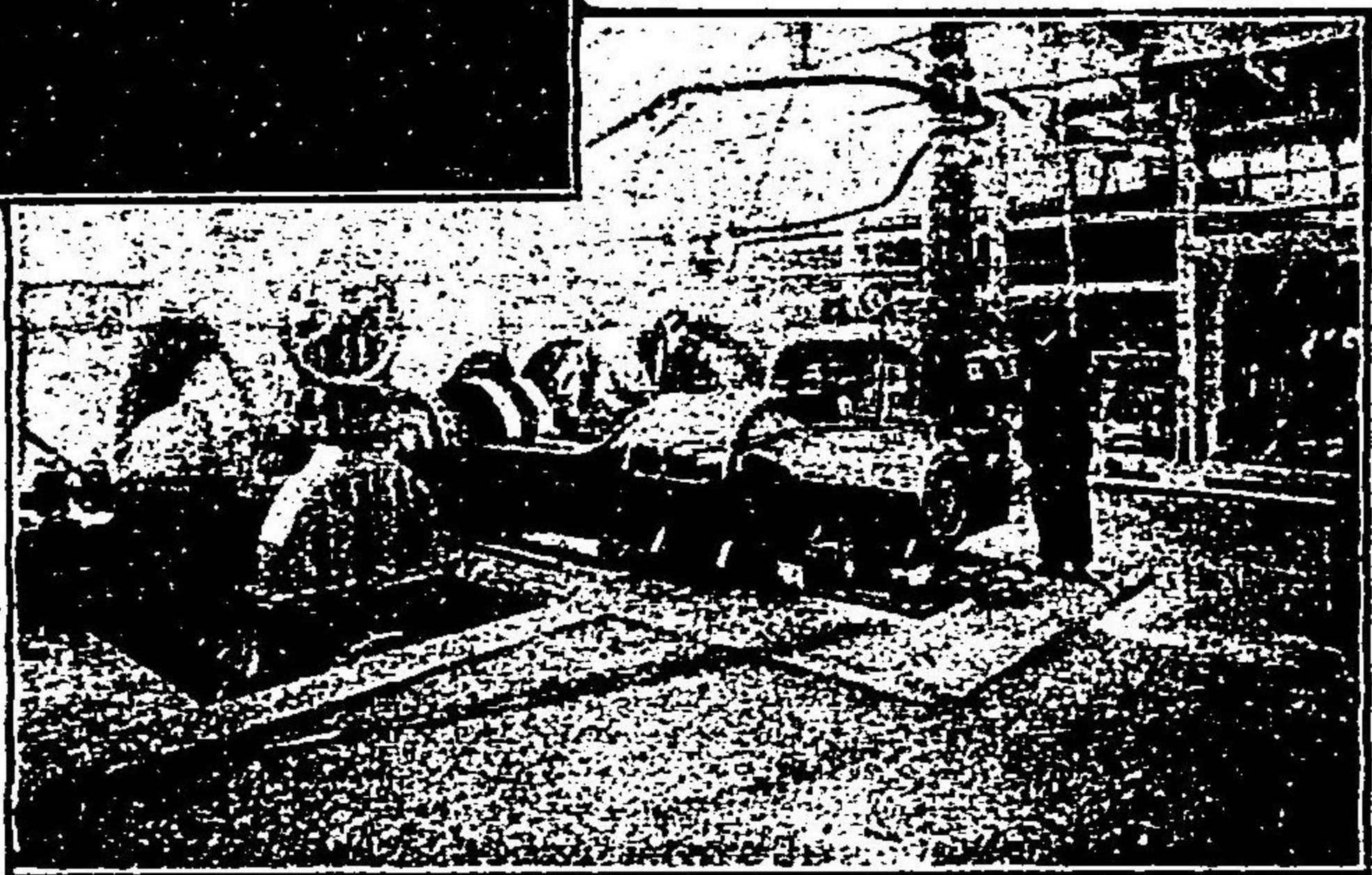
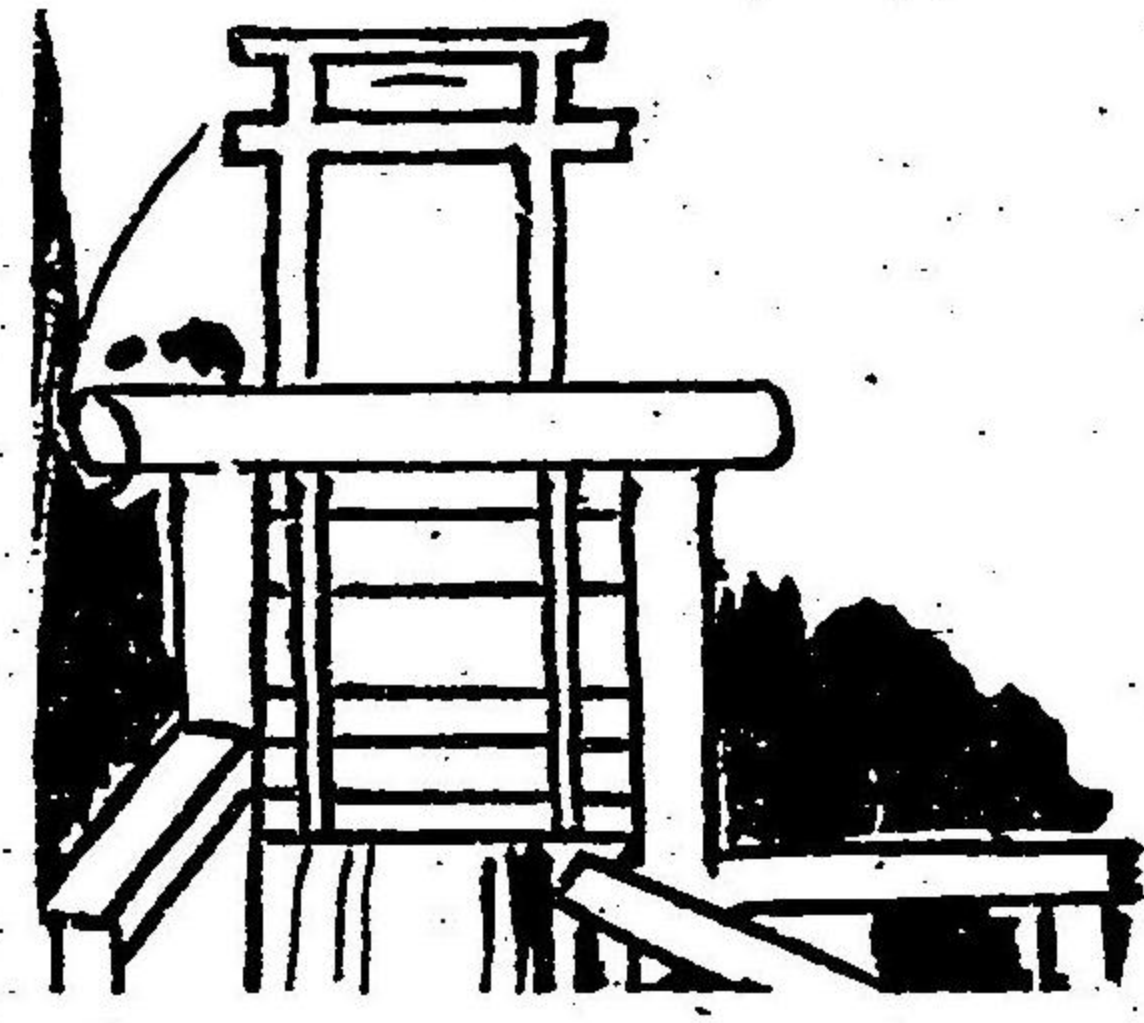
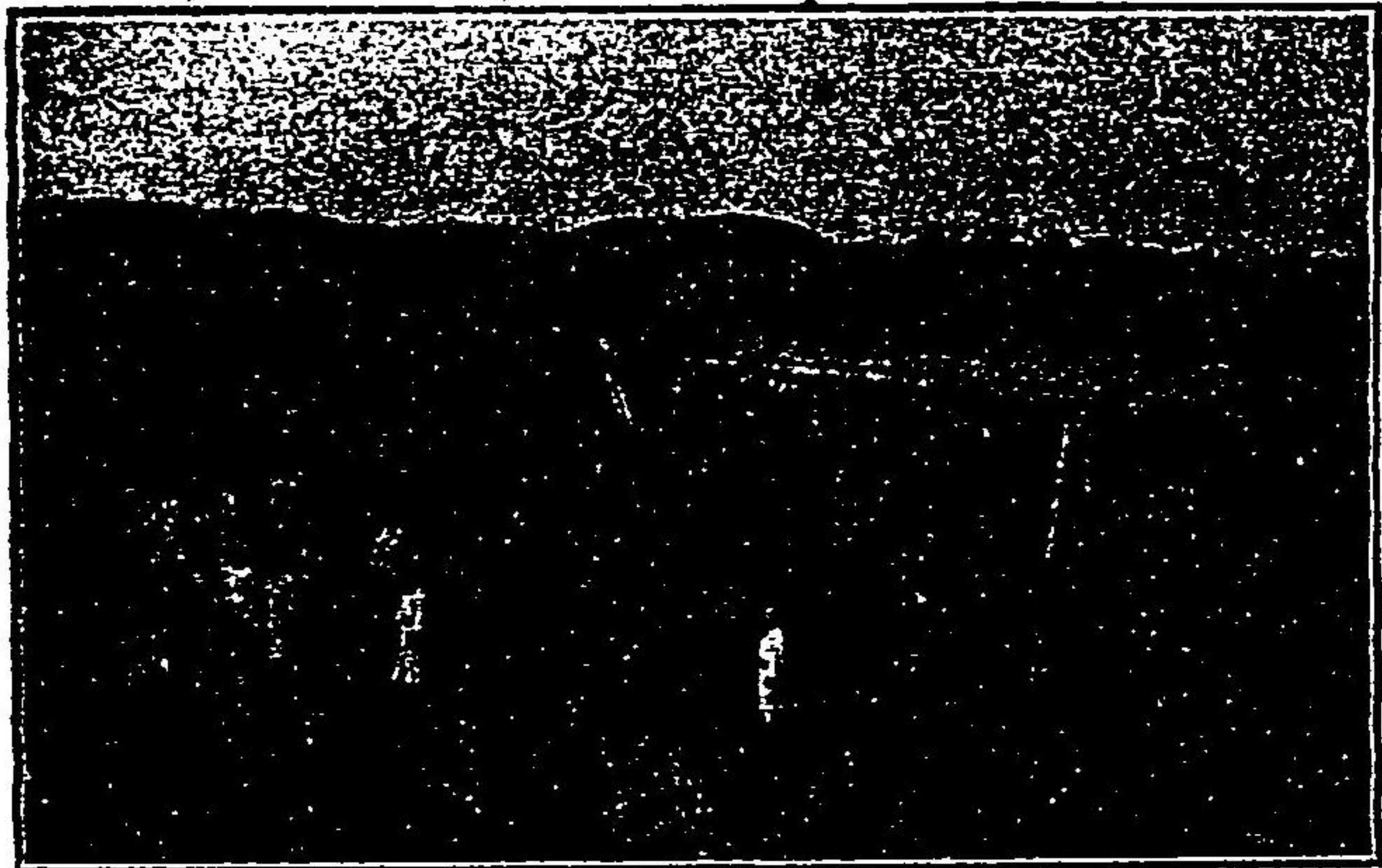


**整理反別** 斯の如く、縣費の補助を與へ、適切の施設を爲し、斯業を獎勵したるの結果、明治四十三年六月末に於ける施行の箇所は、六十六箇所、其の面積九千二百三十八町有餘歩に達し、將來益々普及の趨勢を呈せり。左に施行成績表を掲ぐ。

耕地整理施行表

年次	地區數	整理面積	郡別	地區數	整理面積	費用豫算
明治三十四年	六	三七二・一六	安房郡	二	一一一・八二	一六、一一七
同三十五年	四	四五六・六五	夷隅郡	六	四九七・八〇	七二、六九〇
同三十六年	四	三七九・七四	君津郡	五	一、八〇三・九五	一八三、九七三
同三十七年	七	一、三六六・六三	長生郡	三	三五九・八六	三九、二四八
同三十八年	八	七七四・九八	山武郡	一四	一、九〇一・七三	一八九、九九一
同三十九年	六	六七一・四五	市原郡	一	九六・七一	一〇、九六一
同四十年	九	八六四・五三	千葉郡	四	一六六・七〇	九、二六一
同四十一年	七	一、四九八・六三	東葛飾郡	七	一、一三三・二二	二二一、四二七
同四十二年	九	二、〇二八・四九	印旛郡	七	一、三二六・六二	一七二、二〇五
同四十三年	六	八二四・七六	香取郡	一一	一、六三三・九八	一七三、六一一
計	六六	九、二三八・〇五	海上郡	三	一一四・四一	一五、七三二
			匝差郡	二	九九・二〇	九、六四八
			計	六六	九、二三八・〇五	一、一四、八七一

灌漑に於ける揚水機



坂川排水機

ては、之が救済の方法として、揚水機を利用することの適切なる素より言を俟たず。近時著しく之が設置を見るは洵に快心の事に屬す。即ち耕地整理の實施に伴ふもの現在十一箇所、此の支配面積二千六百六十五町歩餘を算し、尙ほ着々増加の傾向あり。

**整理地成績** 一般に良好なる成績を示せり。即ち田に於ける收穫は一

**施行方法** 耕地状態の異なるに隨ひ、或は灌漑を主となすあり、或は排水に重きを置くあり、或は區劃整理を基となすありて、各其の趣を異にす。地區の廣狹亦然り。現在縣下施行の一地區は平均百三十九町九段餘なりと雖も、其の小なるは十町歩に充たず、大なるものに至りては五百町歩を超過するものあり。蓋し斯の如きは、其の地勢の状態に應じ、最善の改良を加へんとするに因るなり。

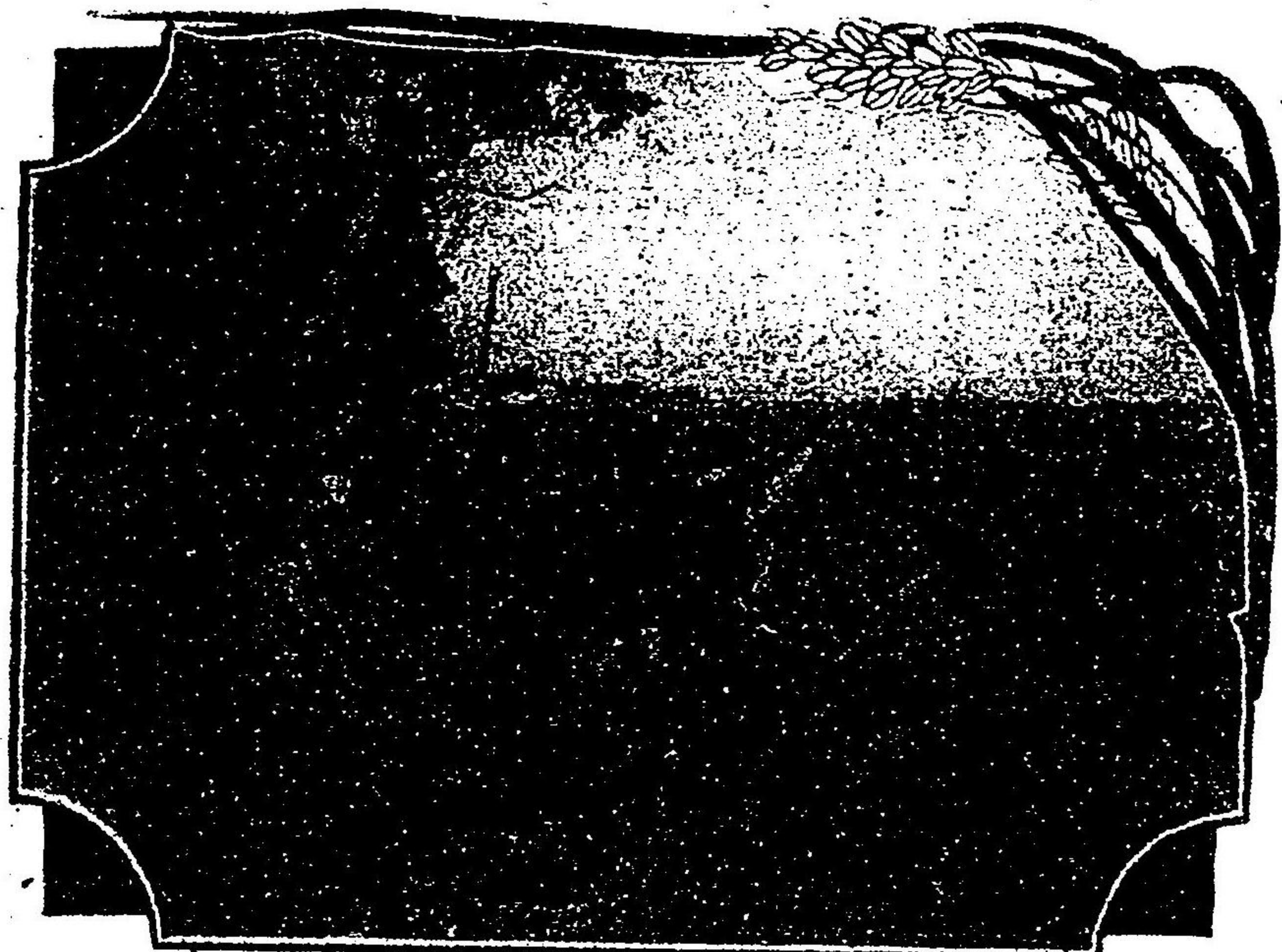
**揚水機利用** 江戸、利根兩川沿岸の如き、自然的に灌漑、排水の状態を改善する能はざる場所にあり

割四分餘の増收にして、加ふるに耕作の勞力に於て一割五分内外を減じ、尙多くは裏作を見る。惟ふに施行後に於て、土地利用を全うし、整理地の維持管理に缺くる處なからしめんか、農業生産に裨益する所のもの大なる敢て疑を容れざるなり。

**整理工事費** 耕地整理の實施に要する費用は、地區の状況に依り著しき差あり。其の少なきは田畑反當り四五圓にして、多きは四十一圓に及び、現在縣下六十六箇所の平均田畑反當り十五圓十四錢に當り、明治四十三年六月末迄に認可を得たる事業の遂行費豫算總額は、實に百十一萬四千八百七十一圓餘の巨額に達したり。而して之が整理費用は概ね借入金を以て支辨し、漸次關係土地所有者に分賦して償還する方法に依る。

**参考** 縣下に於ける耕地整理施行地中、其の設計の完全にして工事の見るべきもの三四を左に掲げて参考に供せむ。

**山武郡綠海村** 整理地區三箇所にして總面積七百六十五町步餘、主要工事は、木戸川の流水を引用せんが爲め、安全なる堰棹



山武郡綠海村耕地整理地區工事の中圖

を設置すると共に、大排水路を設置するに在り。四十二年四月起工し、四十四年三月全部竣工の豫定。經費豫算八萬八千七百九拾圓、現在既成の面積約四百五十九町步。成績極めて良好。全然面目を一新せり。

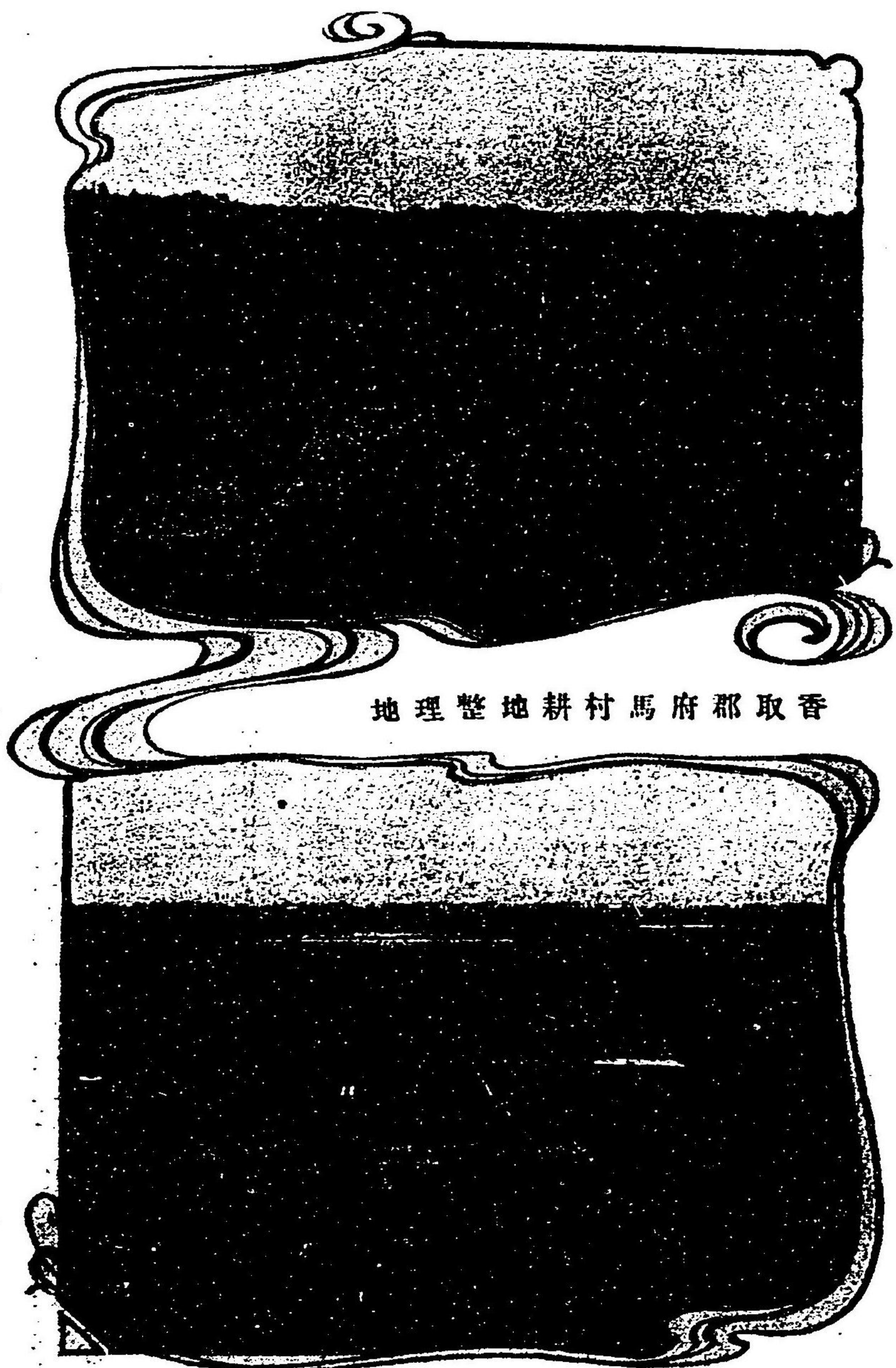
**長生郡一宮町**

整理地區總面積二百町步餘、經費豫算壹萬八千八百八拾九圓。主要工事は、用水源を整理し、作路の修築を爲すにあり。四十二年十一月の起工にて四十四年四月竣工の豫定。既成地百町步餘の成績讚歎されつゝあり。

**香取郡府馬村**

整理地區面積三百九十九町步、此の豫算四萬七千貳百九拾壹圓。主要工事は、二箇所の溜池を改築し、且つ

地區内大排水路たる黒部川の改修を爲すに在り。四十二年一月五日の起工、四十四年四月竣工の豫定。是亦成績佳良なり。



香取郡府馬村耕地整理地圖

長生郡一宮町耕地整理地區全圖

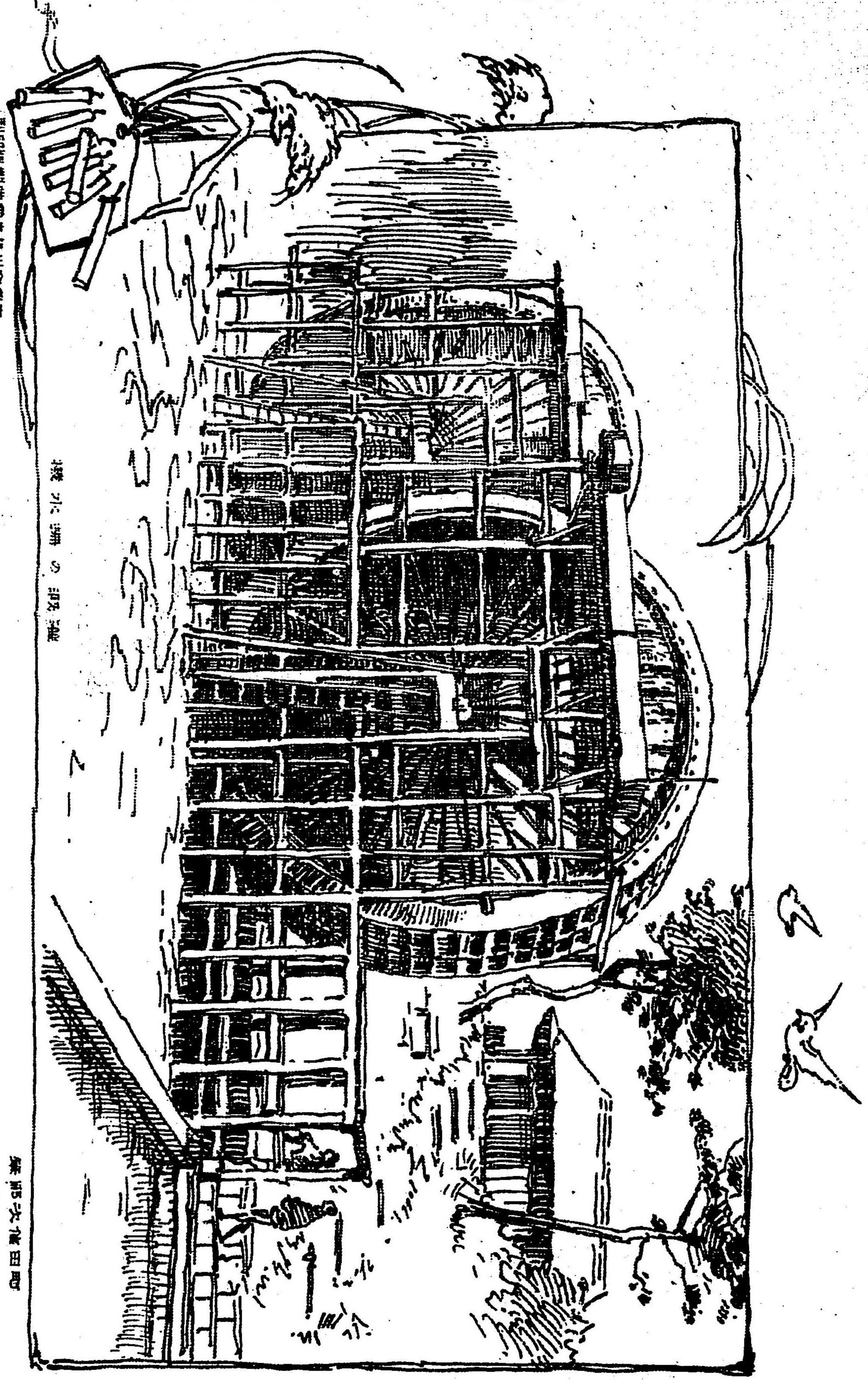
産業要覽

東葛飾郡七福村及野田町 座生沼の氾濫水及停滯水を排除し、新に水田に開墾する目的を以て、四十三年六月排水機の据附  
を了せり。目下二百十八町歩の面積に對し、整理起工中、此の豫算五萬九千六百參拾七圓。

東葛飾郡坂川排水 松戸町外六ヶ町村の坂川普通水利組合の事業に係り、坂川に沿へる低窪の湛水地に對し、耕地整理計畫の  
下に六百九十馬力の排水機を設置せるものなるが、四十二年七月全く其の工を竣り、滿目渺茫として恰も湖水の狀を呈したる二千  
町歩の滯水を排除するを得、爾來水田に著々として稻禾の發育するを見、農民喜色に滿つ。

繼體 天皇勸農桑詔

朕聞、土有當年而不耕者、則  
天下或受其飢矣、女有當年  
而不績者、天下或受其寒矣、  
故帝王躬耕、而勸農業、后妃  
親蠶而勉桑序、況厥百寮暨  
于萬族、廢棄農績而殷富者  
乎、有司普告天下、令識朕懷



別印風機並坂川排水機

機が水田の排水機

東葛飾郡野田町

## 蠶絲業



縣の蠶絲業 本縣に於ける蠶絲業の起源及沿革は遠く延喜式に於て下絲國として上總下總の國名を見るのみにして、其の他に史書の徵すべきもの莫し。惟ふに爾來一時中絶して明治維新の前後に於て再び開けたるもの、如し。本縣の風土は、桑樹の栽培、蠶兒の飼育に適するのみならず、養蠶は農家の副業として利益少なからざる事業なるを以て、爾來漸次行はれたるも、明治十四五年の頃には、印旛、山武の兩郡を中心として各地方に於ける飼養者は、全管下を通じて猶僅に一千戸内外、桑畑反別千二百町歩、收繭高四五百石に過ぎざりし。製絲業としては、當時印旛郡に佐倉蠶業會社と稱する製絲工場の設立せられたるを製絲場の新創とすべく、次で山武、市原、君津諸郡に各二三の座繰製絲業者の起るを見たり。其の後明治廿一年に至り、縣は大に蠶業の發達を圖り、桑樹貸付年賦償還規程を發布し、福島及群馬地方より桑苗約百萬本を輸入して之を栽培せしめ、次で長生郡鶴枝村及一ノ宮町を始め縣下五ヶ所に養蠶傳習所を開設し、或は教師を各地に派して指導せしむる等、頻りに獎勵に努むる所ありしかば、是より斯業振興の氣運を關き、其の翌二十二年には、各郡に民設の蠶業傳習所及幾多の製絲工場の設立を見るに至れり。越て廿七年に郡農會規則發布せられ、廿八年に縣農會の設立せらるゝに及び、益々蠶業を獎勵する所あり、三十二年縣農會は

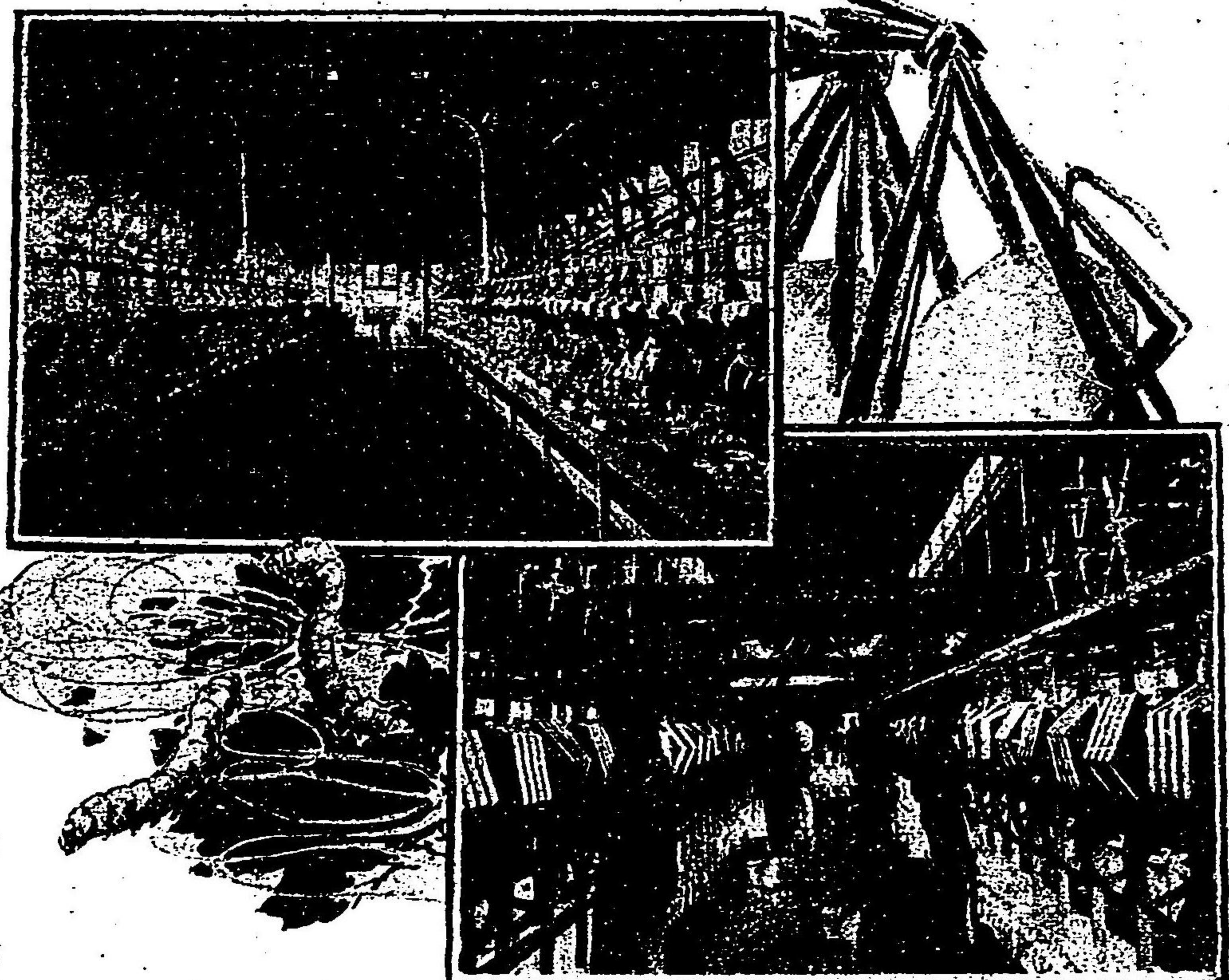
養蠶短期講習生採桑の状況



産業要覽

縣下各郡に養蠶短期講習會を開設し、盛んに講習生を養成し、降つて四十年には縣費を補助して生絲共同場返所の新設若くは増設をなさしめ、四十一年には桑園改良獎勵規程を發布し、桑園の改良増殖を企畫せり。縣は又四十三年度に於て、蠶業に關する農事講習所を新に匝瑳郡福岡町に設立し、蠶業講習生を養成すると共に技術の改良統一を圖り、更に大日本蠶絲會千葉支會に補助金を交付して、斯業の發達を獎勵せり。本縣は蠶業の後進國にして、養蠶製絲共に尙未だ幼稚の域に在るを免かれずと雖も、而も獎勵の結果、其の生産は既に縣下重要物産たるの位置に進み、殊に産繭の如きは急進的發達を爲し、其の産額十萬石以上に達し、製絲の價額亦百餘萬圓に上るに至れり。本縣に於ける斯業の前途は頗る有望にして、其の發達の駁々たる、將來殆んど測るべからざるもの有らんとす。

製絲工場内景



産業要覽

養蠶 本縣は氣候に於て早く蠶を飼育し得るの利益あり、又桑園として利用し、收益を見らるべき土地多きを以て、養蠶は農家の副業として特に最も適當なるものと云はざるべからず。去れば養蠶は、近來の開拓にかゝるに拘はらず、長足の進歩を爲し、其の速度の顯著なる全國殆んど其の例を見ず。桑園の如きも、改良増殖を獎勵したる結果、山林原野の開拓、各地に行はれ、最近十年間に約三割五分の増加を示し、桑樹の種類、栽培法等、着々改善の緒に就き、且つ一般に秋蠶の飼育も亦普及するに至れり。縣下に於て最も養蠶の發達せるは、匝瑳、山武、香取、印旛の四郡及び海上、長生二郡の一部にして、其の他の各郡は將來尙

擴張増殖の餘地多大なりとす。左の統計は本縣に於ける養蠶進歩の趨勢と現況とを説明するものなり。

年次	桑畑反別飼養戸數	春蠶		夏蠶		秋蠶		合計	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
三十九年	七、九五	—	—	—	—	—	—	—	—
四十年	八、八五	—	—	—	—	—	—	—	—
四十一年	九、三〇	—	—	—	—	—	—	—	—
四十二年	九、四〇	—	—	—	—	—	—	—	—
四十三年	九、五五	—	—	—	—	—	—	—	—

蠶種 蠶業の新開地たる事實は、本縣に於ける蠶種製造の状況も略ぼ想像するに足るべし。本縣は九十九里地方の如き、利根沿岸の如き、其の他風土の關係に依りて蛆害寡く、蠶種製造には恰適の地利を占め、且つ本縣製の蠶種は最も完全なるに拘らず、之が製造の事業未だ發達せず、其の製造高は縣下掃立總數の半ばを滿たすに至らず、過半は之を他府縣の供給に仰ぐの状況に在り。然れども縣は頻りに蠶種製造を奨励すると共に、一般養蠶家をして縣内製蠶種を掃立飼養せしむるの方針を取り、當業者亦同業組合等を設けて、此の方針の實行に努め、品質の改良を圖ると共に製種の發達を促しつゝあれば、産額漸次増加して、今や製造戸數二百を越へ、原種及び製絲用種を併せ、六萬枚内外を製造するに至れり。

製絲 繭の産額の増加に伴ふ能はず、其の歩武極めて遅々たるは、甚だ遺憾とする所なり。蓋し山

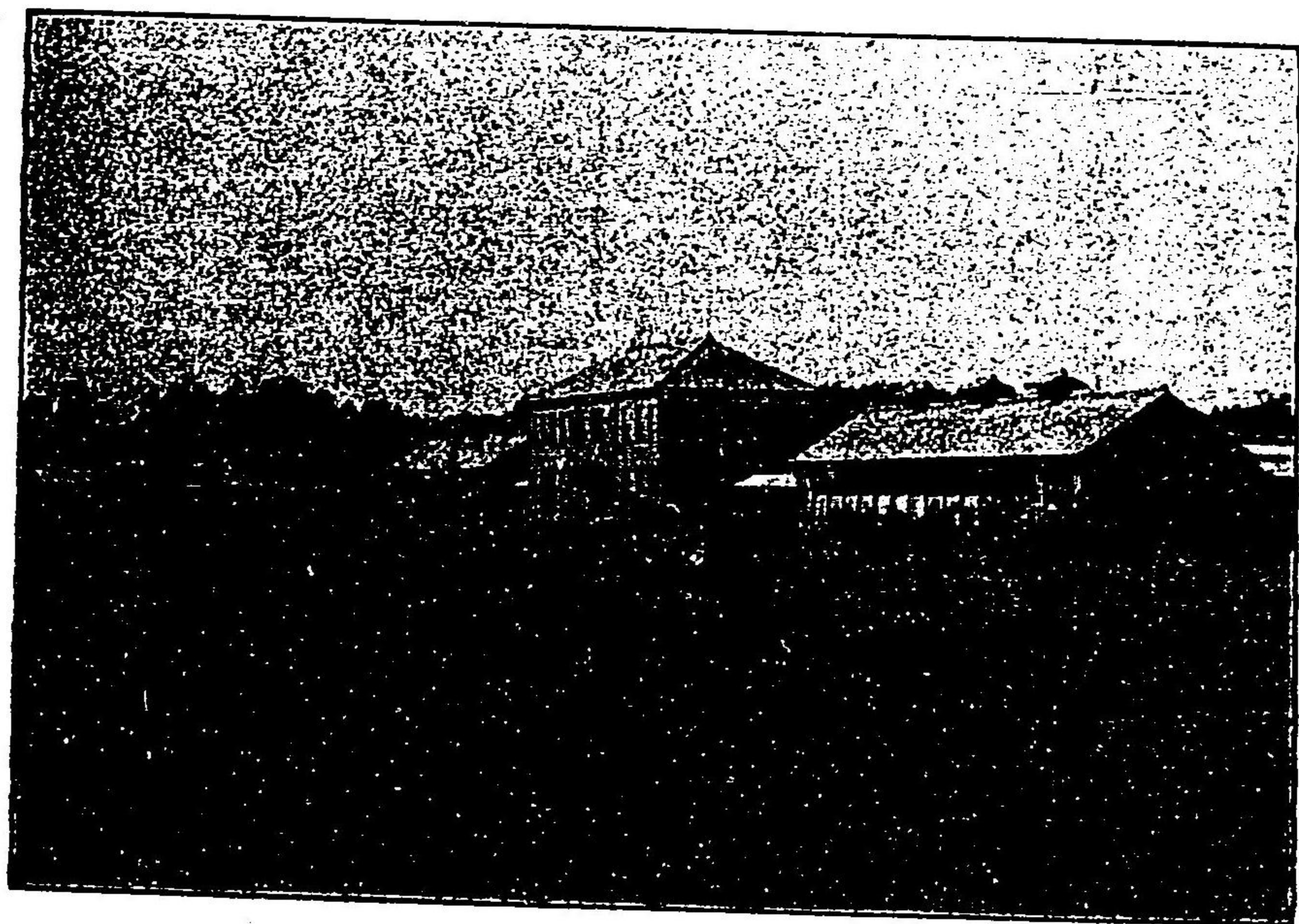
武、匝瑳、海上、香取等一帶の地は、概して用水缺乏又は不良にして、大なる製絲工場の設立に適せず、従て斯業の經營は小規模の組織に待つもの止むなき状態に在り。然れども千葉、市原、君津、夷隅等の各郡は、多くは是等の故障少なく、君津郡に於ける五工場の如きは南總組と稱する團體を作り、共同して揚返及び荷造販賣を爲し、優等生絲として聲價を横濱市場に博せり。其の他東葛飾郡我孫子町、山武郡横芝町等に製絲場あるも、何れも長野縣人の經營に係れり。而も製絲年額は左表の如くにして、年々増加しつゝあるを示せり。

年次	製絲戸數		生絲		玉絲		屑絲及屑物		合計價額
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	
三十八年	三	三、七六	一七、一尺	六五、七六	一、一尺	三、九七	三、四九	九三、七三	
三十九年	三	三、〇元	一六、三〇	一〇八、四七	三、一	一〇、三〇	三、四九	一〇五、一五	
四十年	六	三、三六	一六、三〇	一〇八、一四	二、七	七、三六	三、〇七	一〇八、二〇	
四十一年	六	二、九元	二〇、〇一	一〇三、四三	三、七	九、〇三	三、六三	一〇七、〇〇	
四十二年	三	一、八元	二〇、五〇	一〇三、三三	七、三	一七、三三	三、一五	一〇五、四三	

縣立農事講習所 明治四十一年、縣は蠶業に關する智識技術を教授する目的を以て、斯業の比較的盛んなる匝瑳郡福岡町に位置を選定し、農事講習所を設置するの計畫を立て、四十二年に於て新設の工を起し、四十三年三月より開設せり。講習所の總面積六町四反一畝餘、内約三町歩の桑園を設け、年々講習生四十名を收容し、學理と實地とを講習せしむ。養蠶室三棟あり、蛾量六十餘を掃き立つ

ることを得。北方に第三紀層の臺地を控へ、南方は九十九里濱沿岸の渺茫たる平野に面し、風光頗る佳。

**蠶種同業組合** 千葉縣を以て一區域となし、蠶種製造販賣を業とする同業者に依り組織せられ、明治四十年七月、農商務大臣より設立認可を受く。同業者互に協同して蠶種の改良を圖り、營業上の弊害を矯正し、信用を保持するを以て目的とす。設置以來施行せし重なる事業は、機關雜誌の發行、産卵臺紙及フォルマリンの共同購入、原種無償配付、養蠶業及顕微鏡使用法講習開設、蠶種繭生絲品評會開設、蛹體及蠶種の病毒検査、種繭審査會開設、他府縣情況視察等にして、創立當時の組合員數は百四十九名、蠶種製造高原種用九十二萬餘蛾、製絲用四萬千餘枚に過ぎざりしも、四十三年に及びては、組合員二百二十名、蠶種製造高原種用三百九十一萬餘蛾、製絲用三萬六千餘枚に達せり。



縣立農事講習所

### 林業



**林原野** 全管面積の約四割を占むる本縣の森林は、氣候風土の關係上、樹木の成長は比較的迅速なりと雖も、東北地方の如き蒼鬱たる大森林に乏しく、一般に松、杉、檜、樺等を産出し、頗る薪炭材に富めり。殊に佐倉炭の如きは、彼の池田炭と比肩し、黒炭の白眉として古來名聲を全國に博せり。而も維新以來縣下人口の増殖甚だしく、一方運輸交通の便大に開け、且つ都府工業の發達に伴ひ、諸用材の需用は著しく増加するに至り、民林伐採面積年々五六千町歩を下らず。之に反し植栽面積は漸く二三千町歩に過ぎざるの有様なり。加ふるに近時蠶業の發達は、林野の開墾を促進し、其の反別約一萬町歩を計上され、結局林地の面積は漸次減少の事實を現はせり。今最近の調査に依り、山林原野の現況を左に示さん。

國 御 料 有	公 社 寺 有	民 私 有	山		原		野	
			個 所	面 積	個 所	面 積	個 所	面 積
			二、四六五	七、五〇七・九	一九、六七六	四、三一九・九		
			?	八六・五	?	三、九八六・〇		
			五、三九二	四、一三〇・二	五、二一五	三、二〇三・二		
			九、八三三	二、三三〇・五	八二一	一、二一〇		
			五七七、七四九	一二九、九四六・三	九五、三五五	一五、三〇六・四		
			五九二、九七四	一三六、四〇七・〇	一〇一、三八七	一八、六三〇・六		
合	計	計	一四四、〇〇一・四			二六、九三六・五		

産業要覽

外に保安林個所七百二十五、面積三百七町八反歩あり。其の面積の最も多きは風致林の百二十三町二反歩、次は潮害防備の九十町九反歩、次は防風林の五十四町三反歩、次は水源涵養林の二十町六反歩等なり。

**林産物** 本縣の林産物は、從來薪炭を以て第一となせしが、近時諸用材特に丸角材に係る製材工場、印旛、千葉、山武、東葛飾、安房の各郡に建設され、其の製材の幾部分は管内に於て消費するも、過半は建築及電柱用材として盛に東京市場へ輸出せらる。而して産額は約百萬圓以上に達し、優に薪炭を凌駕するの景況を呈せり。民有林に於ける用材及び薪炭材の伐採は、年々減少の傾向を呈しつゝあり。其の伐採樹種は用材に在りては杉、松を第一とし、薪炭にありては、松、檜及び櫟之に亞ぐ。又薪炭の産額は、最近五ヶ年の平均に據れば、薪は六十八萬圓、炭は五十萬圓なり。木炭の種類は、松を第一とし櫟、樺、楡之に次ぐ。製炭法は佐倉式黒炭を主とし、下總及び上總地方一般に行はる。又白炭は房州清澄山を中心とし、多くは房總の山間部に製出せり。而して本業は多くは農家の副業として農閑に製造され、專業者は甚だ少なし。製品の大部分は東京市場へ輸送す。其の包装は四貫目俵と稱し、茅製俵に正味二貫四五百匁を填充するを以て常とす。次に鋸、愛宕の山腹より採掘する房州石、金谷石及夷隅郡の松部石、海上郡の高神石、並に白土(房州砂とも云ふ)は、産額合計三三十萬圓を計上され、而も需用は常に供給に超過するの盛運に向ひつゝあり。此他竹材類は約十萬圓を産し、雜産

鬼泪山に於る本縣の植林



物亦少なからず。要するに本縣の林産は、約三百萬圓にして、其の大半は縣外へ輸出せり。

**縣基本林** 明治三十八年、縣は縣有基本財産及び模範林造成の目的を以て繼續豫算を定め、其の栽植面積約一千町歩として之に要する經費五萬三千六百餘圓を以て三十九年度より四十八年度迄に杉、松、扁柏、櫟等を植付くるの計畫を立て、之を實行せり。其の規模敢て大なりと云ふべからざるも、而も縣は之に依て確實有利の基本財産を造成し得ると共に、民間に對し林業の模範を示し、其の進歩發達に資益し得るを信するなり。而して此の事業に着手するに當り、先づ君津郡鬼泪山國有林面積七百五十二町歩に對して部分林を設定し、且つ同所附近に五町一反餘歩の苗圃を設置せり。三十九年度以來、前記の樹種を栽植すること約百三十萬本、面積三百餘町歩に及べり。右部分林の分收歩合は、國百分の二十五、縣百分の七十五にして、存續期間は八十箇年と

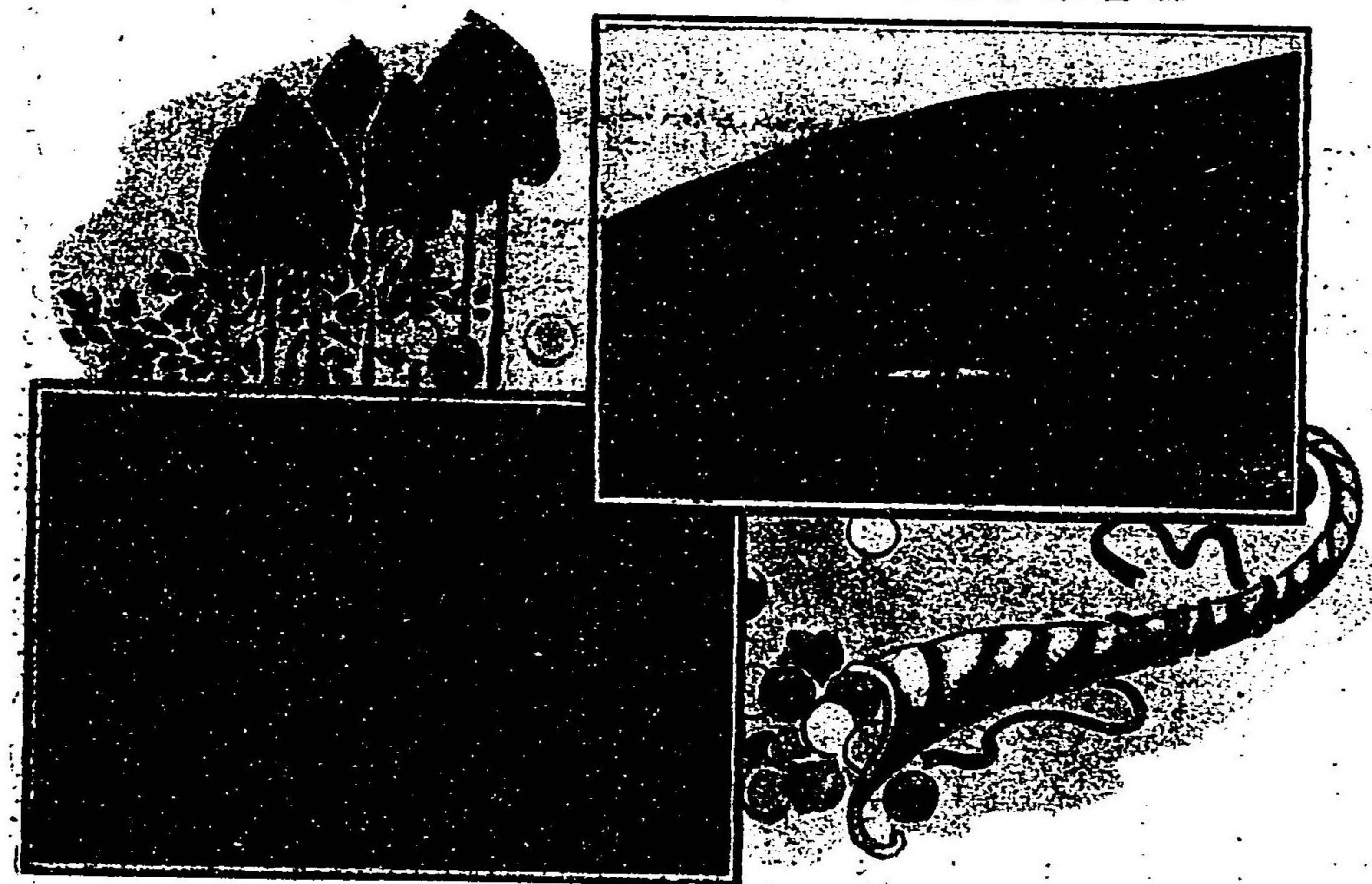


縣模範林 農商務省植樹獎勵費により、明治四十年  
度及び四十一年度に於て、縣模範林の造成施設を  
爲すこと左の如し。

個所	面積	樹種	植栽苗數
安房郡健田村大字大貫	三〇・〇〇	樟	二〇、二〇〇
君津郡富岡村大字下根岸	一〇・三五	同	一、〇〇〇
同郡同村大字下郡	八・六五	同	九、〇〇〇
同郡同村大字田川	一〇・七五	同	一七、〇〇〇
同郡小櫃村大字三田	一〇・二五	同	一、〇〇〇
計	七〇・〇〇		六八、二〇〇

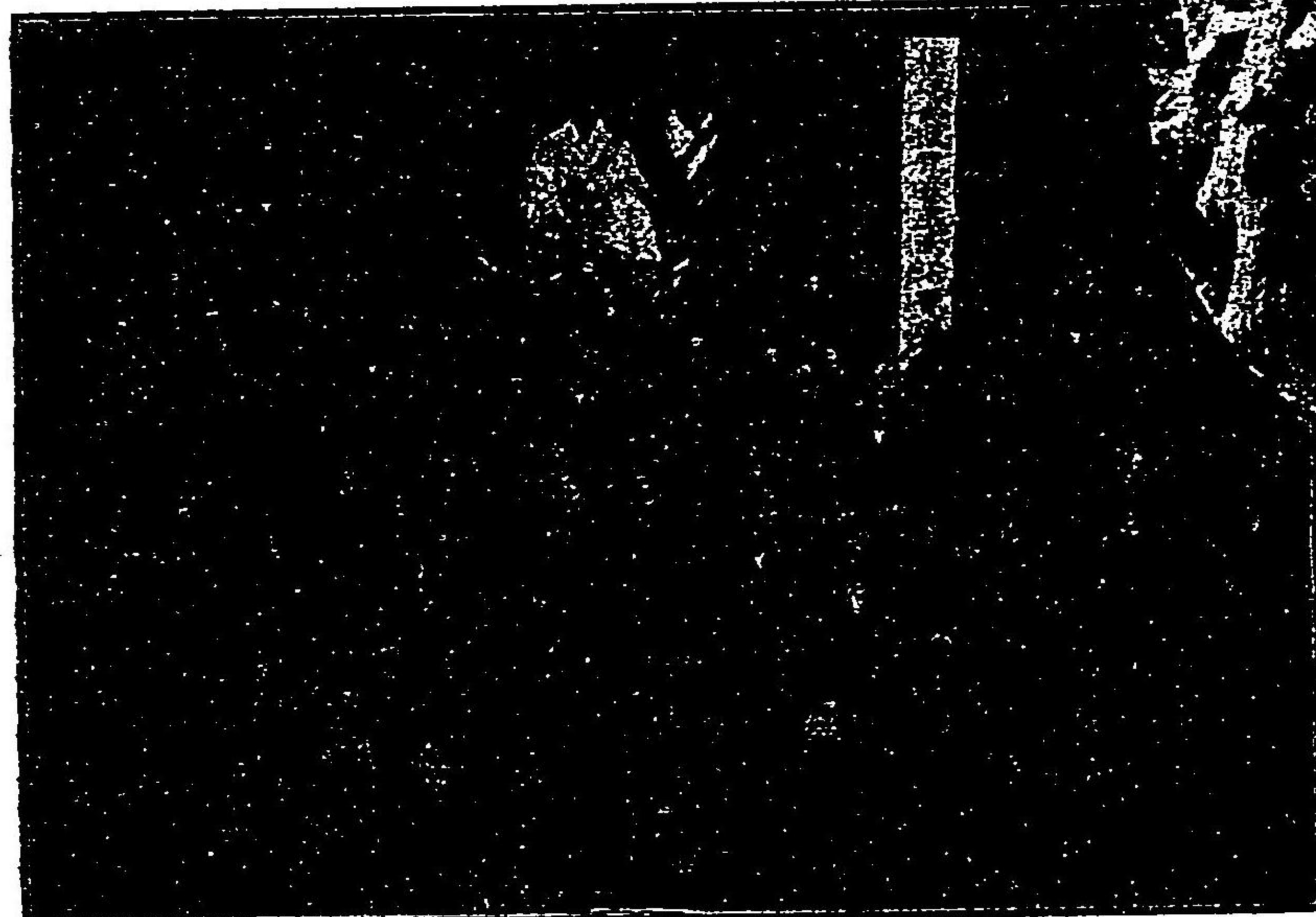
林業講習 從來林業獎勵の爲め、講習會を開催し  
て、林業大意を會得せしめ、一般造林思想の啓發に  
努めたりしが、由來本縣は製炭に於ては名聲ありと  
雖も、地方により粗製濫造の弊あるを以て、之が改  
良の必要を認め、明治四十二年十二月より、檜崎式  
製炭法講習會を開催し、教師二名をして縣下各所を  
巡回せしめ、實地に教習しつゝあり。焚込上手數を

縣基本林植付之光景



山武郡源村の植林

檜崎式椎茸養成所講習生



椎茸發生の實況

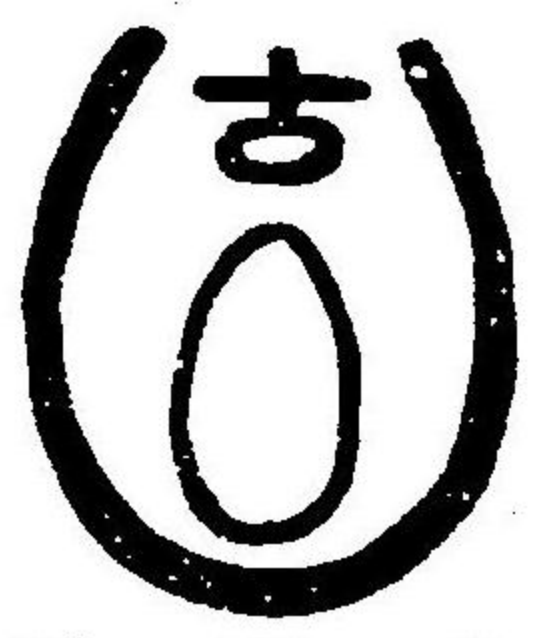
要したるものと、良品を産出し能はざりし地方に  
在りては、其の利する所多大にして、將來面目を  
一新すべき機運に向へり。尙傍ら椎茸養成の普及  
を計らんが爲め、製炭業と共に實地講習を爲さし  
めり。一昨年末以來、該講習會を開催し其の講習  
を了せし者殆んど千人以上に及べり。  
樹苗交付 有用闊葉樹の増殖を圖らんが爲め、  
明治四十二年度より櫛、樟、樺、栗の四種に對し、  
無償を以て之を要求者に交付することを開始した  
り。該年度に於ては、造林面積三十一町歩餘に對  
し、櫛二萬九十六本、樟二萬三千九百十五本、樺  
二萬六百五十本、栗二萬九千三百八十五本、合計  
九萬四千九百十本を交付せり。爾來要求者數増加  
し、豫算の範圍内に在りては、到底其の要求を充  
實するを得ざるが如き傾向を呈せり。

造林補助 魚附林造林補助の必要を認め、明治四十一年度より之が造林を爲すものに對しては、一町歩に付金二十五圓以内の補助金を交付するの規程を設けたりしが、造林を爲す者逐年増加せり。又四十三年度より町村又は町村組合の事業として公有林を造成する者に對しても、一町歩に付金二十五圓以下の範圍内に於て、相當の補助を爲すの規程を設け、公有林の整理開發に努めつゝあり。

いかばかり炭やくとてか遠近の 契沖  
峯にこりつむ眞柴なら柴

知る人も今はまれにそならのはの 春滿  
そのふることは世に傳へても

畜産業

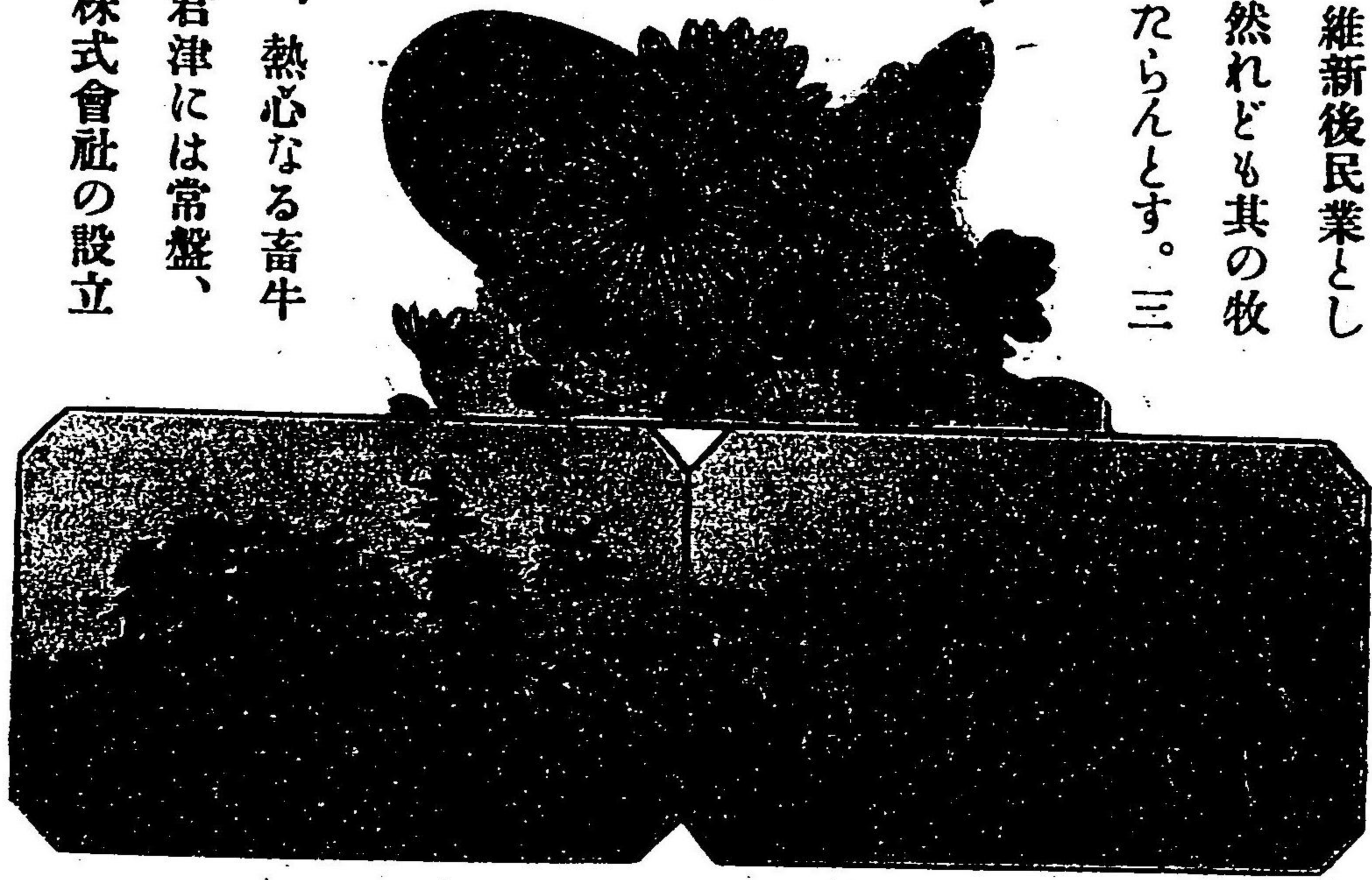


來の大牧場 曠原沃野連なり、水澤青草潤ひ、天然の要素備はりて頗る牧農に適する本縣の畜産は、其の淵源遠く、千二百有餘年の昔、文武帝の御宇、諸國に牧場を定め、牛馬を放ちて之が蕃殖を獎勵せられたるに濫觴せり。其の沿革は殫狀すべきに非ざるも、古來安房には嶺岡牧場あり、下總には小金牧、佐倉牧あり。元暦年間、右大將頼朝の時代に於て、共に最も旺盛を極め、徳川時代には特に牧士を置き、最要の大牧場として名聲を天下に博せり。是れ先づ特筆せざるべからず。

三牧場の今昔 古來の三大牧場は、幾多の盛衰變遷を経て、明治維新の際迄存続したりしが、時勢の推移は、歴史ある牧場にも變化の波瀾を及ぼしたり。『十里靡蕪族々芳、輕籠瑞靄華山陽』と謠はれし小金牧は、明治初年に廢絶して全部開墾地とせられ、當年一茶翁が咏じたる『呼び合ふて長閑さ暮す野馬かな』の光景は又見るべからずなりぬ。佐倉牧亦其の半部を開墾されたるも、而も他の一半は完整の設備を以て優良の洋種牛馬及び緬羊を蕃殖して、帝室の御料に供進すると共に、民間に牧畜改良の模範を示し、且つ地方に良好の種畜を供給して其の普及を圖られつゝあり、即ち三里塚御料牧場是なり。本縣の如きは、此の牧場あるが爲めに、其餘澤を蒙ること尠少ならず。寛政年間白河樂翁

公が、葡萄牙より白牛を購入放牧したりと云ふ嶺岡牧は、維新後民業として經營せられたるも、青松林下に鳴くの白牛は今存せず。然れども其の牧場は近く縣の經營に移り、新施設の下に良牛産殖の種畜場たらんとす。三牧場の變遷、誰か今昔多少の感ならんや。

牛 安房の嶺岡牧場は、慶長年間國主里見氏の開設したる所にて、牛馬を放牧し蕃殖したりと傳へらる。其の後徳川幕府三百年の間、此處に専ら軍用馬を蕃殖し、享保、寶曆年間には、葡、蘭、印度等外國産の種牛馬を輸入し、奥州産の馬をも放牧したり。降て明治維新に及び、政府は更に英國及び和蘭産の牝牡牛を放牧し、一層其の蕃殖を圖れり。其の後明治九年民間有志に該牧場を賃下げ、良種の蕃殖を奨励したりしかば、大に斯業の振興を見、熱心なる畜牛家、安房、君津の各地に續出し、畜牛思想一般に普及して君津には常盤、駒山、高岩山の三牧場起るに至れり。明治廿二年嶺岡畜産株式會社の設立ありし以來、畜牛の蕃殖改良行はれつゝあり。



三里塚御料牧場牛放牧の状況

房州牛 本縣に於ける牛の主産地が房州たることは、云ふ迄もなし。所謂房州牛は、古來其の名高し。由來安房郡は氣候溫暖にして芻草に富み、嶺岡牧場を中心とし、夙に乳用種の蕃殖を圖りしを以て、縣下に於ける牛總頭數の大半を占め、獨り其の數に於て多きのみならず、種類の改善亦普及し、優良のもの頗る多く、就中ホルスタイン種の産地として其の名著はる。房州に次で牛の産地は、君津及び山武の二郡にして、君津郡は其の頭數安房郡に遠く及ばざるも、原野廣くして育牛に適し、乳牛としてホルスタイン種及エアシャー種の蕃殖最も多く、優良のもの亦尠しとせず。山武郡は頭數に於ては僅かなるも、種類一般に改良せられ、生産數比較的多く、エアシャー種の産地たり。此の他夷隅、市原、長生、印旛の諸郡にも漸次發達し、改良蕃殖を圖りつゝあり。

牛種畜場 縣に於ては、從來牛の改良蕃殖に對し奨勵を怠らざりしが、明治四十年種牛改良の目的を以て外國より種牝牛四頭を購入し、爾後毎年二頭づゝを原産地より輸入して、之を各産牛組合其の他の團體に貸付し、以て畜牛の改良を圖れり。然れども斯の如き方法にては、未だ不十分にして、改良普及の目的を達すること容易ならず。縣下畜牛の状況を見れば、牝牛の數は全國中第五位に居るに拘らず、其の牝牛の分娩する産牛數は甚だ少なし、是れ主として種牝牛の不足に由るものにて、且つ本縣の種牝牛は年々劣等に陥りつゝあるを以て、此に大に産牛發展の必要を認め、縣は明治四十三年に於て、新に牛種畜場設置の計畫を立て、四十四年度より着手することゝし、同年度に於ては先づ安

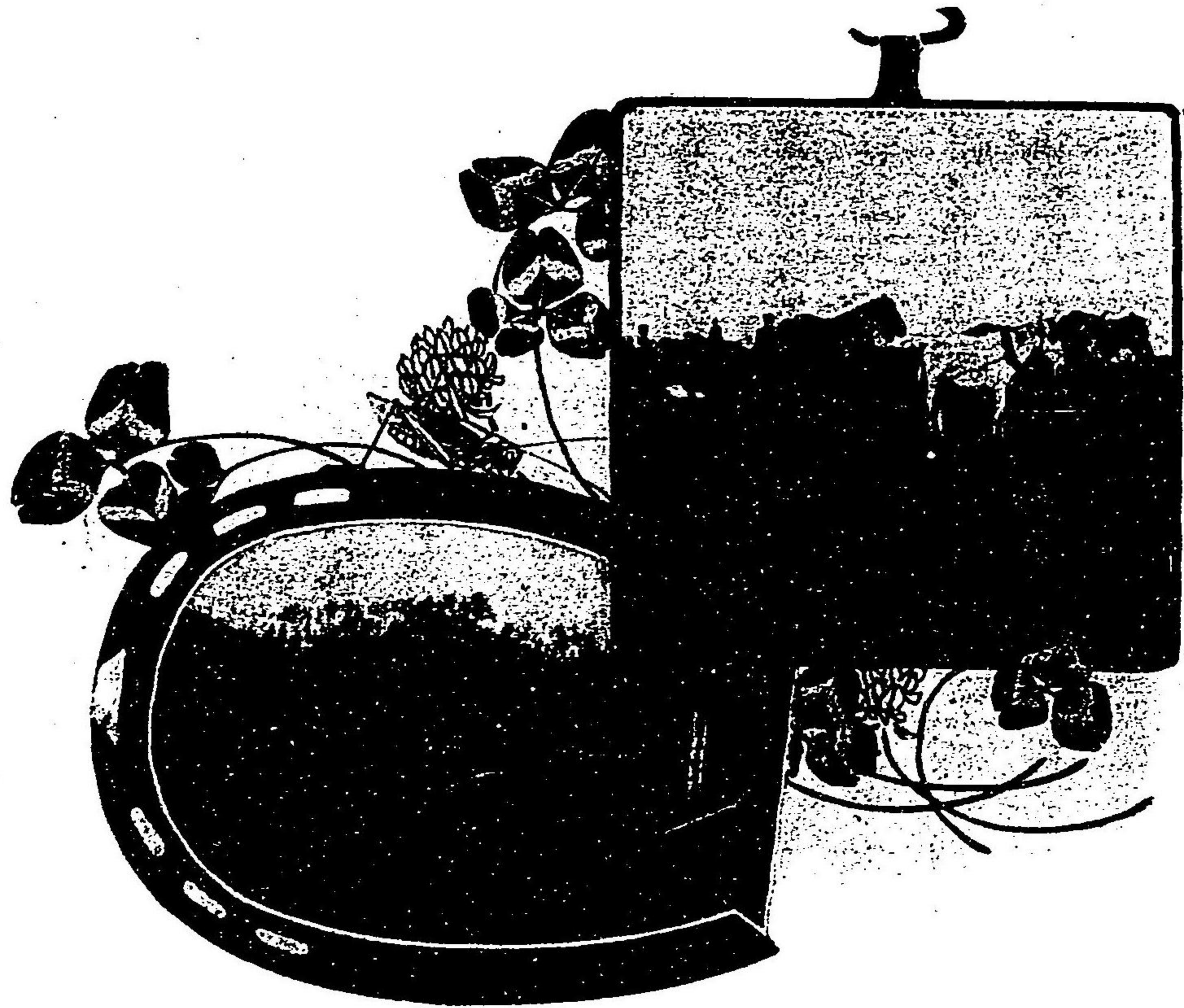
房を始め市原、君津、夷隅、山武、長生の六郡に支所を設け、安房に於ては即ち有名なる嶺岡牧場を買上げ、之を縣營に移し、尋て適當の場所に本場を設置し、三箇年を期して全部の設備を完成するの計畫なり。斯て益々斯業の改善普及を圖り、十年の後には、産牛の利益五百萬圓以上に達せしむる豫定なりとす。

**牛總數** 本縣の畜牛は、其の數に於て關東の首位を占め、産額に於ては全國の第八位に居れり。現在頭數は牡八、四七九、牝二二、五〇二、合計三萬九百八十一頭にて、房州牛は其の半數を占む。最近五箇年間の一ヶ年生産平均は千百三十頭なり。

**馬** 古來の三大牧場中、其の最も廣大なるは小金牧とす。其の總面積一萬五千町歩、之を圍繞する土堤の延長三十五里と稱せらる。往古に於ける放牧の方法は、終歲廣野に放飼して自然的蕃殖を圖り、毎年秋季に於て之を捕獲し、駿馬は幕府に獻納し、他は管理者に於て多くは糶賣に附し、尙ほ其の剩餘は再び放牧するを常とせり。明治維新に至り、小金牧は之を廢して全部開墾地となし、佐倉牧は約其の半部を割きて今の三里塚御料牧場を開始し、明治八年大久保内務卿海外より良種の牛、馬、羊、豚を求めて之を飼養せしめ、以て我國種畜改良の基礎を築けり。又嶺岡牧場は之を民間に貸下げ、洋種馬を放ちて専ら雜種馬の産出を圖り、爲めに漸次該地方の畜産思想を喚起せり。當時下總地方に在りては、三里塚牧場により良種馬の蕃殖を進め、又安房地方は嶺岡牧場に於て糶賣するものを購入し、

其の他の地方は東北の産馬を輸入して、乗用或は勞役運搬に供する状態なりき。本縣の産馬業は、上古よりの歴史を有するに拘らず、世運の變遷と共に久しく萎靡として振はざりし。

**産馬獎勵** 日清、日露の兩役は、産馬事業に一大刺戟を與へたり。明治三十八年、縣は馬の種畜場を設置し、汎く民間牝馬に種付を實施し、改良蕃殖を獎勵すると共に、一面には更に其の目的の遂行を圖らんが爲め、三十九年十二月産馬組合をして香取、山武二郡内に蕃殖牝馬共進會を開催せしめ、其の費用を補助し、爾來年々同品評會を縣に於て開き、優良牝馬に賞金を交附せり。又各地に畜産講習會を開催し、或は牧草の試作を行はしめ、その他運動場の開設、産駒糶賣場の設置等、斯業の改良獎勵上必要の施設は着々之を實行し、今や前途有望となれり。

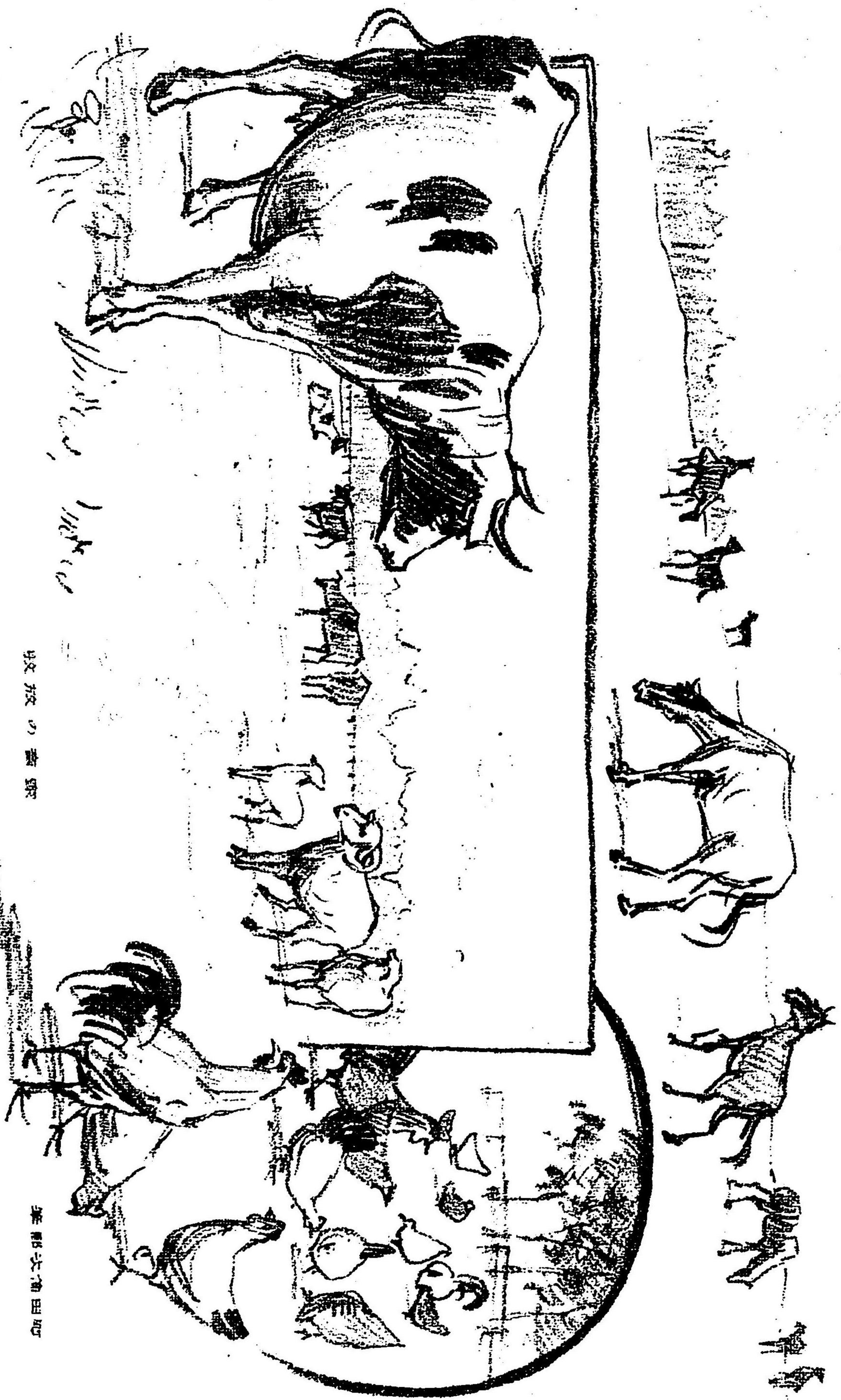


御料牧場耕園犁起の状況

**馬種畜場** 明治三十八年の創設にかゝり、千葉郡都村に在り。種牡馬數頭を繋留し、種付規程を定めて、民間牝馬に種付を爲せり。四十四年度に於て更に種牡馬を購入する計畫にて、設置以來良好の成績を呈し、本縣産馬の改良蕃殖を圖りつゝあり。

**馬總數** 馬の主産地は、香取、山武及び印旛郡とす。其の數未だ多からざるも、同地方は下總御料牧場の接續地なるを以て、其の血種を享け、品格優秀のもの多し。縣下に於ける馬の現在頭數は、四萬三千六百三十八頭にして、年次約四百頭を増加し、馬格又改善に向ひつゝあり。

**豚** 養豚事業に於て、全國中嶄然頭角を現はせるは、我千葉縣なり。本縣に於ける養豚事業發達の端緒は、明治二年印旛郡の人角田某、『高百石に付種豚二頭を畜養すべきことを全國に令せば、必らず國益を興すべき旨』を建白し、政府之を嘉納して其の飼育蕃殖の事を管理せしめたるに依り開かる。當時氏は東京府下に養豚協議社なるものを設けると共に、縣下にも種豚を輸入して熱心蕃殖を圖れり。其の結果農家は各自競ふて飼育に従ひ、明治五六年の頃には最も旺盛を極めたり。然るに其の後市價騰落甚しかりし爲め、漸次衰退に赴きしと雖も、千葉地方は甘藷の主産地にして、其の廢物を飼料に供し得るの便益あるにより、農家は終に飼養を持續し、又山武其の他二三地方にても、養豚の利益を認め、依然として蕃殖を圖るものありき。降て明治十五六年以來、肉食漸く流行し、豚の需用大に増加せしを以て、爰に氣運を挽回し、千葉を中心として飼養者各地に興り、東京其の他各地への輸出尠



別印旛郡香取縣都村三十八年

養豚の盛況

養豚人角田

なからずと雖も、之を製造して販路を遠地に索め、又は永く貯藏して、不時の需用に供するの利あるを知らず。依て臘乾及鹽藏肉製造所を千葉町に開設し、斯業に經驗を有する森田龍之助なる者をして之が製造を爲さしめ、本邦海軍省又は露領浦鹽斯德、其の他各地へ販路を開きしに、孰れも製品佳良にして能く貯藏に堪ふるの好評を博し、將來有望の事業なりしも、如何せん原料乏しく、従て價格不廉なるを以て、各地の需用を満たす能はず、遂に二十二年に至り、事業を廢絶するの餘儀なきに至れり。爾來養豚の事業、多少の浮沈盛衰なきにわらずと雖も、縣の奨励と、一般需用の増加に促されり。明治二十三四年の頃は、頭數既に九千頭に達し、十年前に比し約四倍となれり。産額の増加と共に種類の改良を圖るの必要を感じ、明治三十五年縣農會をして種豚場を設置せしめ、七塚原牧場或は月寒牧場澁谷分場等より拂下を爲し、若くは原産地より良種を輸入し、之を飼養して種豚の供給及び種類の改良を圖り、又三十五六年には豚家禽共進會、畜產品評會等を開き、汎く改良種の蕃殖を奨励したれば、今や本縣の豚は、全國に卓越の地位を有するに至れり。

**豚總數** 種類に於ても、頭數に於ても、全國に誇るを得るの本縣は、縣下各郡到る處豚を見ざるなく、一郡少なきも四五百頭、多きは二千頭以上を有せり。其の現在總頭數は約一萬四千頭にして、主産地は千葉、東葛飾、君津、香取、海上、印旛、長生郡等なりとす。

**家禽** 是亦本縣に於て盛況を呈し、家禽の生産力は、實に全國第一位を占む。其の今日ある、由來

なくんばならず。回顧すれば今より廿六年前、即ち明治十九年、米國より淡色ブラマー、バフコーチンの二種を輸入し、之が繁殖に努め、其の種卵を汎く民間に拂下げたり、是れ本縣に於ける洋鶏の嚆矢とす。翌二十年に至り、更に縣に於てミノルカ、アングルシヤン、レグホーン、プリマウスロックの四種を輸入し、頻りに卵用種の繁殖を奨励したるを以て、是より各地とも養鶏熱心家勃興の機運に向へり。然るに當時一卵十數圓の高價を以て賣買さるゝ等、徒に好奇心に驅られ、經濟的觀念の如きは甚だ乏しかりしかば、爲めに本業は却て反動を來たし、一時頓座して、沈衰の狀態に陥り、加ふるに數年間洋種の輸入杜絶したるが爲め、逐年種類の退歩を見るに至れり。而も一般縣民の養鶏改良思想は、寧ろ此時代に於て發達したるが如し。後三十六年横濱の商人により、レグホーン、ミノルカ其他數種の輸入を開始したるを動機となし、種禽の輸入漸く増加し、其の飼養法も前年に異なり、全く着實的、經濟的を主とするに至る。是と同時に卵肉



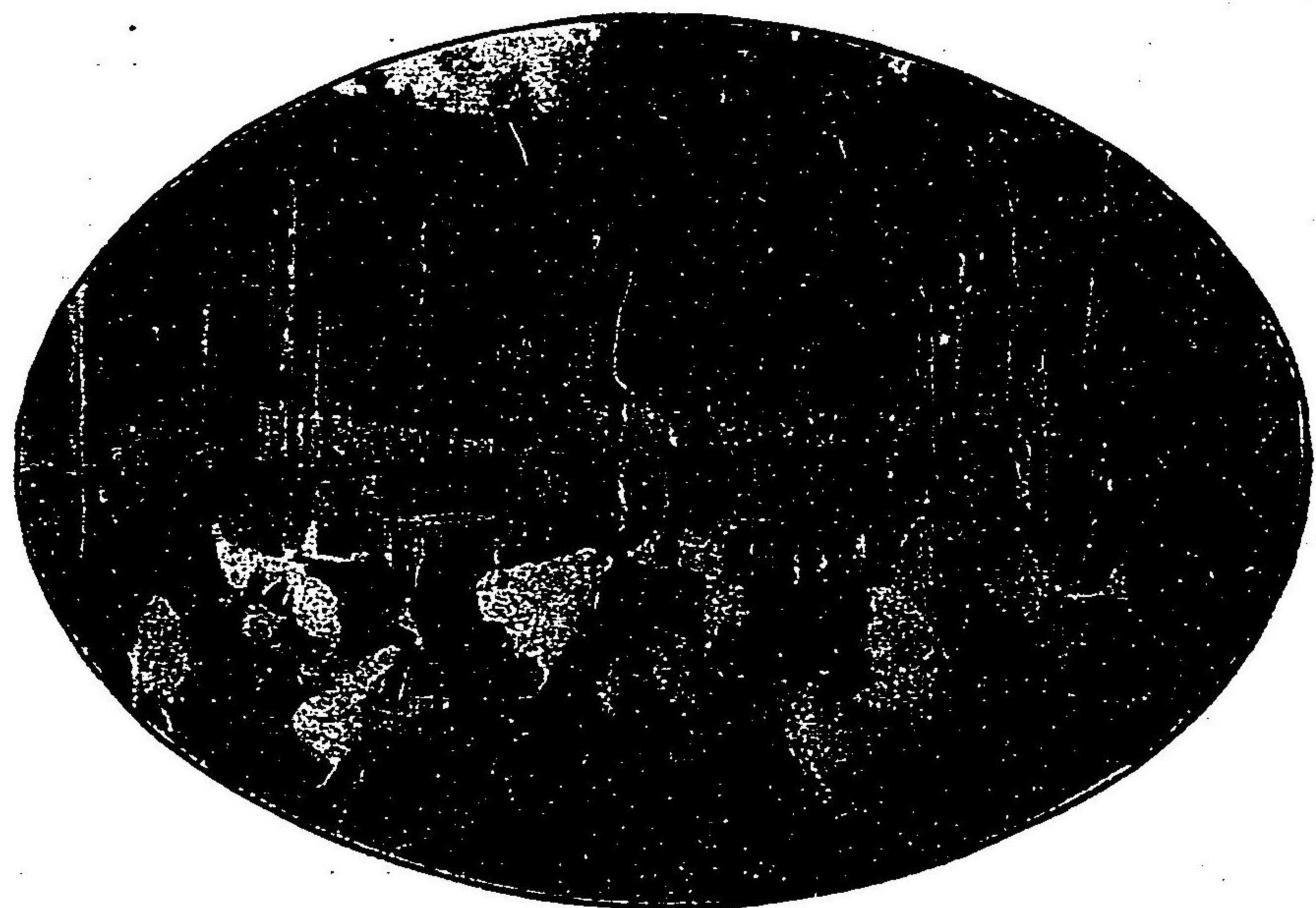
種豚ヨクアヤ

需要の劇増は、大に本業の發達を促進し、農家の副業として、最も有利有望なるを認められ、爰に明

治三十七年千葉縣家禽協會組織され、又三十九年には新に家禽改良組合を起して家禽協會と合同し、縣費の補助を受け、種禽の購入、其他改良奨励の機關となり、四十年には縣農會に於て種禽場を設置し、爾來種禽種卵の配付を爲し、又縣、郡若くは農會に於て、家禽品評會を開催する等、官民協力して斯業の普及發達に努めたる結果、近來種類著しく改良され、其の産額亦大に増加して、卵肉の價格、一年合計二百六萬五千餘圓に上るに至れり。

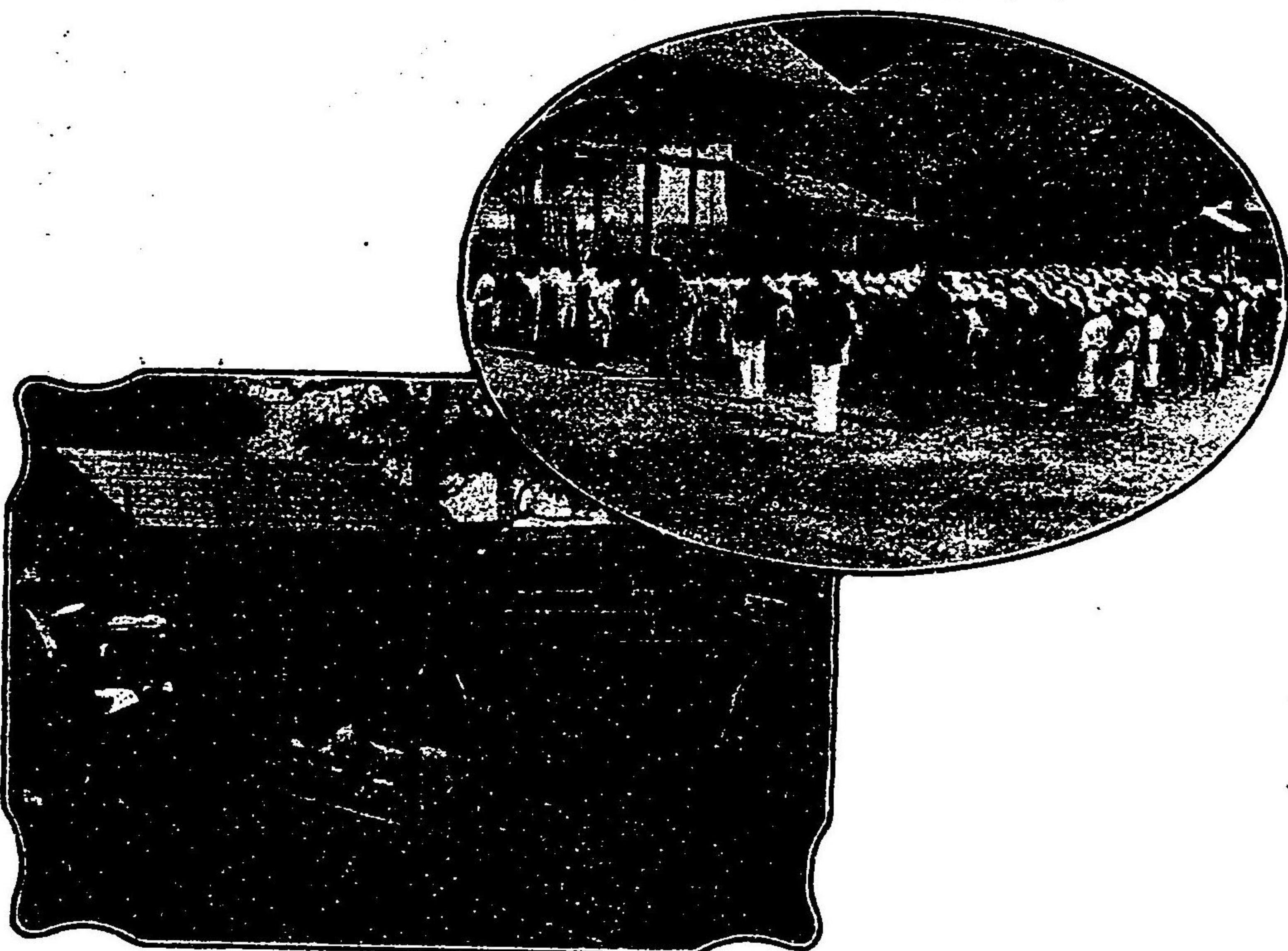
家禽原票調査 全國第一位を占むる家禽の計數調査に就ては、之が精確を期すると共に、小學兒童をして統計的實習の興味を得せしめんが爲め、特に家禽原票調査法を定め、小票を兒童に與へ、學校職員及び町村吏員監督の下に、明治四十一年七月十日を期し、縣下一齊に本調査を施行し

たり。此の結果として本縣は、家禽に於ては最も信憑すべき統計の基礎を作り得たり。



家禽飼養狀況

小學校兒童と家禽調査



家禽數 本縣の養鶏は、農家の副業として營まるゝを以て、之を愛知縣に比すれば、專業者割合に少なし。其の飼育戸數及び家禽數の最近調査の結果は左の如し。

飼養戸數		成禽		産卵	
十羽未満	十羽以上	價	格	個數	價格合計
五十羽未満	五十羽以上	七六、三三	六四、五九	八、〇二、五九	一、五六、六六
百羽未満	百羽以上	五八、五三	二、〇五、三七	二、〇五、三七	二、〇五、三七
以上	以上	九〇、三六	五、四三		

煉乳 縣下の畜牛はホルスタイン及エアシヤ一種多數にして、農家に於ける犢飼養の殘乳、即ち乳製品原料頗る豊富なるを以て、明治二十五年以來、市原、君津、安房各郡内に

煉乳製造を創むる者續出したるも、其の技術の不充分及び資本不足等の關係より、該業の興廢常ならざりしが、近來漸く製造の方法進歩し、確實に其の事業を經營するに至り、現今製造所六、製品高十五萬磅、價額約二萬八千圓に上るに至れり。

牛酪 バター製造は未だ幼稚にして、製造高亦甚だ多からず。然れども前途有望の事業なるを以て、縣は明治四十三年度に於て、バター製造機を購入し、其の製造方法を實地に講習せしめ、以て斯業の進歩を圖りつゝあり。

としことにひなをあまたの家つとり 千 陸  
かけてや千代のさかえしるしも

五月雨の晴まもとめてすきかへす 秋 成  
水田のあゆみうしとこそみれ



## 水産業



國第一位 漁業に於て、天惠の好位置を占むる本縣は、沿海線延長約百里に亘り、近海及び遠洋の漁業に適し、其の水産額、統計の示す所は七百餘萬圓なるも、實際に於ては千萬圓以上と推算せられ、北海道を除く外、優に全國第一位に居れり。縣下十二郡中、海に頻せざるは僅に香取、印旛の二郡のみ。東葛飾、千葉、市原、君津、安房の五郡四十ヶ町村は東京灣に、安房郡七箇町村は外房州濱に、夷隅の九箇町村は夷隅濱に、長生、山武、匝瑳、海上の四郡二十一箇町村は九十九里浦に、海上郡内七箇町村は銚子浦に面し。又内陸には、湖沼處々に湛へ、印旛、手賀、長沼、與田浦を其の大なるものとし。河川には利根、江戸の二大流を始め、栗山、小糸、夷隅、一宮、養老、小櫃の諸川あり。河海湖沼共に水族に富み、鹹水魚の脂美と、淡水魚の芳味と、千葉縣水産の名、天下に高し。

漁業概要 最近の調査に據れば、漁業總戸數六萬三千戸、人員二十五萬五千五百人。漁船は日本形船二萬三千餘隻、西洋形船二十餘隻、漁網三萬五千餘張。漁獲物の重なるは、鱈、鯉、鮭、鮪、秋刀魚、鯖、鯛、鮑、其の他、介類、海苔、海藻、川魚等とす。統計の示す價額は、鹹水産五百萬圓内外、淡水産二三十萬圓、水産製造物二百萬圓以上、計約七百萬圓なり。水産の改良發展に關しては、從來獎

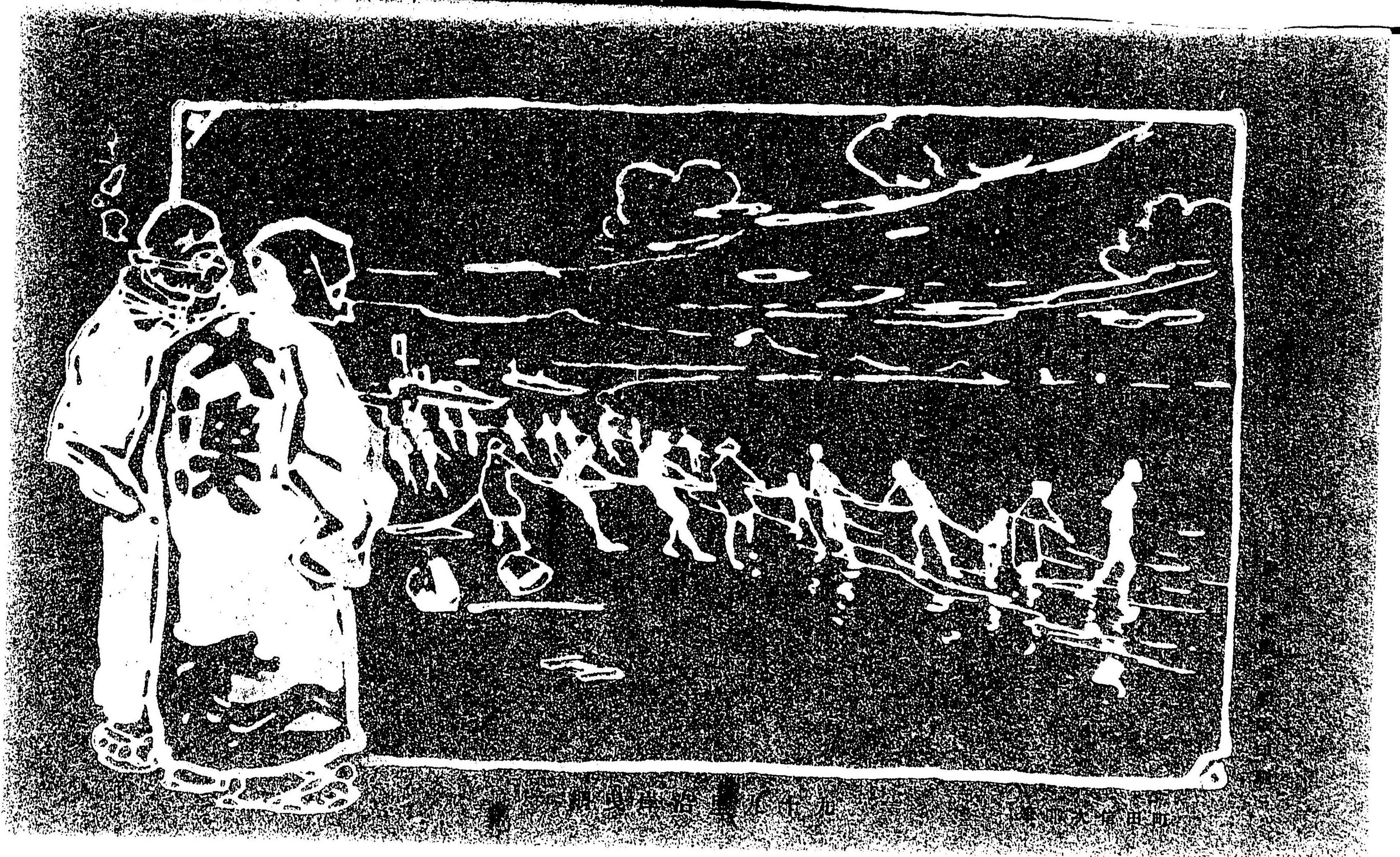
勵する所ありしが、去明治三十二年度より勝浦に水産試験場を設置し、那古に支場を置き、漁撈製造養殖に就き、改良試験を實施し、之が成績を一般に周知せしめ、水産の發達を圖れり。後、三十九年那古の支場を廢して、更に同所に水産講習所を開始し、斯業に關する必要の技術を授け、漁業家の養成に努め、石油發動機の漁船を新造して改良漁船の操縦を練熟せしめ、遠洋漁業の研究をも爲さしめつゝあり。又四十二年度より漁業獎勵資金貸付の制を立て、漁船の改良を促し、遠洋漁業の發展を圖れり。更に一面には、各郡に水産組合を設け、郡内水産の發達及び養殖の事業を經營せしめ、尙共同の利益を増進し、事業の統一を計るの目的を以て其の聯合會を組織せしめ、縣費を補助して専ら指導經營の衝に當らしむると共に、漁業者に海外思想を注入し、移住的漁業に従事する階梯たらしめんが爲め、明治三十九年、韓國馬山浦を漁業根據地と爲し、多數の漁業者を移住せしめたり。次で翌四十年、韓海漁業は、有志團體の經營たらしめ、茲に千葉縣韓海漁業團の組織成れり。縣は之に對して補助を與へ、海外的發展を獎勵せり。今後縣下に適當なる漁港施設を爲し、漁船改良の事業、年と共に進歩せば、本縣の漁業は更に面目を一新し、一大發展を遂ぐるや期すべき也。

漁船改良獎勵 一般漁業に對し、各種の獎勵を爲せりと雖も、遠海漁業に適する漁船の改良を獎勵するは、特に其の急務とする所なり。天然の好地形を占め、豊富の大漁場を有するも、漁法及び漁船にして不完全ならんには、無盡藏の天富も之を開拓すべからず。是に於て本縣は、遠海漁業に關する

實際的智識技術を與へ、漁撈家を養成すると共に、一方には漁船の改良を促し、其の模範を示さん爲に、坂東丸及び小鷹丸の如き石油發動機を備へたる漁船を建造したるも、尙其の漁船改良の普及を圖らんが爲め、明治四十二年度より漁業獎勵資金貸付規程を設置し、年々其の資金を増加して、改良漁船建造に對する資金供給の道を開けり。即ち石油發動機を据付たる改良漁船を建造するものに對し、其の建造費の二分の一を無利子を以て貸與し、一定の期間内に返還せしむるの制を採り、之を獎勵せり。此の結果、今日迄に建造したるもの七隻、目下建造中に係るもの五隻あり。既成船は孰れも相當の漁獲を爲し、好成績を擧げつゝあり。又鴨川水産學校に於ては、四十三年度に練習船として石油發動機付の改良漁船二山丸を建造し、其他實習場の擴張、實習用具の設備をなし、漸次所期の企畫を完了せんとす。

賞旗 縣は又明治四十四年度より、重要漁族の漁獲最も多き漁船に對し、賞旗を授與して之を獎勵することとせり。之が施行を見るに於ては、改良漁船獎勵の計畫と相俟て、沖合漁業の發展を期するを得べし。

鰻 本縣は古來頗る鰻の生産に富み、海濱到る處之が漁業を見ざるなく、就中九十九里の鰻漁は世に有名なり。一年の漁獲高多きは百五十萬圓少きも六七十萬圓を下らず。故に其の豐歉は、漁業者の命脈を支配するの運命を有せり。之が漁具は主に網にして、土地に依り時期に依りて一定ならざる



も、多く地曳、揚操、小晒、六人網等を使用す。鯷の大漁に際しては、一網能く數百千圓の漁獲を見、沿岸の白砂一望悉く鯷の丘陵を築くの盛觀を呈することあり。其の數量甚だ多きを以て、往時は單に之を砂干とし若くは壓搾して肥料となしたりしも、時勢の進歩と共に其の製法も漸次改良發達し、今日に於ては、煮干又は鹽乾品に製造するもの多し。煮干鯷の著名なる産地は、夷隅郡大原、浪花、御宿、豊濱、勝浦及び安房郡鴨川、天津等にして、最近の産額四五十萬圓に上り。又鹽乾、素乾等は、房州、夷隅、九十九里の各沿岸及び東京内灣等に於ける鯷の生産地一體に之を製造せざるなく、其の産額合計三十餘萬圓に達せり。干鯷、粕の主産地は、九十九里沿岸を最とし、從來東京市深川肥料界に於ける市價を左右する程の盛況

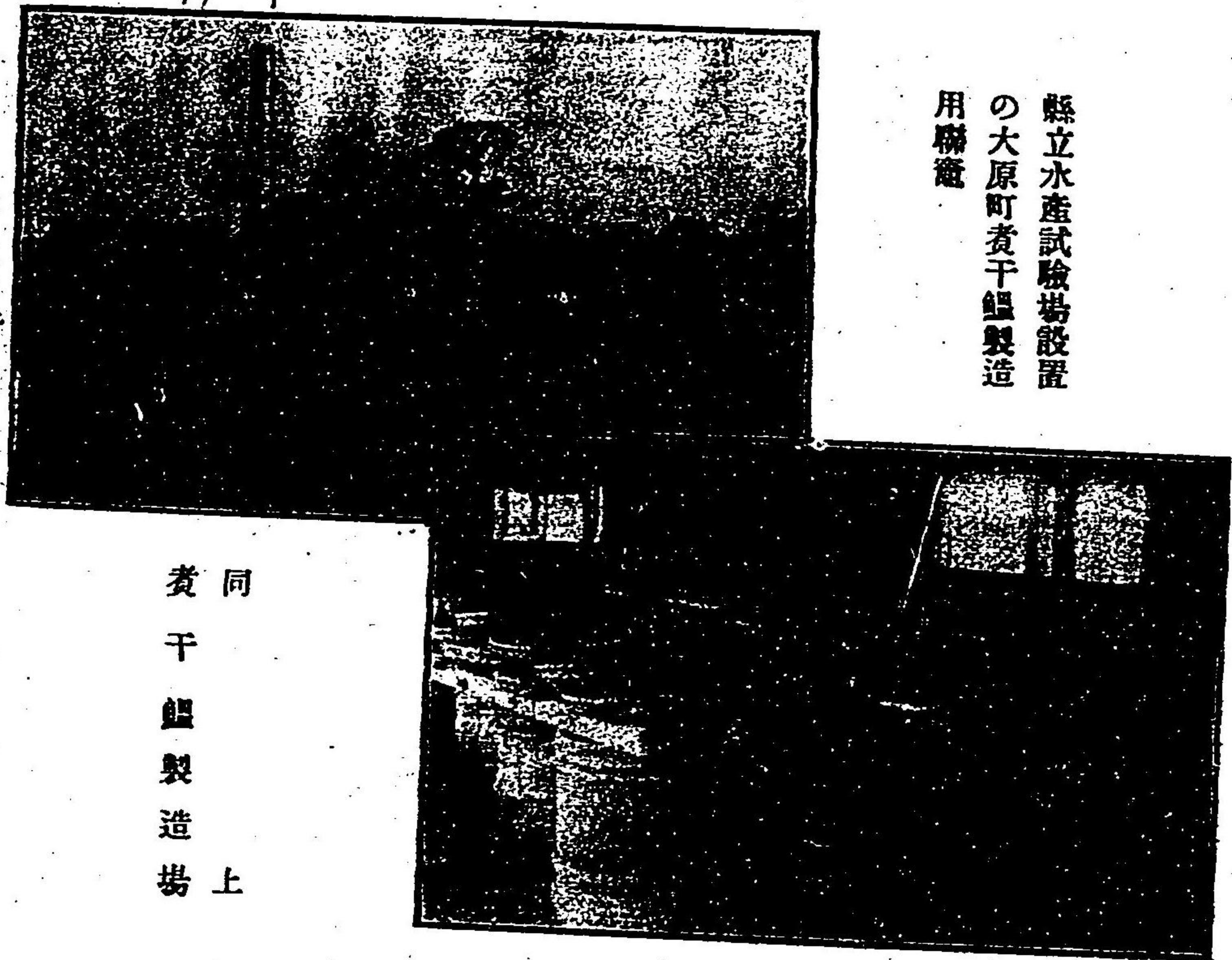
産業要覽

(一の其) 景光の漁鯷濱里九十九



(二の其) 上同

縣立水産試験場設置  
の大原町煮干製  
用聯電



同  
煮干製製造場

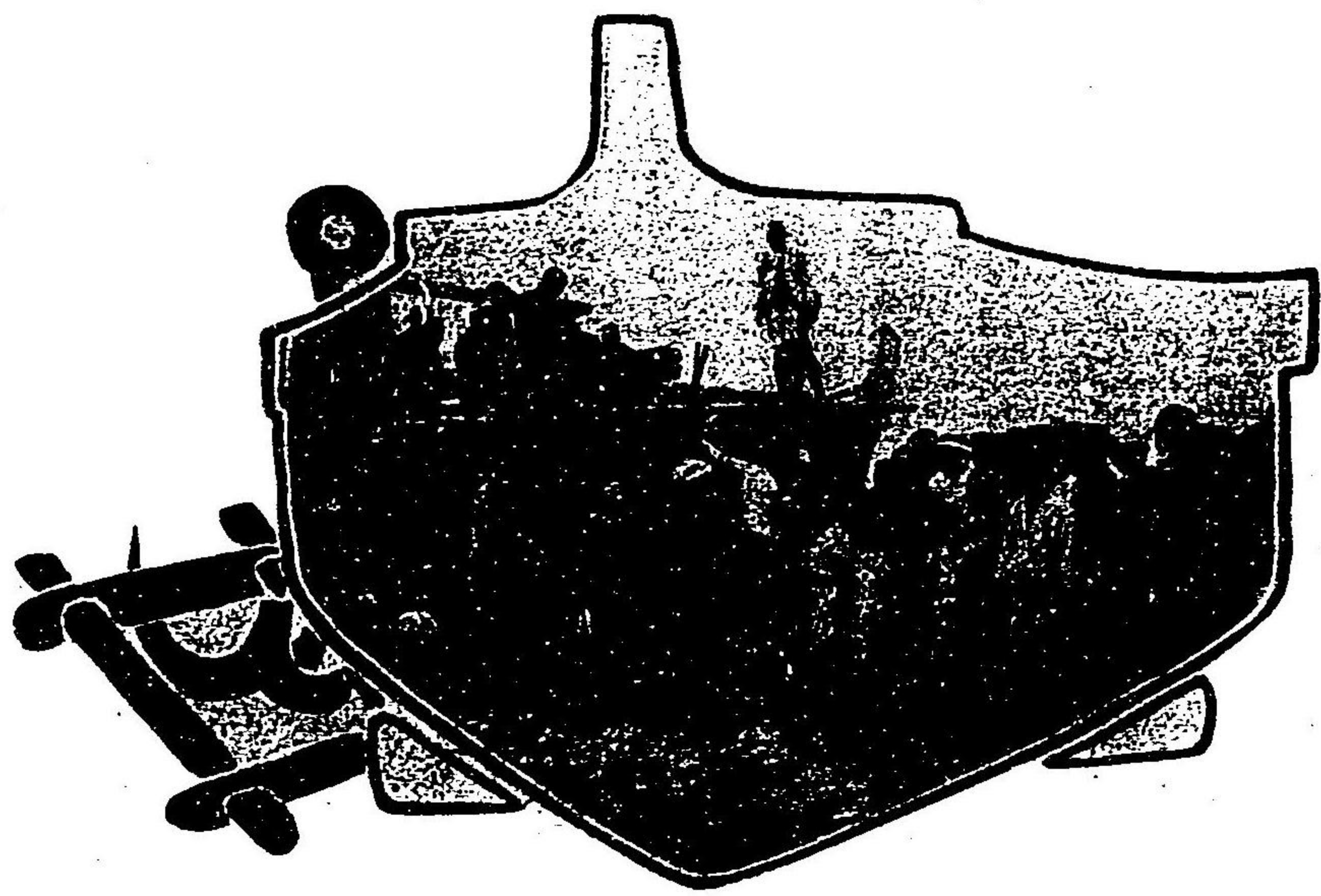
を見たりしが、近年漁獲多からず、且つ交通機關の完備と共に生魚の價值著しく昇騰したる爲め、一般當業者は肥料として化製するの不利益なるを認め、其の製造大に減退したり。而かも最近の産額は尙七十餘萬圓を算し、製品中第一位に居れり。此他田作に化製するもの十五萬餘圓あり。要するに鱈漁は各漁業中、産額に於て最たるものなり。

鯉と鮪 房州、夷隅及び銚子沖並に豆相海面は、其の主要漁場にして、種類は、かつを、こかつを、まぐろ、きわだ、めばち、びんなが、かじき等とす。漁具は一本釣、延縄、流網、及び鯉、鮪網等なり。鮪は生魚の儘、京濱の大都に輸送され、鯉は銚子、鴨川、船形方面にありては水漬となして搬出し、其の他は生魚及び鯉節に製造せらる。鯉の産額は約六十萬圓、鮪は二三十萬圓の間に在り。

鯉節 鯉節の産地として著名なるは、海上郡銚子町、飯岡町、夷隅郡大原町、及び安房郡天津町、

鴨川町、太海村等にして、其の品質は從來静岡縣産に比し、稍々遜色ありき、然も、本縣水産試験場に於て多年改良指導をなし、又各郡水産組合は改良製造講習會を開きて、頻に之が改善を圖りたるを以て、着々進歩の效顯はれ、近時一般に品位を高むるに至れり。製造高の比較的多きは銚子にして、同港は常總地方の鯉船一時に輻輳し、其の生魚の儘直に内外需用地に輸送せらる、もの尠からざれども、三分の二は生魚及び鯉節として製造せらる。由來銚子町に於ける鯉節製造は、原料一時に堆積するを以て、其の製法勢以粗雑に流れ易く之が改良上頗る困難の事情ありしが、數年來改良製造講習會を開き、且つ熟練なる實業教師を備ひ、鋭意改良に盡瘁したる結果、頗る良品を出すに至り、市價亦大に昂騰せり。鯉節の産額は近時三四十萬圓に上れり。

秋刀魚 鱈に次ぐ重要魚族の一なり。東京内灣の一部沿岸を除く外、大抵之が來游を見ざるはなし



鯉 節 光 景

と雖も、就中夷隅郡の一部及び安房郡東海岸七浦方面を以て主産地となす。其の漁期は僅に十、十一、十二の三ヶ月間に過ぎざれども、之が漁業の豊凶は鯉と同じく所在漁民の經濟に影響を及ぼすこと甚だ多大なるものあり。漁具は秋刀魚網と稱する旋網を使用し、一網能く十數萬尾を得るありと雖も、規模廣大なるが爲め、魚群の來游少なきときは、收支相償はざるの憂ひを免れず。然るに近年規模小なる流網の之に適用せらるゝに及び、輕便なるが爲め各地競ふて之を使用し、其の勃興と共に漁獲甚だ上れり。漁獲物は延繩釣の餌料用、及び一部生賣となす外、悉く鹽藏となし售賣に供せり。

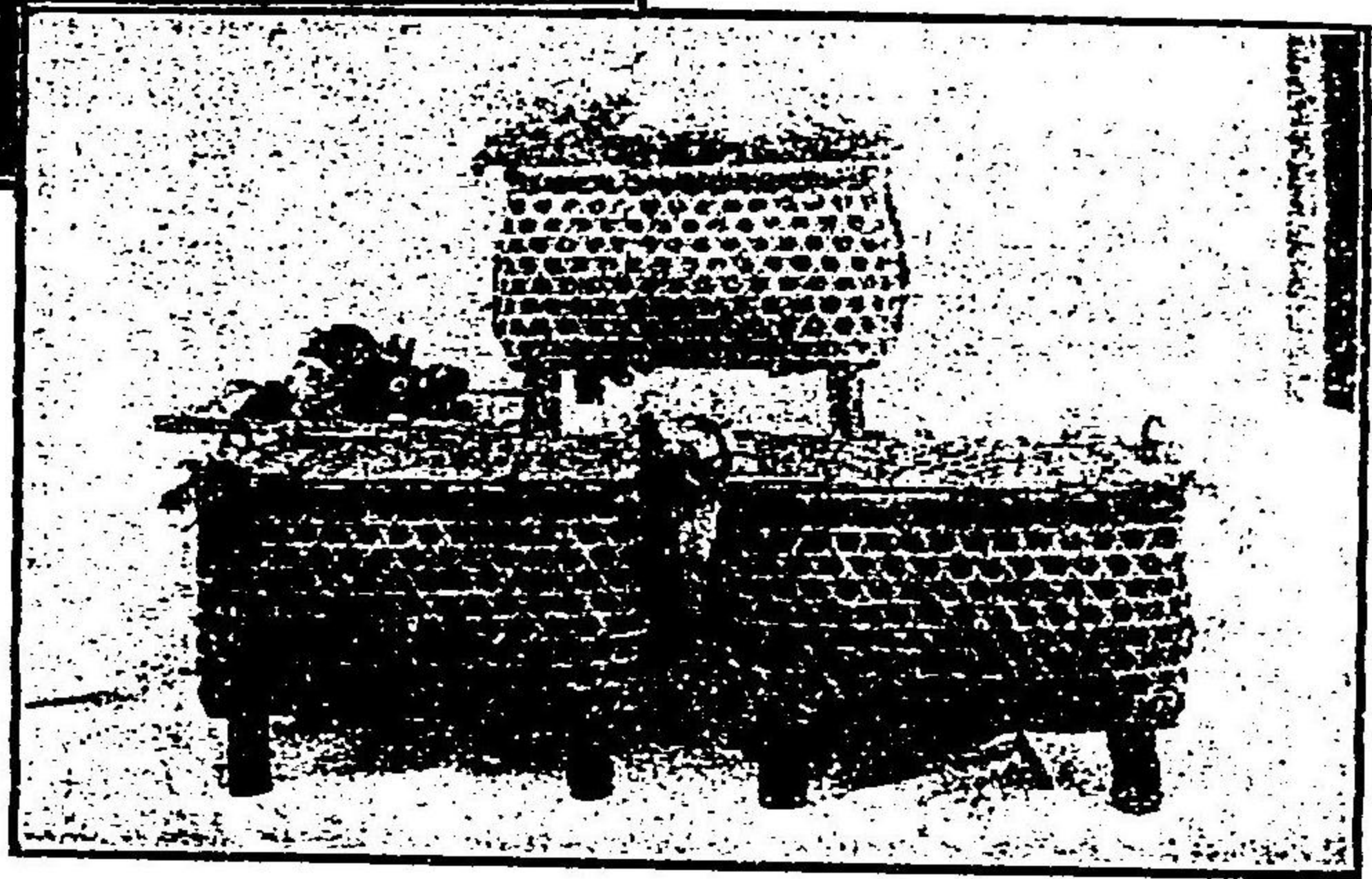
鯛 魚族中最も貴重なる種類に屬し、冠婚其の他式典に缺くべからざる佳魚にして、古來鯉(小位)を以て川魚の王とし、鯛(大位)を以て海魚の王と稱せり。其の種類は鯛、黒鯛の二種にして、本縣の沿海到る處栖遊せざるなく、漁具は手釣、延繩及び桂網を主とす。此の桂網は君津郡大貫、竹岡、金谷地方に於て用ふる特種の漁具にして、漁況頗る奇觀を呈せり。總て生魚の儘售賣に供す、産額二十餘萬圓に及ぶ。

鮑 本縣に産する鮑は、またがひ、めがひ、くろがひの三種並にとこふし等にして、東京内灣、十九里方面の外、かぢめ、あらめ等の繁茂せる各沿岸の岩礁に栖息し、特に夷隅郡大原沖合機械根と稱する鮑礁は、廣袤約三里に涉り、明治十八年發見以來年々多大の生産を見、従つて清國輸出重要水産物の一たる明鮑も頗る佳良のものを出だし、横濱貿易市場に於て名聲最も隆々たるものありしが近

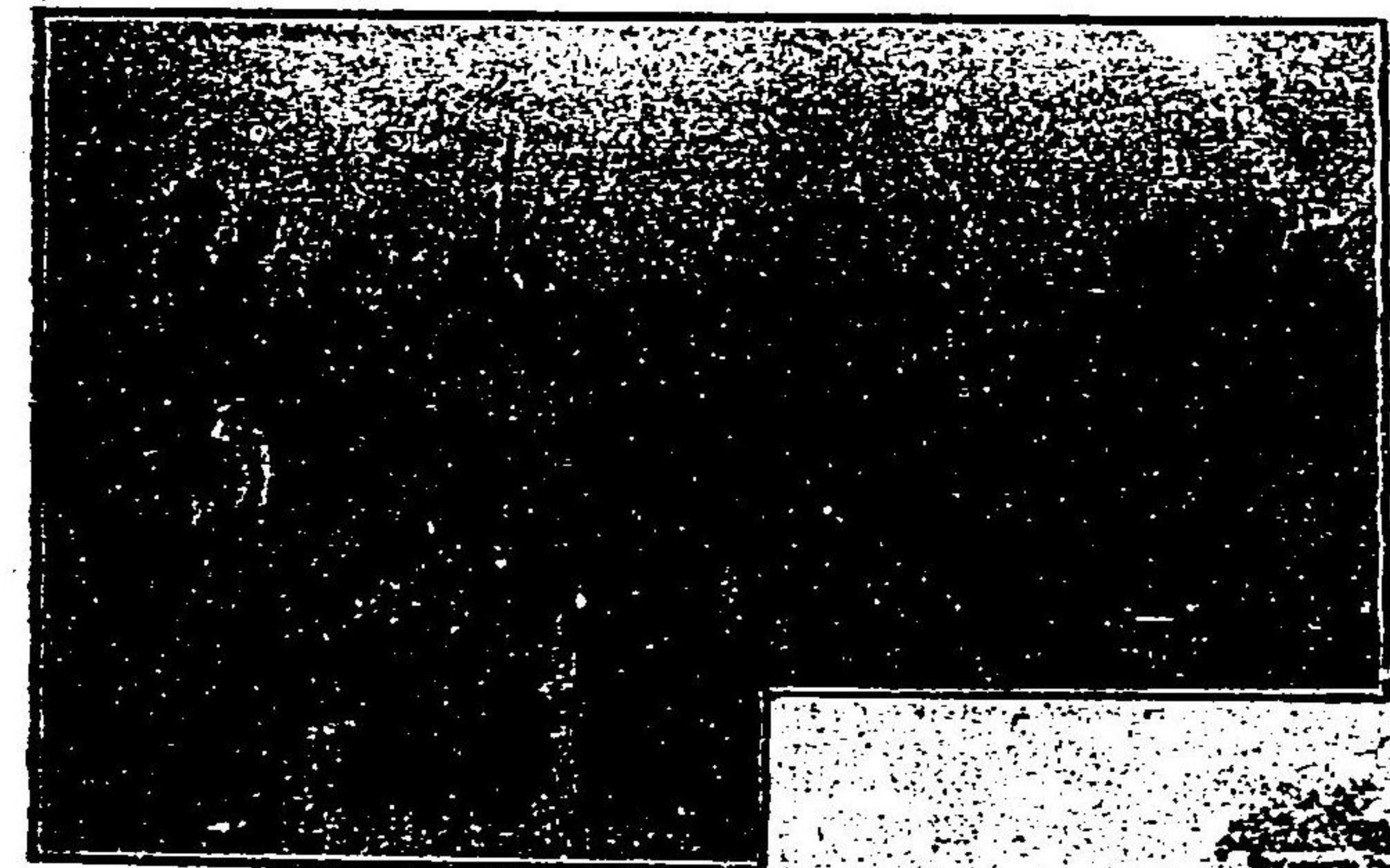
時運輸交通の便開けたると、一面需用劇増したる結果、多くは生の儘輸送され、製造高は逐年減少を呈せり。其の採捕の方法は多く潜水器を用ゆ。

牡蠣 牡蠣は、まがき、いたばがきの二種なるも、まがきを主とす。而して其の生産は東京内灣、夷隅、房州、並に銚子等沿岸の岩石に天然附着するを見るも、人工を以て養蠣を施したるは、明治十六年市原郡八幡町五所金杉地先及び東葛飾郡南行徳村湊地先に試験地を設けたるを嚆矢とす。其の方法は蠣殻其の他の介殻を海中に撒布し、蠣苗の附着如何を試験したるも成績の見るべきものなく、尋で同二十一年東葛飾郡堀江村外二ヶ村并に船橋町九日市外一ヶ村に養蠣試験地を設置し、築立法を行ひたるも、是亦創業の事として充分なる成效を見るに至らず。三十二年に至り本縣水産試験場の設立と共に、養蠣試験として東葛飾郡浦安村、市原郡千種村、君津郡木更津町及び富津町等の各地先に於て、築立法及び瓦附法を行ひ、三十七年よりは東葛飾郡浦安町及び船橋町地先蠣内及び船橋町五日市地先、君津郡富津町地先並に檜葉村奈良輪地先に於ける牡蠣養殖試験場内に於て一般の漁業を禁止し、爾來之が試験に努めたる結果、船橋、浦安、檜葉、木更津等の養殖成績佳良なるを得、以て今日に至れり。其の産額は未だ僅少にして特記するに足らざるも、近時牡蠣の需用一般に著しく増進せるを以て本業は内灣事業としては益々多望となれり。

蛤蜊、馬軻 是等の介類生産地は、殆んど東京内灣全體に涉ると雖も、殊に東葛飾郡浦安町及び船



水産試験場養蠶試験場



橋地先、千葉郡千葉町寒川、市原郡八幡及五井、君津郡洲並に木更津地先等は其の發育最も佳良にして、實に天與の好蕃殖場たり。漁具は貝捲を主とす。是等介類の多くは、拔身となして售賣に供し、又船橋、浦安及び八幡地方に於ては佃煮となし、何れも東京市場に販出さる。而して其の殻は之を以て貝灰を製造し、産額三萬數千圓を下らず。

海苔 本縣に於ける海苔採取業の起源は、今を距ること凡そ八十餘年前、即ち文政年間に於て武藏國大森浦の人某、小糸川口に當る舊周准郡大堀、人見二部落の村民に築立の法を傳授したるを以て濫觴とす。天保年間に至り、稍や發達したるの跡あり。降つて維新以後明治二十年の頃までは尙未だ完全なる進歩を見る能はざりしが、近年頗る有望となり、各所に採取業行はるゝに至れり。殊に本縣水産試験場の創

設せらるゝや、木更津、八幡、船橋等の海面地先に養殖試験を爲し、又明治四十年以來、農商務省水産講習所に於て、市原郡五井町海面に試験地を設け、本縣水産試験場と共に斯業の試験を爲し、當業者を指導啓發せるの結果は、地元漁業組合をして、海面に築建を創始せしめ、各地とも現時の發達を見るに至れり。即ち海苔の主産地は、東葛飾郡浦安を始め、船橋、及び市原郡五井、君津郡の青堀、木更津、金田等にして、其の製品の大分は東京に輸出せり。

浦安海苔 東葛飾郡浦安に於ける海苔業の創始は、近く明治十九年頃なり。初め村内一二の篤志家築立をなし、海苔の着生を試験したるに、全然不結果に終りたるも更に屈する所なく、年々築立を續行し、遂に明治三十年に至り始めて好果を奏するを得たり。爾來漸進的發達をなし、今や東京本場と稱する海苔

縣立水産試験場海苔の養殖



は多く此地より生産し、其の品質の佳良にして産額の多大なること、縣下第一位を占む。

**海藻** 石花菜及び海蘿の生産地は、外房州并に夷隅、海上の沿岸を主とし、本品は寒天及び糊の原料にて、原草の儘若くは濱晒となして售賣に供す。搗布は東京内灣を除くの外は、各海濱至る所其の叢生を見ざるなきも、殊に外房州及び夷隅海岸を以て最多となす。本品は悉く沃度に化製さるゝものにて、其の採取法は挟み取り并に潜水器を使用するにあり。

**鯨、臙肭獸** 本縣捕鯨の濫觴は、安房國平郡加知山、岩井袋の兩村にして、慶長以前紀州より傳來したるもの、如しと雖、元祿十六年海嘯の爲め此等舊記概ね亡失し、文書の徴すべきもの無し。兩村捕鯨の元祖は醍醐新兵衛と云ひ、寶永元年安房捕鯨の元締となり、根據地を加知山に定め、一組數十艘の漁船三組を統轄し、槌鯨捕獲を目的とせり。爾來累世斯業を繼續せしも、時勢の變遷と共に一消一長し、維新以來種々の障害に際會し、捕鯨の業亦振はざりし。明治二十年農商務省技師故關澤清氏、伊豆國大島に鯨族の棲息するを發見するや、民間有志者を勧誘し、翌二十一年日本水産會社を安房郡豐津村に創設したりしが、二十三年該會社の解散と共に、關澤氏は同會社の遺業を引受け、房南捕鯨組を組織し、退官して槌鯨捕獲に従事せり。明治三十年關澤氏の死歿と共に該業又昔日の隆盛を見ず。當時の房總遠洋漁業會社現東海漁業會社は、同氏の漁具を讓受け、二三年前より漁船を改造し、大砲を以て捕鯨したりしが、四十年に至り諾威より百四十噸の汽船を購入して天富丸と命名し、海上

那銚子沖を漁場として、捕鯨業に従事せり。此他二三の會社亦各根據地を設け、競ふて鯨獵を爲すあり。銚子港の如き其の恩恵に浴する者多く、多獵の際は頗る繁榮を呈せり。鯨鬚、尾羽、畝黒皮、鯨肉の外、赤肉は多く罐詰とし、又鯨油を製す。近時更に鯨肉粕及び鯨骨粉等の肥料を化製せり。臙肭獸は、昔時銚子沖に於て刺網漁者の捕獲せるものありしと雖、之が遠洋漁業的組織を經營するに至りしは、明治三十二年房總遠洋漁業會社の創設を以て嚆矢となす。翌年又千葉遠洋漁業會社の設立を見るに至り、爾來繼續今日に及べり。而も各地の獵船相競ふて酷捕濫獲を極めたるより、逐年種族の減退を來し、亦昔日の盛況を見る能はざるに至れり。

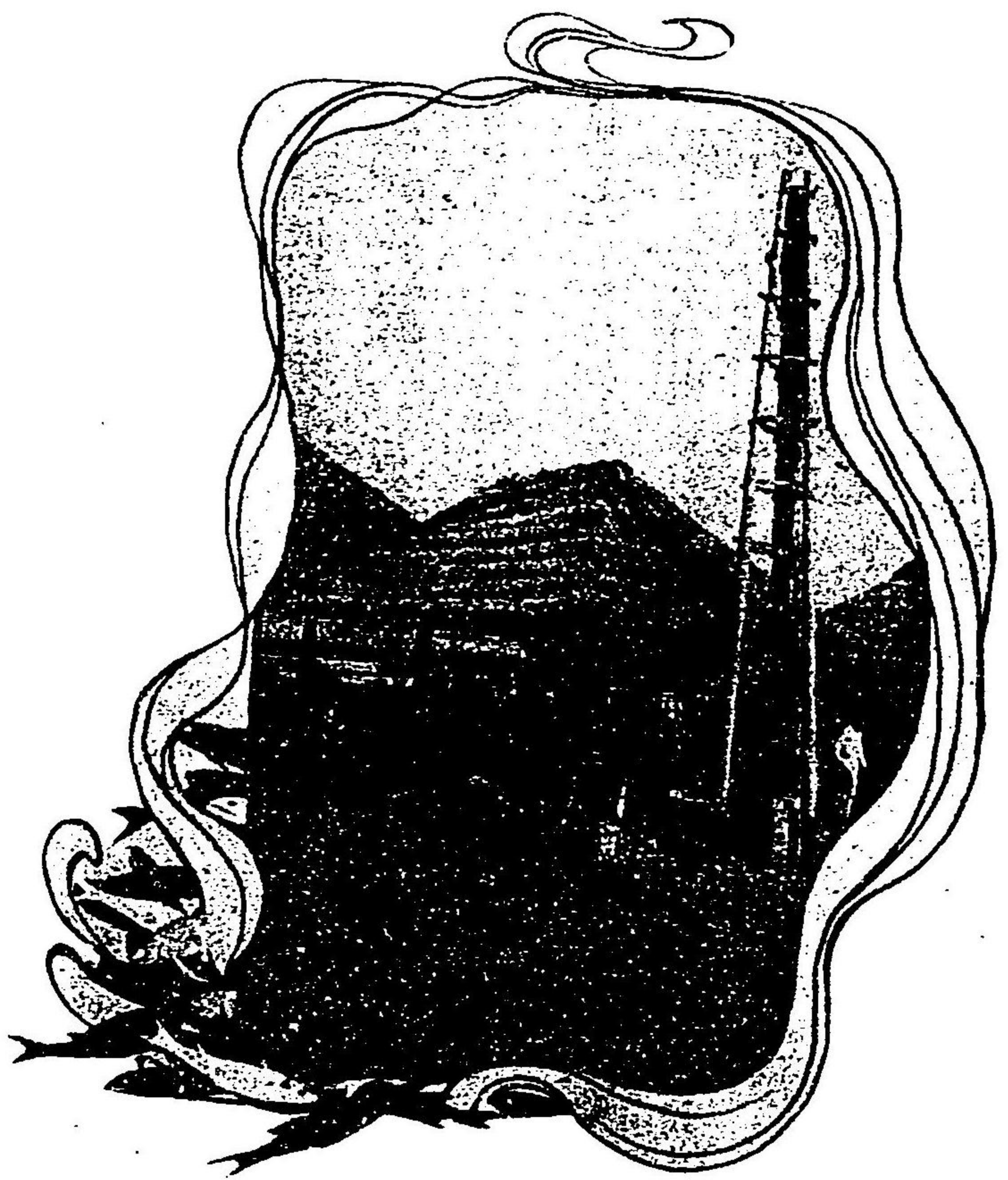
**鮭、鱒** 『坂東の一番鮭や太郎河』。鮭と鱒は之を利根川に産す。帝都に於て走りと稱し、膳上珍と稱せらるゝは多く本縣産なり。漁具は刺網、曳網及び無双網にて、都て生賣として供給す。

**鯉、鰻** 利根、江戸の二大川の外、印旛沼(周圍十二里)、手賀沼(同五里)、與田浦(同四里餘)の如き、廣大の淡水面あり、到る處其の栖息を見ざる無し。殊に利根川産の鯉魚は、容姿の勇麗なる、滋味の佳良なる、其の名噴々たるは夙に世人の知る所にして、鰻も亦色澤、形態、肉味等他地方に比し優良なり。而して銚子下り物及び手賀、印旛の所謂沼物たるサデアラの好物に至りては、東京市場第一の優品として稱美せられ、價格亦貴し。

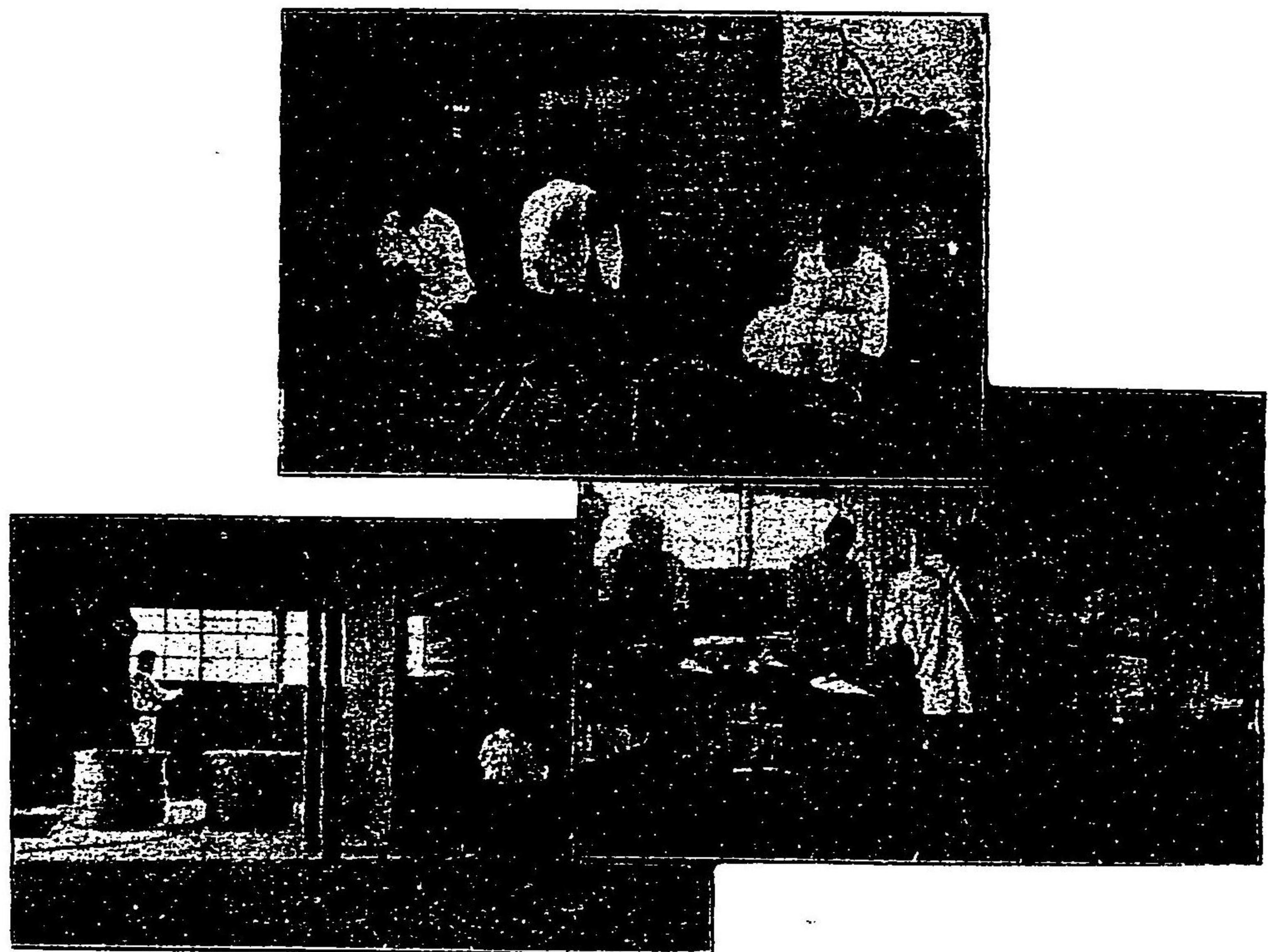
**水産試験場** 明治三十二年の設置に係り、夷隅郡勝浦町墨名に在り。専ら水産に關する漁撈製造養



殖の試験を行ふと同時に、其の成績の優良なるものに對しては、各地に練習部を置き、營業者を指導奨励して、製造技能の習熟を圖れり。該練習部の重なるものは、同場考按の鯉節製造聯竈及び速製焙乾室使用練習にして、同場内及び銚子町に模範練習部を開らさ、其の他鯉節製造技能の習熟を目的とする練習部は、安房郡江見村、太海村、山武郡片貝村、海上郡飯岡町、銚子町、高神村等に在り。煮干鯉に關しては、同場考案の四聯竈煮干鯉製造釜の製造上并に經濟上に於ける優越の成績を利用する爲め、安房郡鴨川町、夷隅郡大原町、山武郡片貝村の三箇所に、前記の聯竈を新築して練習を開始し、大原町、御宿村にありては竈を同場に採り、煮釜の改良せられたるもの約四十臺を算す。養殖試験は君津郡木更津町、市原郡千種村に模範養蠣場を設置し、試験の傍ら各重要なる季節に於て、養蠣の方法管理法等に關する練習部を開始せり。海苔の試験地は、市原郡



竈聯四竈造製干煮鯉

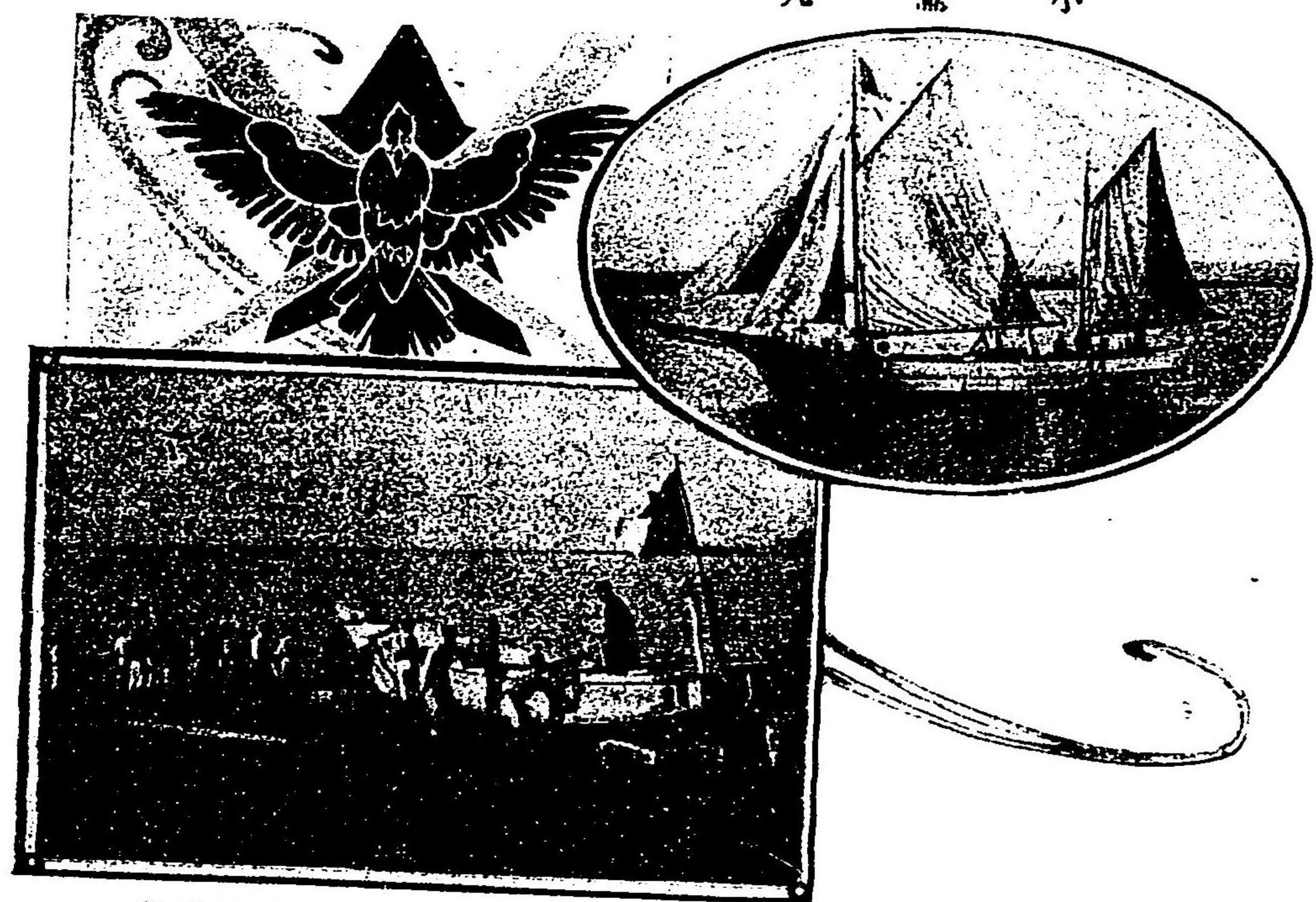


五井町に在り。水産講習所と聯絡を取り、主として五井浦の海苔業を奨励し、築建の粗密より生ずる利害得失を具體的に研究し、筵の製造、築建等に付き練習部を同所に開設せるが、同浦の海苔は創始の事業なるを以て、其の製造法に關し、練習部を同町に開けり。漁撈試験は、和船の改良漁船を用ゐ、航海上の安全及び操業の便否を試験したる結果、多くは營業者の採る所となり、更に進んで沖合漁業の試験を開始し。明治四十一年度に金八千餘圓を投じ、石油動力を有するケッチ型帆船坂東丸を建造し、爾來鯉節延繩、秋刀魚流網の試験をなしつゝあり。練習部は、帆船の操縦并に漁撈練習の爲め、該船を以て練習船とし、機關士の養成と併て船員の練習とを目的となせしが昨年十二月不幸風波の爲め船體を失ひたるは甚遺憾とす

る所なりとす。

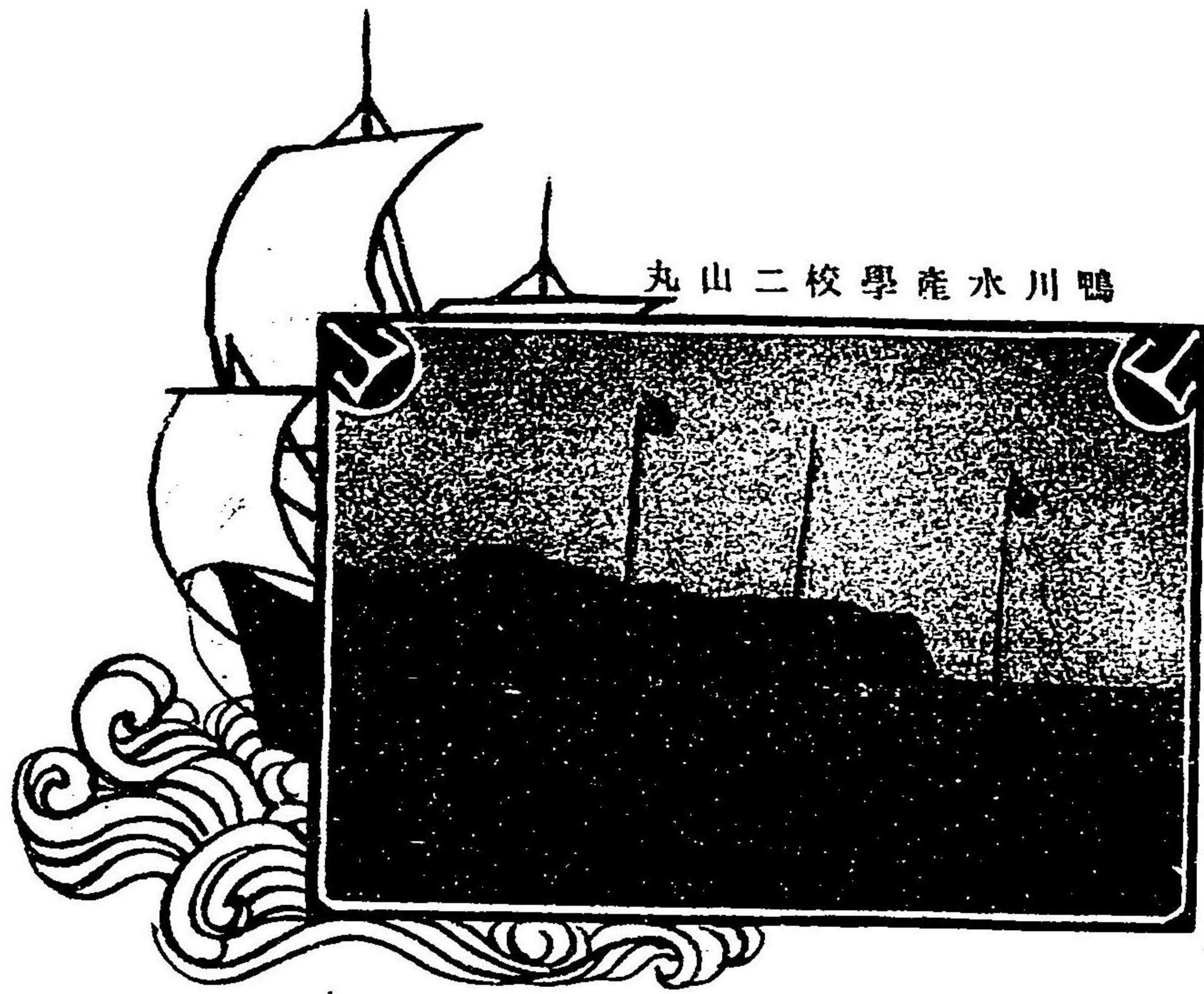
水産講習所 安房郡那古町に在り。初め水産試験場支場たりしが、明治三十九年三月、支場を廢して新に水産講習所となしたるものなり。水産に關する技術及び簡易なる學理の講習を爲すを以て目的とし、本科、研究科及び遠洋漁業科を置けり。本科生の修業年限は二ケ年にして、其の定員を三十名とし、研究科は本科卒業生にして、尙既修の學業を攻究せんとする者の爲に設け、其の修業年限を一ケ年とし、又遠洋漁業科は、遠洋漁業獎勵法に依り、漁獵員を養成するを目的とし、其の修業年限は二ケ年若くは三ケ年とす。農商務大臣は、本所遠洋漁業科卒業生に試験を用ゐず、丙種漁獵長の免狀を受くべき資格あるものと認定せり。講習所生徒の練習船は、從來日本形帆船富士號ある

小 鷲 丸



縣立水産講習所生徒出漁準備

に過ぎざりしが、縣は四十二年度に於て約六千五百圓を以て、ケッチ型石油發動機附二十一噸の練習



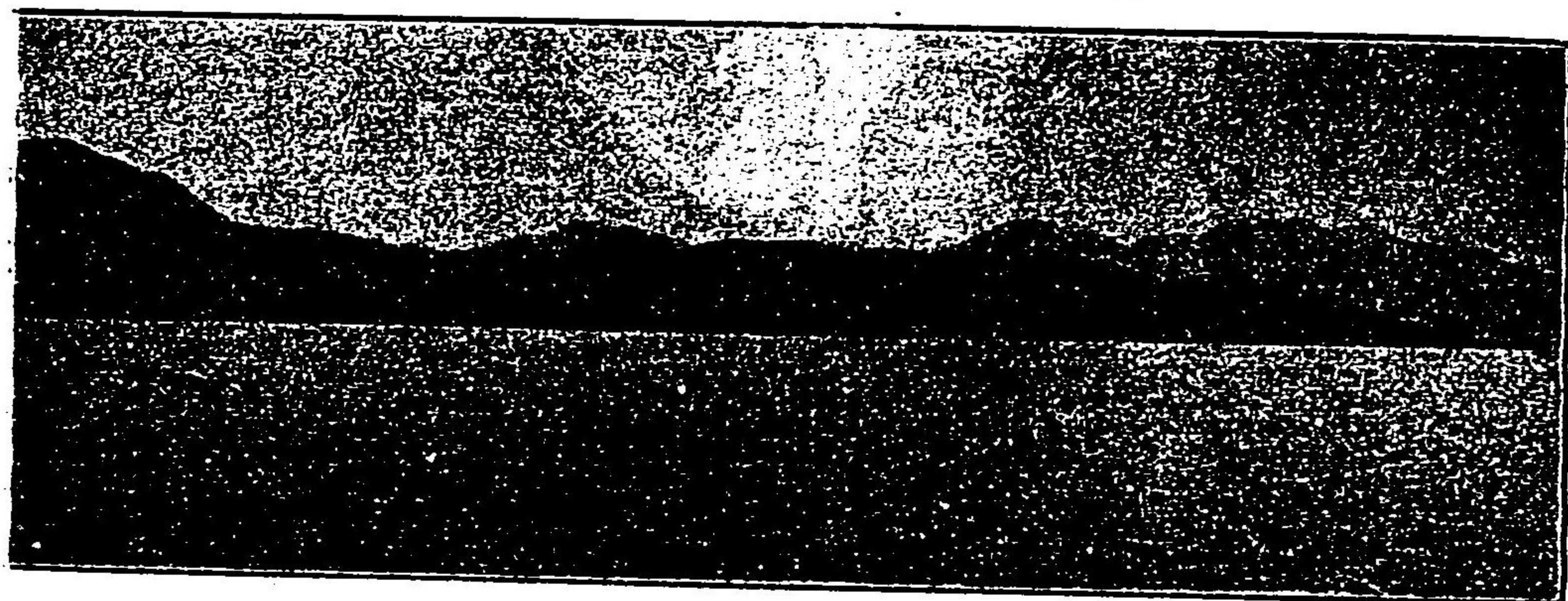
船一隻を建造し、之を小鷹丸と命名して、爾來生徒の漁撈練習に供用せしめつつあり。  
 韓海漁業の起因 輓近我千葉縣下に於ける漁業の狀態



縣立水産講習所生徒干餾製造の實況

は漸次變遷し、古來本邦地曳網の漁場として著名なる九十九里濱の如きも、人口の増加に伴ひ漁場の

千 浦 山 馬 海 韓

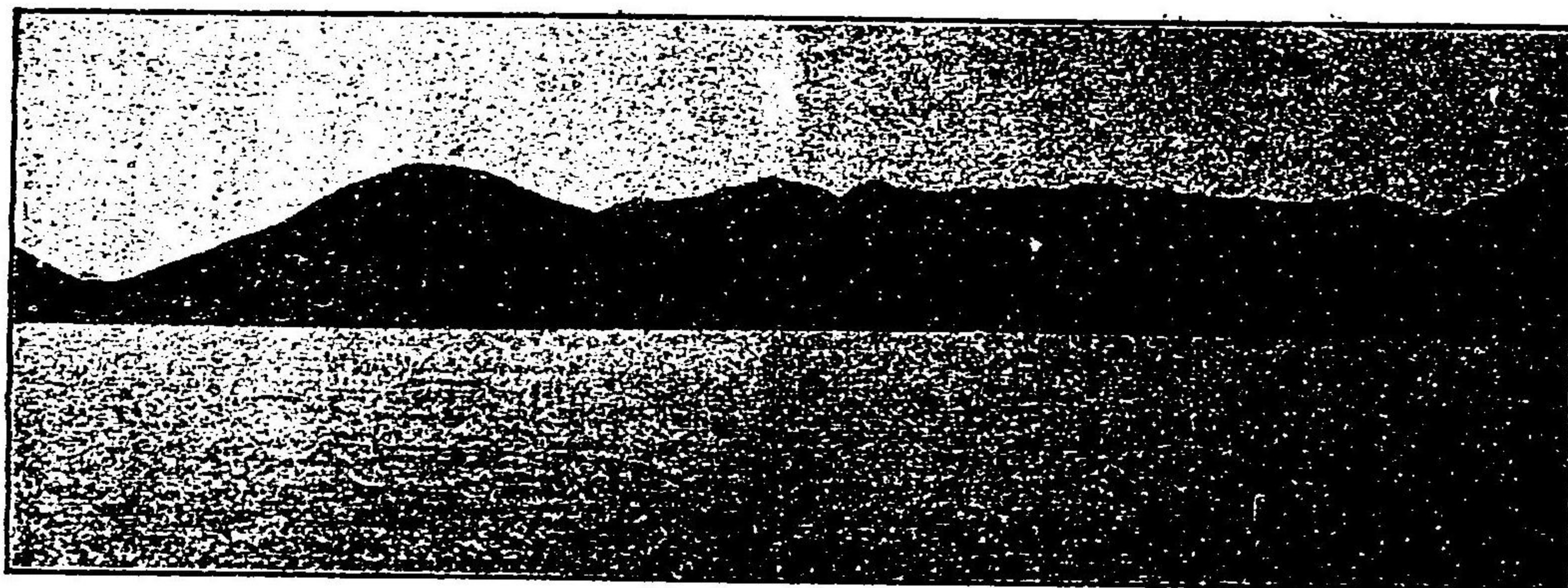


産業要覽

狹隘を來せるのみならず、潮流亦變化を來せる結果、漁獲高亦從て減却し、明治三十六年の如きは、多數漁民の路頭に彷徨する者を出すに至りたり。此に於て本縣は沿海漁業の改良振作に一層の獎勵を加へたりと雖も、趨勢は到底之を挽回し得べからざるものありとなし、努めて沖合に漁場の擴張を圖りて、耐濤性を有する模範的漁船を建造せしめ、或は又伊豆七島に入漁の交渉を開始し、尙更に進で他國沿海に漁場を索むるの方針を取り、明治三十七年九月漁場調査の爲め技師を朝鮮に派遣するに至りたり。依て本縣水産組合聯合會に於ても、亦同様の目的を以て役員を派遣し、共同踏査したる結果、當時露國の所有地たりし馬山浦栗九味灣は、漁業上最も適當且つ有望の地なりと認めたるを以て、時の馬山浦領事に交渉し、夫より同地を本縣漁民の根據地と定め、茲に始めて出漁の計畫を爲すに至れり。

**韓海漁業團の成立** 右の計畫を實行し、韓海漁業の經營に着手したるは、即ち水産組合聯合會にて、明治三十七年十月聯合會は之が爲めに其の資本金約九千四百餘圓を支出し、先づ第一着として漁民五十名を移住

景 全 の 村 葉



産業要覽

せしめ、次で翌三十八年更に漁民三十餘名を送り、諸種の漁業に従事せしめたり。然るに當時草創の際、幾多の不便と困難とは、豫期の効果を奏する能はざりしのみならず、其の經營を完うせんには尙多大の施設を要するものあり。依て先づ其の施設に要する資本の充實を圖るの緊急なるを認め、茲に組織變更の議起り、遂に明治三十九年四月本縣水産業者中の有志を糾合して、假に其の資本金を一萬圓と定め、千葉縣韓海漁業團なるものを組織し、以て水産組合聯合會の經營に係る韓海事業を繼承したり。

**韓海漁業團の經過** 明治三十九年組織以來、漸次設備の完整を告ぐると共に漁業の發展を圖り、今や基礎漸く定まる。此の間、幾多移住漁民の風土病に冒さるゝあり、監督の兇手に墮るゝあり、或は新創の事業、全く其の經驗の智識を缺くが爲めに意外の失敗を來たすあり、一時殆んど蹉跌の悲運に陥らんとしたるも、移住漁民は漸次彼地漁業に習熟したる爲め、稍々好望を前途に繋がしめり。本團の經費年々三萬餘圓、縣は之に對し三十九年度に於て七千圓、四十年年度以來年々五千圓の補助を支

産業要覽

給せり。近來漸く事業發展の緒に就き、昨年の如き鯖漁に於て一生面を開き、同團の經營は、大に内外の注目を惹くに至れり。

**千葉縣水産組合聯合會** 本會は、明治十四年以來幾多の變遷を経て、明治三十五年に至り水産組合規則の發布せらるゝや、同法に基き之れを設置し、爾來今日に及べり、其重なる事業は、講習、講話、韓海漁業の經營、遭難者遺族弔慰、養殖試験等にして、之に要する經費は、各水産組合の負擔なりとす、而して縣は、明治三十六年度以降、年々補助金を與へ、以て斯業を奨勵しつゝあり。



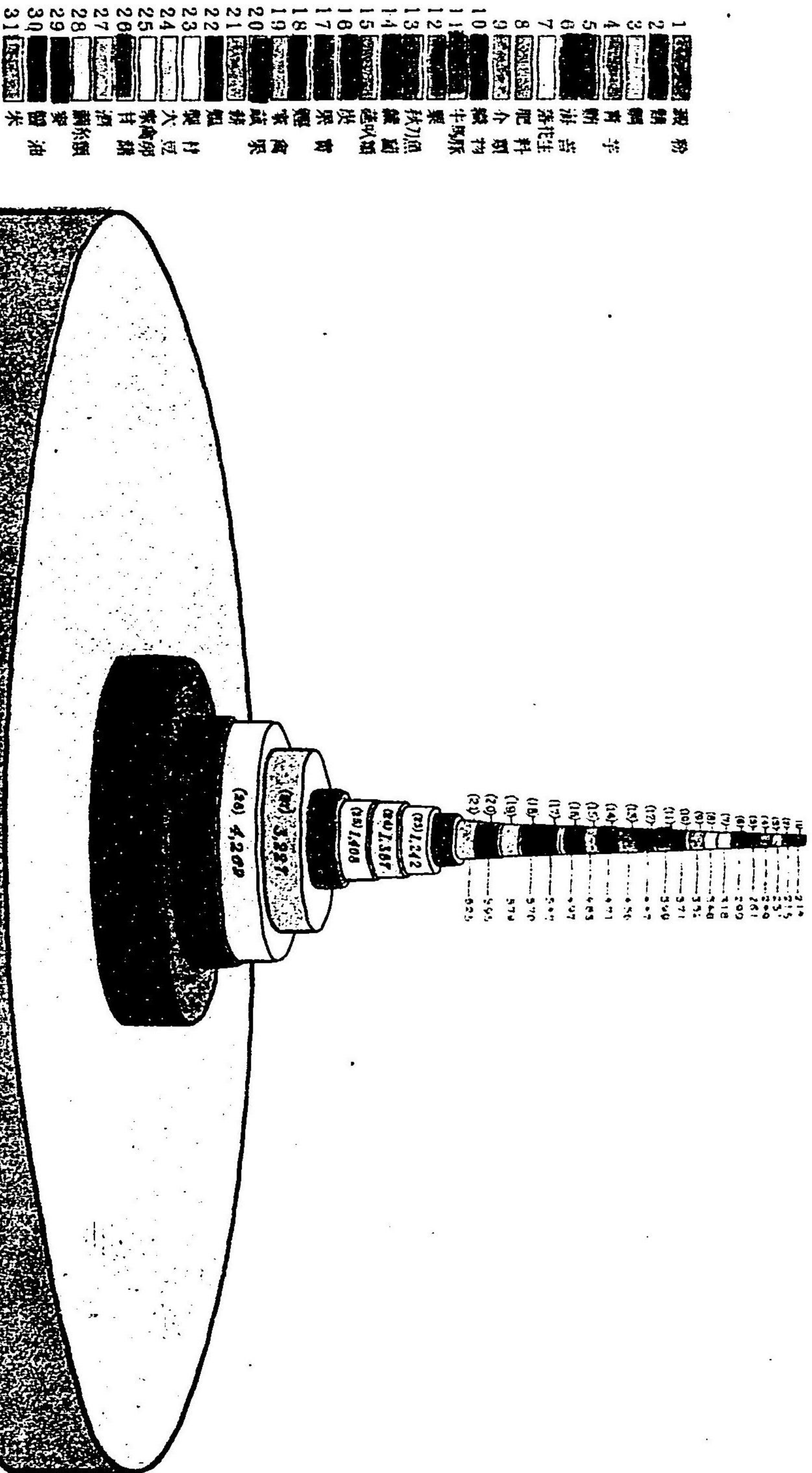
小松宮殿下御歌

大御國富さむ道をわたつみの

浪の底まで開き盡せよ

千葉縣物産比較

〔明治二十八年三月八日三十三日明治三十四年三月十二日物産比較表〕



## 工業



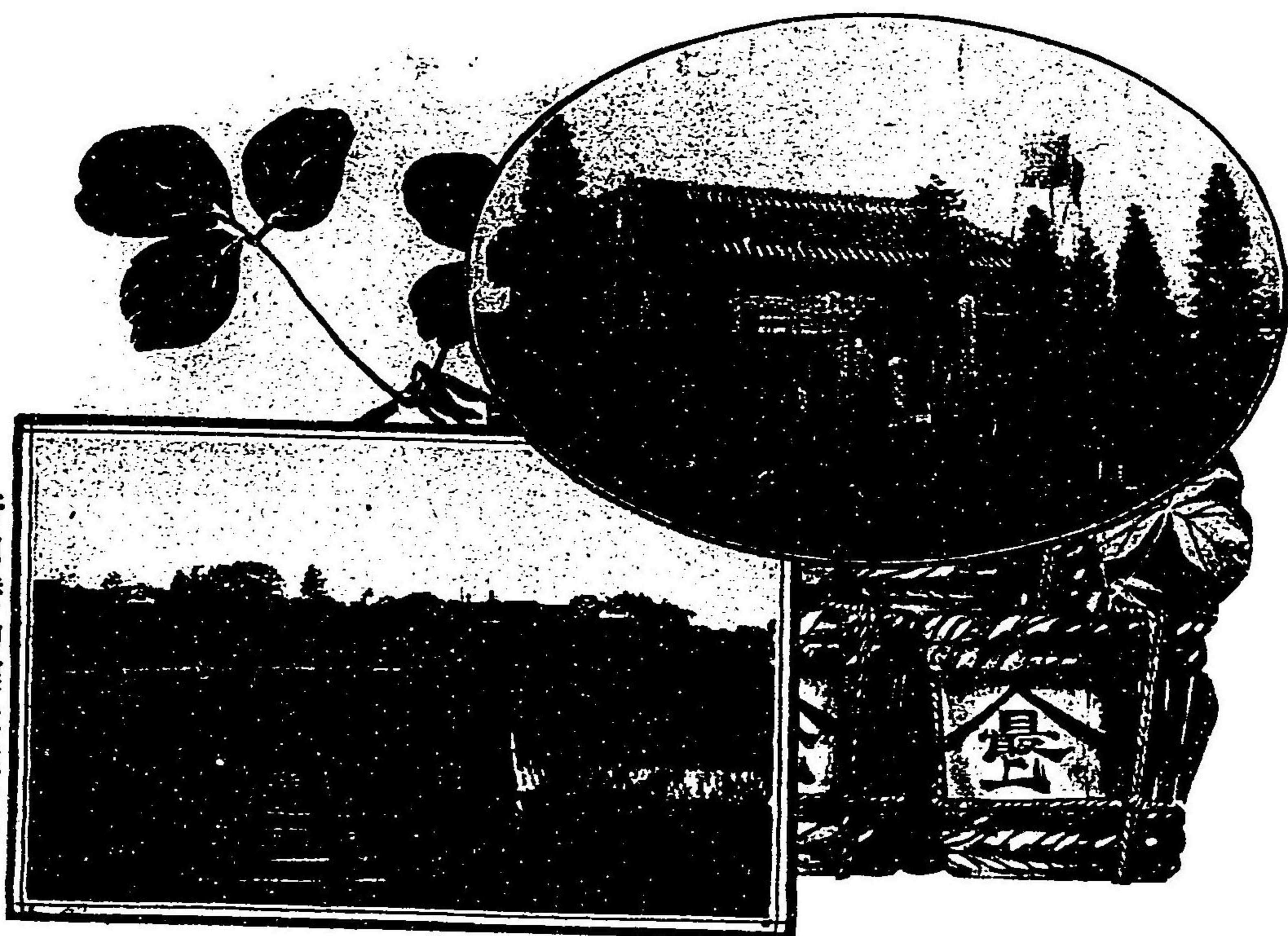
觀 本縣は、京濱の大市場に近接し、從來原料品の供給地として立ち、地勢及び四圍の關係上、農産及び水産を主としたれば、工業は勢ひ自ら振はず、其の製産の發展せざる、亦怪むに足らず。然れども醤油及び酒類、油類の如きは、工場工業として見るべく、特に醤油に至りては、本縣の特産として名聲中外に洽ねし、是れ最も誇るに足れり。今最近の統計に依り、重要工産物の種類及び數量、産額を擧ぐれば左の如し。

種別	數量	價	額	種別	數量	價	格
醬油	二九二、六三七 <sup>石</sup>	六、六二四、四四五 <sup>円</sup>	筵	吹	七、三三五、二九八 <sup>枚</sup>	三七一、六七六 <sup>円</sup>	
清酒	六八、六七五	二、四三一、〇二一	製油		六、〇六〇 <sup>石</sup>	二二三、八三四	
味淋	一三、四三五	七四七、八六四	澱粉		六一五、二四八 <sup>貫</sup>	二二一、三七一	
織物	反物 四五九、五六〇 <sup>反</sup> 帶地 六七三	三八二、二五八	油	粕	四四二、三三九	八九、〇八一	

本縣工産物にして多少海外に輸出せらるゝものは、醤油、油類、生絲、經木真田、竹細工品及び蔬菜乾燥品の内切干大根の類、數種に過ぎず。

醤油 本縣の一大特産として、普く天下に需用せられ、好評内外に高し。其の品質の優良、風味の

野田醬油醸造場



野田醬油醸造試験所

の産額最も多く、銚子之に次ぐ。全縣下に於ける醸造場数は五百六十八箇所に達し、此内前記三地に在るもの百三十九箇所。蒸汽機關を用ゐて醸造するもの十一箇所及び、將來益々發達の勢あり。

清酒 醬油に次ぎ産額最も多く、縣下各郡之が産出を見ざるなく、就中香取、佐原地方の清酒は、品質佳良にして古來關東灘の稱あり。近年益々其の醸造法の改良に努め、販路逐年増加し、東京、神奈川、茨城、埼玉等の各府縣に輸出せらる。明治三十三年以來、各郡に酒造組合を設け、三十八年聯合會を組織し、營業の振興を計り、時々酒造講習會又は酒類品評會を開催し、改良發達を促せり。酒に於て最も古き沿革を有するは香取郡佐原町なり。

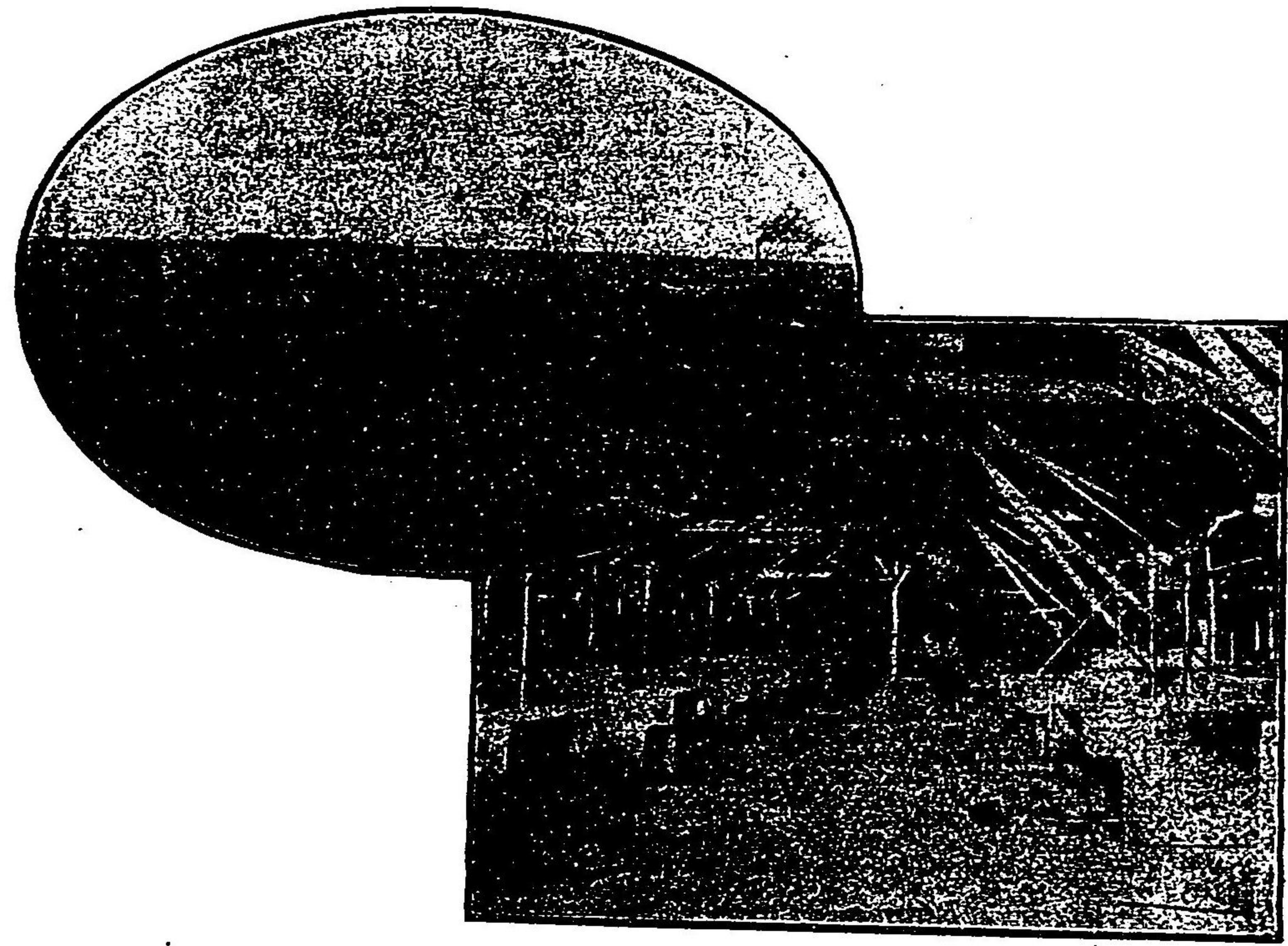
味淋 明和三年即ち今より約百四十年前、流山町に於て之を製造したるに始まる。爾來同地の當業者多年改良に苦心の結果、遂に優良品を製出するに至れるなり。味淋の名は、元と舶來密林酒に倣ひ醸造せしより淵源すと云ふ。近年著しく其の需要を増加し、東葛飾、香取、安房等に産するも、流山及び佐原味淋の名最も高し。

千葉縣酒造組合聯合會 本會は明治三十五年縣下に於ける千市、山武、香取、印旛、海匝、安房、君津、東葛飾、長生、夷隅の各酒造組合を以て組織し、越へて明治三十八年法律第八號に依り酒造組合法の發布せらるゝや同年七月之を解散し、同法に依り更に本會を設置し爾來今日に及べり其の重要な事業は酒類品評會の開催、醸造法の講習講話、實地指導、用水の調査、杜氏の表彰、麴蘖檢定等にして之れに要する經費は各酒造組合の負擔なりとす、而して明治三十六年以來縣は相當の補助を與へ以て斯業を奨励しつゝあり。

織物 大部分は綿織物にて、絹織物及び絹綿交織物等は極めて少なし。所謂上總木綿は、本縣の織物にて近年多少改良を加へたるも、意匠尙幼稚にして時代の嗜好に適せざるの憾みあり。明治二十四年以來、各郡に公立染織學校の設立あり、國費及び縣費より之に補助を與へ、以て斯業の改善を圖れり。

上總木綿 其の特色は品質の堅牢なるに在り。古來より之が機織行はれたり。舊記に曰く、上古天

銚子醬油釀造所



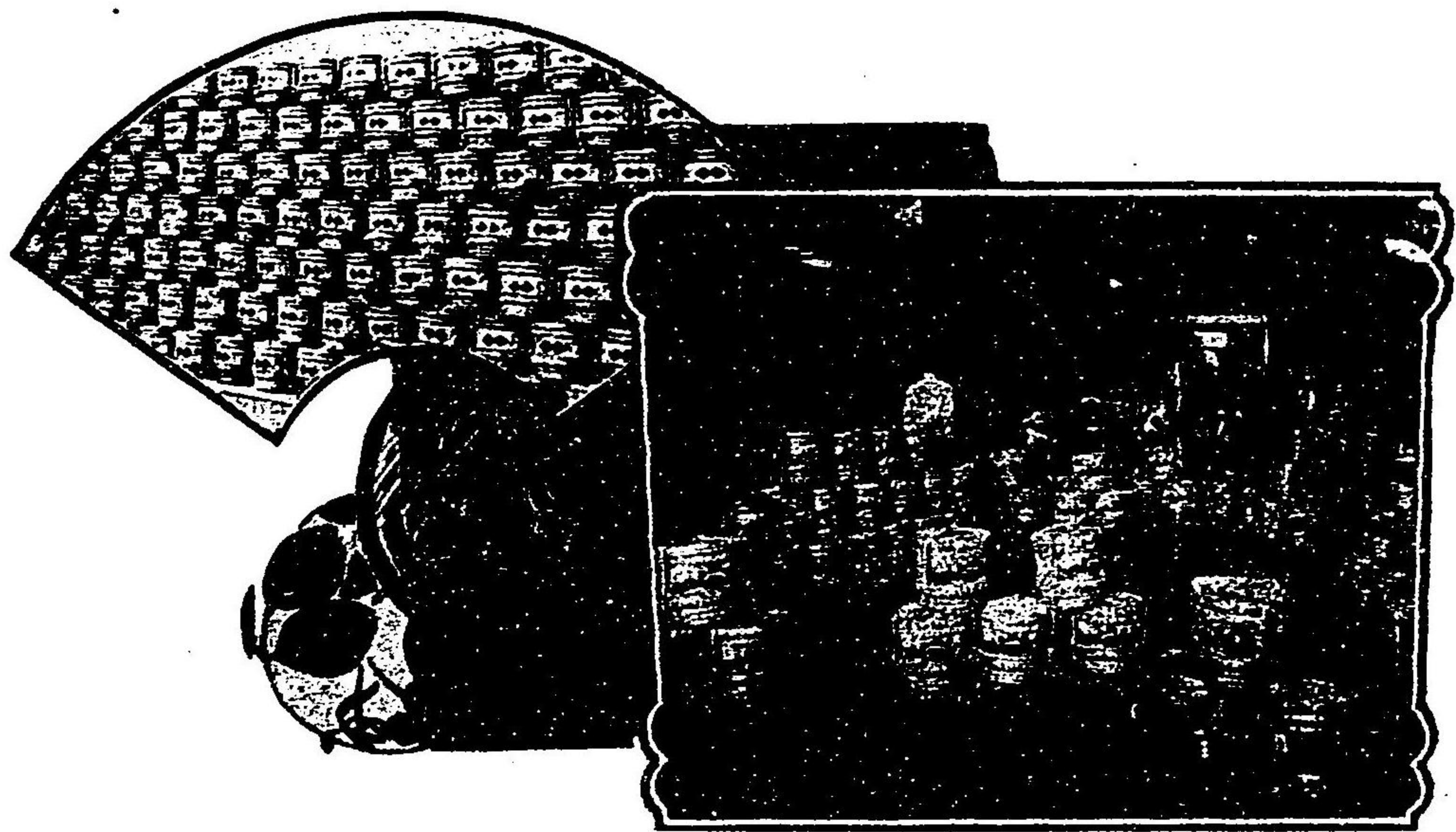
銚子醬油壓搾場

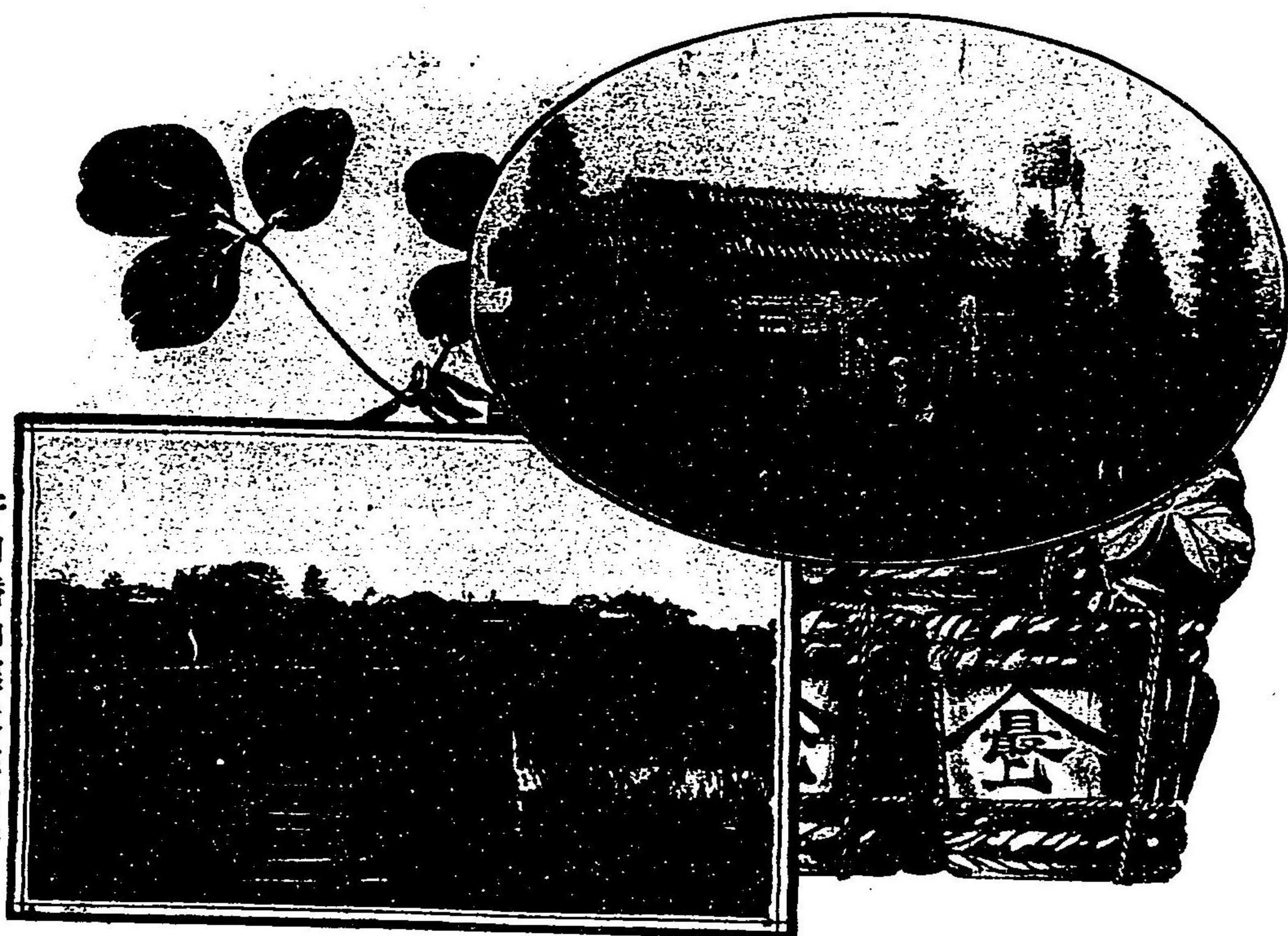
佳美、全國無比と稱せらる。之が沿革を温ぬるに、事績區々にして其の揆を一にせざるも、今を距ること約三百年前、即ち元和二年の頃、攝州西ノ宮の酒造家眞宜某なる者、銚子に來り醬油釀造のことを傳授し之を受けて創業したるを以て、本縣に於ける醬油釀造の嚆矢とするが如し。正保二年に至り紀州有田郡の者銚子町に移住し、一井を穿鑿して之を檢せるに水質極めて善良なりしのみならず、氣候亦温和にして本業に好適なるを認め、爰に釀造を試みしに果して良品を得たりと。享保及び寶曆の際、東葛飾及び香取郡等に釀造家起るに至れるが、野田町に於ける起源は、寶曆三年飯田某なる者、醬油釀造を試みたるを以て開祖となすと云へり。爾來各地に之を釀造する者増加し、漸次發展すると

共に、製造者競ふて製品の改良を圖り、四方に聲價を博して、東京其の他關東各地に本品の需要せられざるなく、販路大に擴張せり。降て明治維新の後、泰西文化の輸入せらるゝに及び、野田、銚子の當業者、新進の學理を應用して釀造の法を改良し、又は汽機を使用して舊來の工場組織を革新し、以て益々品質の改善と製産費用の節約とを圖り、一般斯業者を警醒する所多く、茲に本縣醬油釀造業に一新紀元を開き、以て今日の盛を見るに至れる也。

**最上醬油** 『最上醬油』の記號は、野田、銚子の醬油が、幕府より特典を得て冠せられたるの名なり。産額の大と品味の佳と、卓然として全國第一位に在る本縣の醬油は、東京を最大需要地とし、内地は勿論、北海道及び臺灣より朝鮮に至る迄販出せられ、更に販路を海外に擴張し、米國、布哇、英國、濠洲、浦潮、及び清國等に輸出せらる。本品の主産地は、野田、銚子、佐原の三箇所にして、就中野田

銚子醬油釀造場の一部と輸出の標





野田醬油醸造試験所

の産額最も多く、銚子之に次ぐ。全縣下に於ける醸造場数は五百六十八箇所達し、此内前記三地に在るもの百三十九箇所。蒸汽機關を用ゐて醸造するもの十一箇所及び、將來益々發達の勢あり。

清酒 醬油に次ぎ産額最も多く、縣下各郡之が産出を見ざるなく、就中香取、佐原地方の清酒は、品質佳良にして古來關東灘の稱あり。近年益々其の醸造法の改良に努め、販路逐年増加し、東京、神奈川、茨城、埼玉等の各府縣に輸出せらる。明治三十三年以來、各郡に酒造組合を設け、三十八年聯合會を組織し、營業の振興を計り、時々酒造講習會又は酒類品評會を開催し、改良發達を促せり。酒に於て最も古き沿革を有するは香取郡佐原町なり。

味淋 明和三年即ち今より約百四十年前、流山町に於て之を製造したるに始まる。爾來同地の當業者多年改良に苦心の結果、遂に優良品を製出するに至れるなり。味淋の名は、元と舶來密林酒に倣ひ醸造せしより淵源すと云ふ。近年著しく其の需要を増加し、東葛飾、香取、安房等に産するも、流山及び佐原味淋の名最も高し。

千葉縣酒造組合聯合會 本會は明治三十五年縣下に於ける千市、山武、香取、印旛、海匝、安房、君津、東葛飾、長生、夷隅の各酒造組合を以て組織し、越へて明治三十八年法律第八號に依り酒造組合法の發布せらるゝや同年七月之を解散し、同法に依り更に本會を設置し爾來今日に及び其の重要な事業は酒類品評會の開催、醸造法の講習講話、實地指導、用水の調査、杜氏の表彰、麴蘖檢定等にして之れに要する經費は各酒造組合の負擔なりとす、而して明治三十六年以來縣は相當の補助を與へ以て斯業を奨勵しつゝあり。

織物 大部分は綿織物にて、絹織物及び絹綿交織物等は極めて少なし。所謂上總木綿は、本縣の織物にて近年多少改良を加へたるも、意匠尙幼稚にして時代の嗜好に適せざるの憾みあり。明治二十四年以來、各郡に公立染織學校の設立あり、國費及び縣費より之に補助を與へ、以て斯業の改善を圖れり。

上總木綿

其の特色は品質の堅牢なるに在り。古來より之が機械行はれたり。舊記に曰く、上古天



富命、阿波の齊部を率ゐる沃壤を求めて此地方に移住し、麻穀を播殖し麻布を織成せり。後、成務の朝に至り棉を栽培して始めて之を織物となすと。爾來斯業の盛衰明ならざれども、今を距ること凡百年前文化五年の頃、長生郡茂原の者、其の地方に産出する綿織物は地質堅牢にして一般の需要に適應するを認め、之を各地へ販出したりが、是より上總木綿として世に知られたり。降て安政五年の頃同郡關村の人、上州地方の機業を視察し、始て高機と稱する手織機を模造し之が使用法を附近の者に授け、傍ら工女の養成に勉むる等専ら斯業の普及改良を圖りしに依り著しく發達したり。

銚子縮 其の淵源は史書の徵すべきものなしと雖も、古來銚子縮木綿なる物産を以て其の名遠近に聞へ、全國に賣れ行きしも、時勢の推移に伴ひ之れが改良行はれず、徒らに舊風を貴ぶの結果世の流行に後れ、今や其の産額微々として振はず、年々退歩の状況なり、去れば機業家之れを憂ひ其の非運を挽回せんが爲め、本年二月産業組合法に依り有限責任銚子機業信用購買販賣組合を設立し、粗製濫造の弊を防止すると同時に染色に化學を應用し機織に利器を求め、製費を節減し、尙販路の擴張を爲す等斯業改良の端緒を啓くに至れり。

製油業 多くは農家の餘業として經營せらるゝも、工場組織のもの數箇所あり。製品の種類は、菜種油、胡麻油、落花生油、桐油、綿實油、荏油等とす。菜種油及び胡麻油等は、維新後石油の一般に用ゐられし爲め、一時衰退に赴きしが、近時諸工業の勃興に伴ひ需用増進し、落花生油は、明治十年

の頃匠瑳郡の者、小粒落花生の製油原料として適良なるを認め製油したるに始まり、食料の外に、毛織製造若くは石鹼原料として需用せらるゝが故に産額増加せり。其の品質の優良にして産額の多量なる、多く匹儔を見ず。

澱粉業 主として絹織物の機糊とし、菓子類、蒲餅、又は齒磨粉、精製紙等の原料として用ゐらるる澱粉は、千葉郡蘇我町及び千葉町を首位として、甘藷及び馬鈴薯により各地に製造せらる。本縣は甘藷、馬鈴薯の産出豊富にして、且つ其の品質良好なるを以て、澱粉も從て優良なり。加之ならず之が製造法改良せられ、大に品位を高めたれば、販路益々擴張せられ、年々好況を呈せり。

由來と功績者 甘藷澱粉は今より約八十年前、千葉町千葉寺區五田保の花澤紋十なる者之を製造したるに始まる。天保七年野州の中里某なる者此地に來り、山葵おろしを用ゐる手摺にて甘藷より澱粉を製することを教へ、紋十は自ら之を製造すると共に隣人に其の方法を傳習せしめ、遂に斯業發達の基を開きたるなり。本縣澱粉業の今日あるは、故紋十の遺業に由ると云ふべし、紋十資性謹直、夙に志を殖産興業に勵し、澱粉製造に於て殊功あり。依て明治四十三年十月、賞勳局は紋十の孫紋之助に對し、銀盃一個を下賜し、其祖父の功績を追賞せられたり。

筵及吠 農家婦女子の内職として製作せられ、日清日露の戦役に際しては軍需品として多量に買上げられたり。肥料の製造及び諸工業の發展に伴ひ需用多し。長生郡の産出最も多く、夷隅、市原の二

郡之に次ぐ。

建具類 山武郡睦岡村地方及び安房郡清澄山附近に於て、戸障子板戸等を多産す。所謂上總戸は、山武郡内に於て製作せらるゝものなり。製品の一部は京濱及び近縣へ販出し、近來滿洲朝鮮地方へ輸出せらるゝに至る。竹細工 海外輸出向と内國向との二種あり。輸出向は専ら籠類にして、



澱粉製造場



夷隅郡清海村及印旛郡佐原町の二地にて製作し、内國向は竹行李を主とし、夷隅郡老川村地方にて製造す。本縣は各種竹材に富み、且つ工賃低廉なるを以て、竹細工に好適せるのみならず、其の技に於ても亦漸く精緻を加へたるを以て、市場に好評を博せり。

經木眞田 婦女子の内職として殆んど一般に製作せらるゝも、東葛飾、千葉、海上、香取等に最も多く製産せらる。最近の産額三四萬圓。

罐詰業 各種罐詰中、最も多きは魚類とす。然れども本品の製造は、種々の設備を要し、經營容易ならざ

ると、且つ近來魚肉は需要増加し價格騰り、鮮魚のまを販賣するを以て寧ろ利益とするが故に、之が製造者多からず。

成田物産陳列館 成田町の町立にして、明治四十二年度より工費二萬五千圓を以て新築の工を起し、縣は之に對して一萬圓の補助を支給せり。其の陳列品は、曩に千葉町に在りし千葉縣物産陳列館の諸品及び本縣各種産物の外、更に内外の物産を廣く蒐集し、完全を期する計畫あり。同町は關東の靈場として、四方賽詣の客、一年五十萬を下らざる般賑の地なれば、地方の産物を紹介するに於て、最好適地たるを失はざる也。

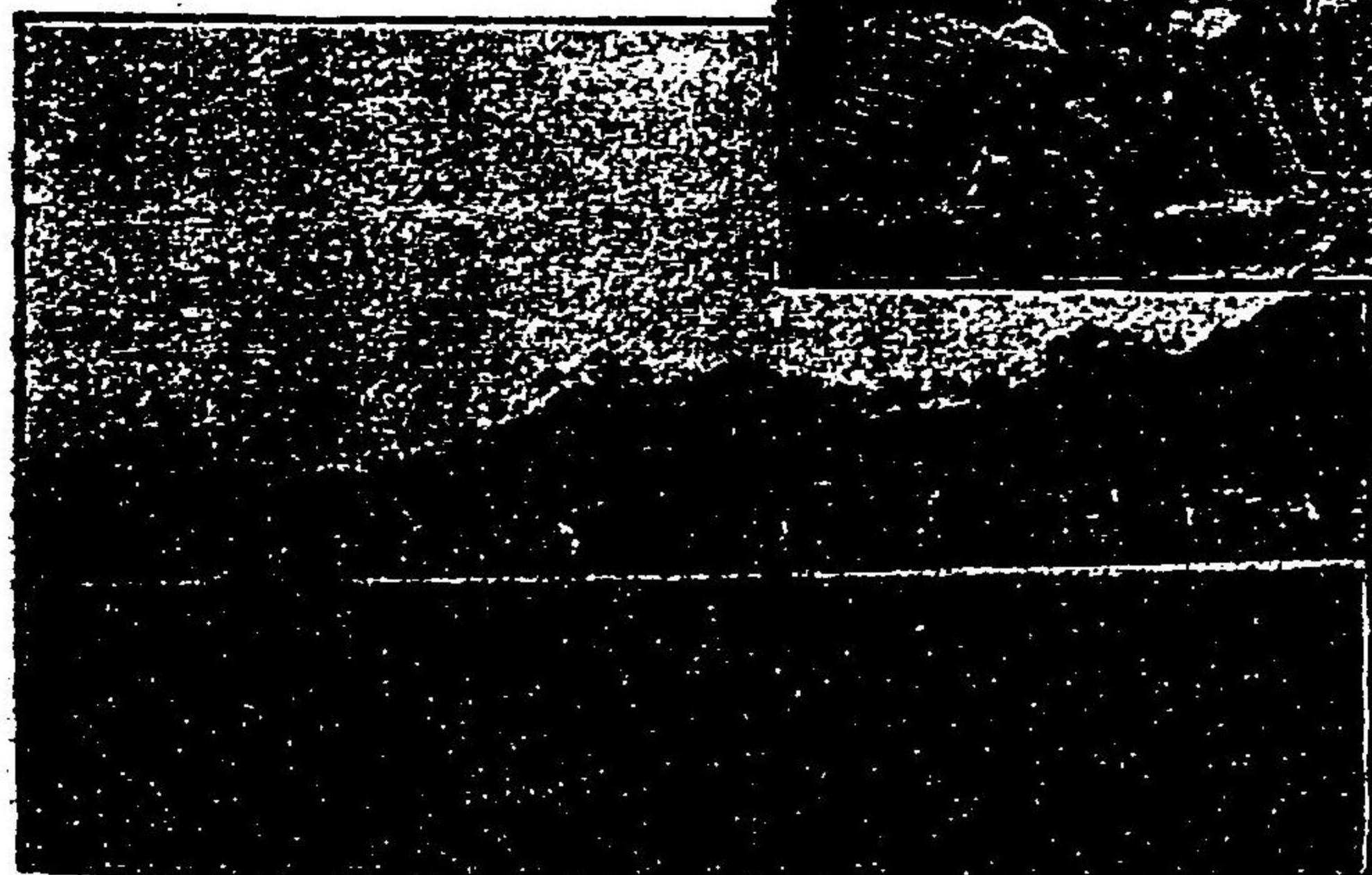
### 産業組合

設立獎勵 産業組合は、勸業政策に於て最も必要なるを以て、縣は屢次講習會又は講話會を各地に開催し、

産業要覽



製造の實況



疾走中の荷車

其の設立を鼓吹する所あり。又農會には産業組合に關する専門の主任者を採用して之が獎勵に努めしめたり。本縣に於ける産業組合は、明治三十四年君津郡に於ける有限責任吉野信用組合の設立を嚆矢とし、漸次各地に勃興し、今や百八十に垂んとするに至り、猶ほ益々増加を見るの形勢なり。既設の組合は、何れも良好の成績を收め、地方産業の發達と風紀の改善とを圖り、其の活動見るべきもの少からず。

模範組合 産業組合中、君津郡有限責任吉野信用組合及び匝瑳郡南條村有限責任母子信用組合は、成績優良なるを以て、模範組合として、曩に大日本産業組合中央會より表彰の榮を得たり。



ともく心あはせてつとめなは 讀人不知  
やかて御國の富やますらむ

むつひあへは根さしことなる人くさも 税所萬子  
つらなる枝にかはらさりけり

明治四十四年五月七日印刷  
明治四十四年五月十日發行

# 編纂者 千葉縣

千葉縣千葉郡千葉町千葉五百廿二番地

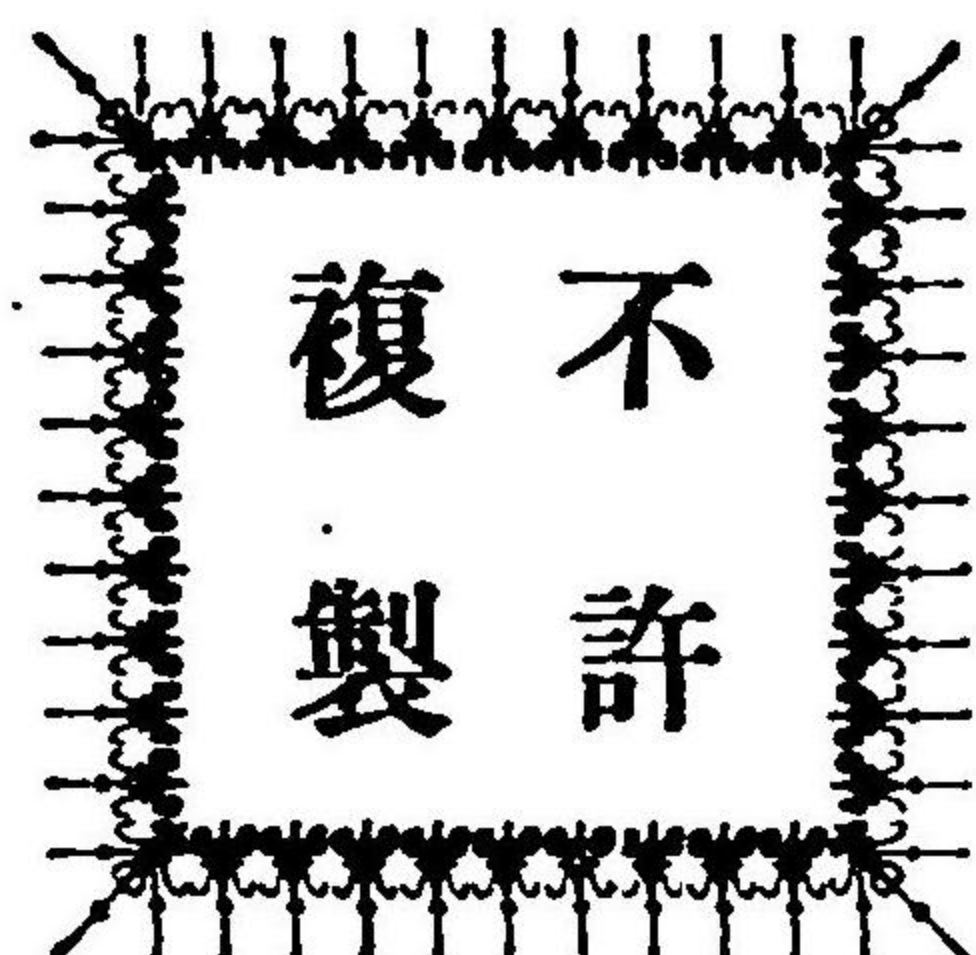
發行者 能勢鼎三

東京市神田區南乗物町十五番地

印刷者 葛西虎次郎

東京市神田區南乗物町十五番地

印刷所 青雲堂



千葉縣千葉郡千葉本町三丁目

發行所 多田屋支店

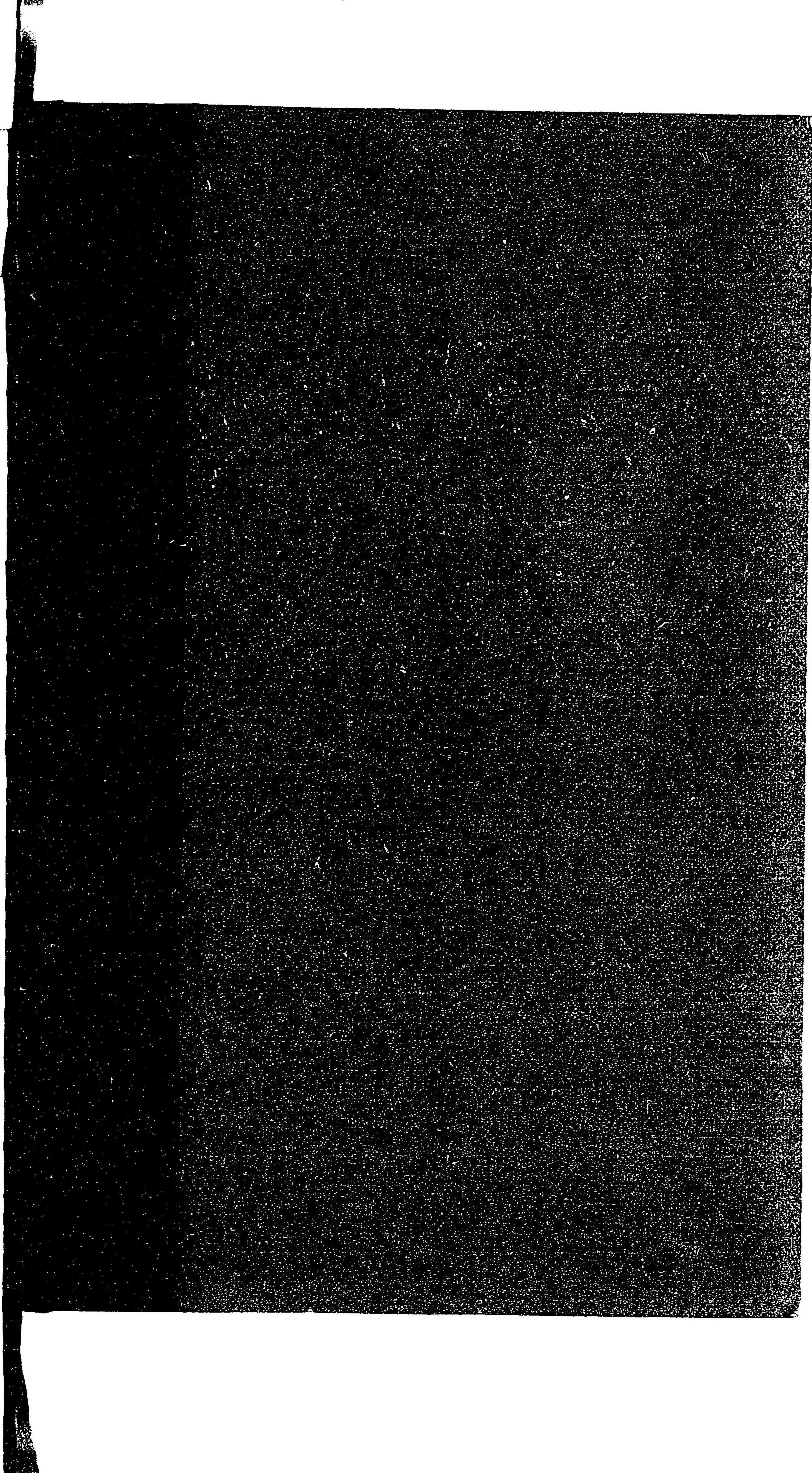
329  
480

THE  
RECORD  
OF THE  
PROCEEDINGS  
OF THE  
COURT  
OF COMMON PLEAS  
FOR THE COUNTY OF  
MIDDLESEX  
IN THE  
MATTER OF  
THE  
ESTATE OF  
JAMES  
M. WILSON  
DECEASED  
ADMINISTRATED BY  
JAMES M. WILSON  
AND  
JAMES M. WILSON  
JUNIOR  
AS  
EXECUTORS  
OF HIS WILL  
IN  
TESTAMENTARY  
PROCEEDINGS  
FILED  
IN  
THE  
OFFICE  
OF THE  
CLERK  
OF THE  
COURT  
ON  
THE  
15TH  
DAY  
OF  
MAY  
1900  
AT  
NEW YORK  
BY  
JAMES M. WILSON  
CLERK



327

480



327

480

041891-000-6

327-480

産業要覧

千葉県／編

M44

BDI-0540





28. 7. 8